

広陵町男女共同参画に関する意識調査 調査結果報告書

令和4年12月

広陵町

目次

I 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査設計.....	1
3. 調査内容.....	1
4. 回収結果.....	1
5. 結果の見方.....	2
II 調査結果.....	3
1. あなたのことについて.....	3
(1) 性別.....	3
(2) 年齢.....	3
(3) 小学校区.....	4
(4) 配偶者またはパートナーの有無.....	5
(5) 世帯構成.....	6
(6) 末子の年齢.....	7
2. あなたの仕事・生活について.....	8
(1) 仕事の有無.....	8
(2) 雇用形態.....	9
(3) 配偶者またはパートナーの仕事の有無.....	10
(4) 配偶者またはパートナーの雇用形態.....	11
(5) 生活時間.....	13
(6) 仕事をしていない理由.....	18
(7) 就労意向の有無.....	20
(8) 仕事に就く上で問題となること.....	21
(9) 女性が仕事を持つことについて.....	23
(10) 女性が仕事を続けるために必要なこと.....	25
(11) 家庭における役割分担.....	27
(12) 望ましい家庭における役割分担.....	29
(13) 男女が共同で家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要なこと.....	35
3. DVやハラスメントについて.....	37
(1) DVについての認識.....	37
(2) DVを受けた経験の有無.....	40
(3) ハラスメント等を受けた経験の有無.....	41
(4) DV・ハラスメントの相談状況.....	43
(5) DV・ハラスメントを相談しなかった理由.....	45
4. 男女共同参画に関する意識について.....	47

(1)性別役割分担意識	47
(2)家庭や子育てについての考え方	50
(3)男女の地位の平等観	55
(4)性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか	68
(5)性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由.....	69
(6)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことがあるか	71
(7)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたとき.....	72
(8)性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと	74
(9)男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れていくべきこと.....	76
IV 調査票.....	80

I 調査概要

1. 調査の目的

広陵町では平成29年度に「広陵町男女共同参画行動計画」を策定し、男女共同参画社会の実現を目指し、様々な施策に取り組んでいる。令和4年度は本計画の見直し時期となることから、町民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、計画見直しの基礎資料とするとともに、今後の施策の参考にすることを目的として調査を実施した。

2. 調査設計

調査対象	広陵町内に在住の満18歳以上2,500人
調査期間	令和4年8月10日(水)～9月2日(金)
調査方法	郵送により調査票を配布、郵送またはインターネットにより回答

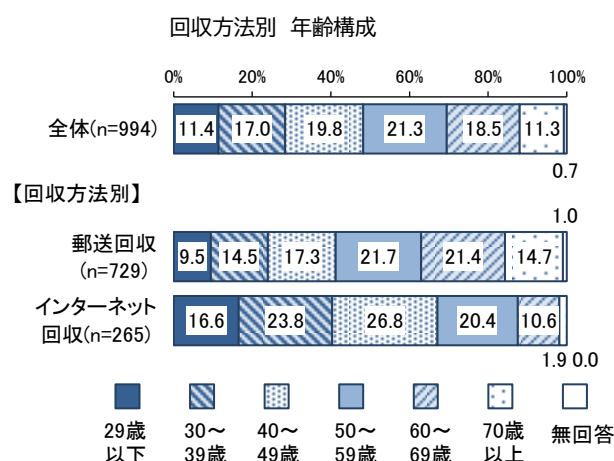
3. 調査内容

1. あなたのことについて
2. あなたの仕事・生活について
3. DVやハラスメントについて
4. 男女共同参画に関する意識について

4. 回収結果

配布数	回収数	有効回答数		有効回答率	
		郵送	WEB		
2,500件	994件	994件	729件	265件	39.8%

	郵送回収		インターネット回収	
	件数	%	件数	%
29歳以下	69件	61.1%	44件	38.9%
30～39歳	106件	62.7%	63件	37.3%
40～49歳	126件	64.0%	71件	36.0%
50～59歳	158件	74.5%	54件	25.5%
60～69歳	156件	84.8%	28件	15.2%
70歳以上	107件	95.5%	5件	4.5%
年齢無回答	7件	100.0%	-	-
全体	729件	73.3%	265件	26.7%



5. 結果の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を上回る。
- (3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記している場合がある。
- (4) 回答者数(n)が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、厳密な比較をすることは難しいので、およその回答の傾向をみることになる。
- (5) 報告書における「全国調査」とは、内閣府が令和元年9月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」、「奈良県調査」とは、奈良県が令和元年9月に実施した「女性活躍推進に関する意識調査」、「前回調査」とは、広陵町が平成29年8月に実施した「広陵町男女共同参画に関する意識調査」をそれぞれ指す。

II 調査結果

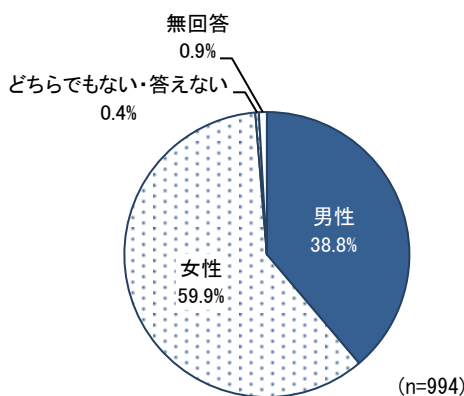
1.あなたのことについて

(1)性別

問1 あなたの性別は、どちらですか。(○はひとつ)

回答者の性別は「女性」が59.9%、「男性」が38.8%、「どちらでもない・答えない」が0.4%となっている。

図 性別



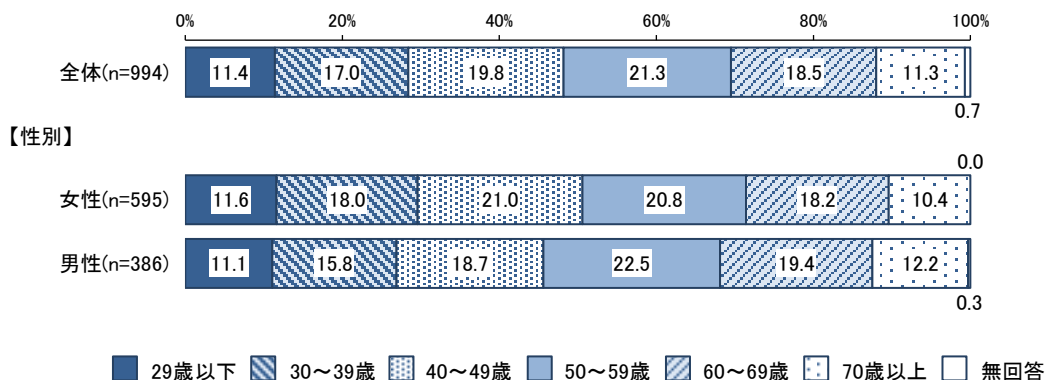
(2)年齢

問2 あなたの年齢は、おいくつですか。(○はひとつ)

全体では「50～59歳」が21.3%で最も高く、次いで「40～49歳」が19.8%、「60～69歳」が18.5%、「30～39歳」が17.0%となっている。

性別で見ると、女性は「40～49歳」(21.0%)、男性は「50～59歳」(22.5%)が最も高くなっている。

図 年齢

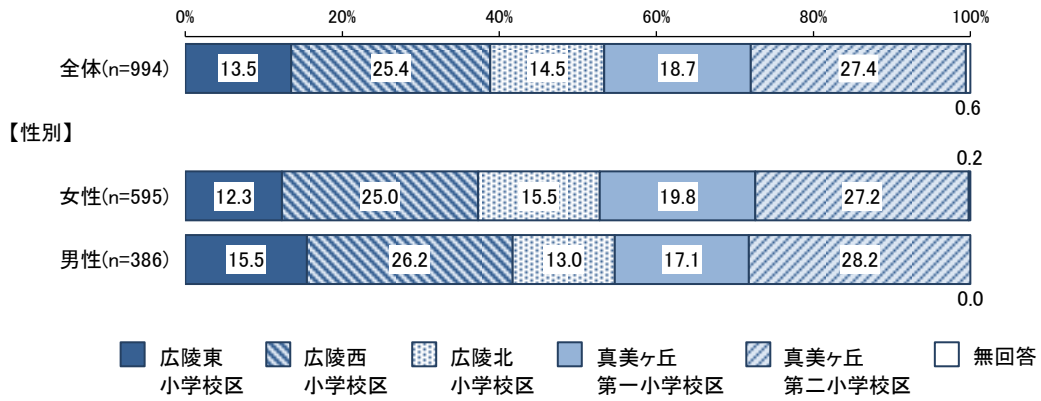


(3)小学校区

問3 あなたの居住している小学校区は、どちらですか。(〇はひとつ)

全体では「真美ヶ丘第二小学校区」が27.4%で最も高く、次いで「広陵西小学校区」が25.4%、「真美ヶ丘第一小学校区」が18.7%となっている。

図 小学校区



(4)配偶者またはパートナーの有無

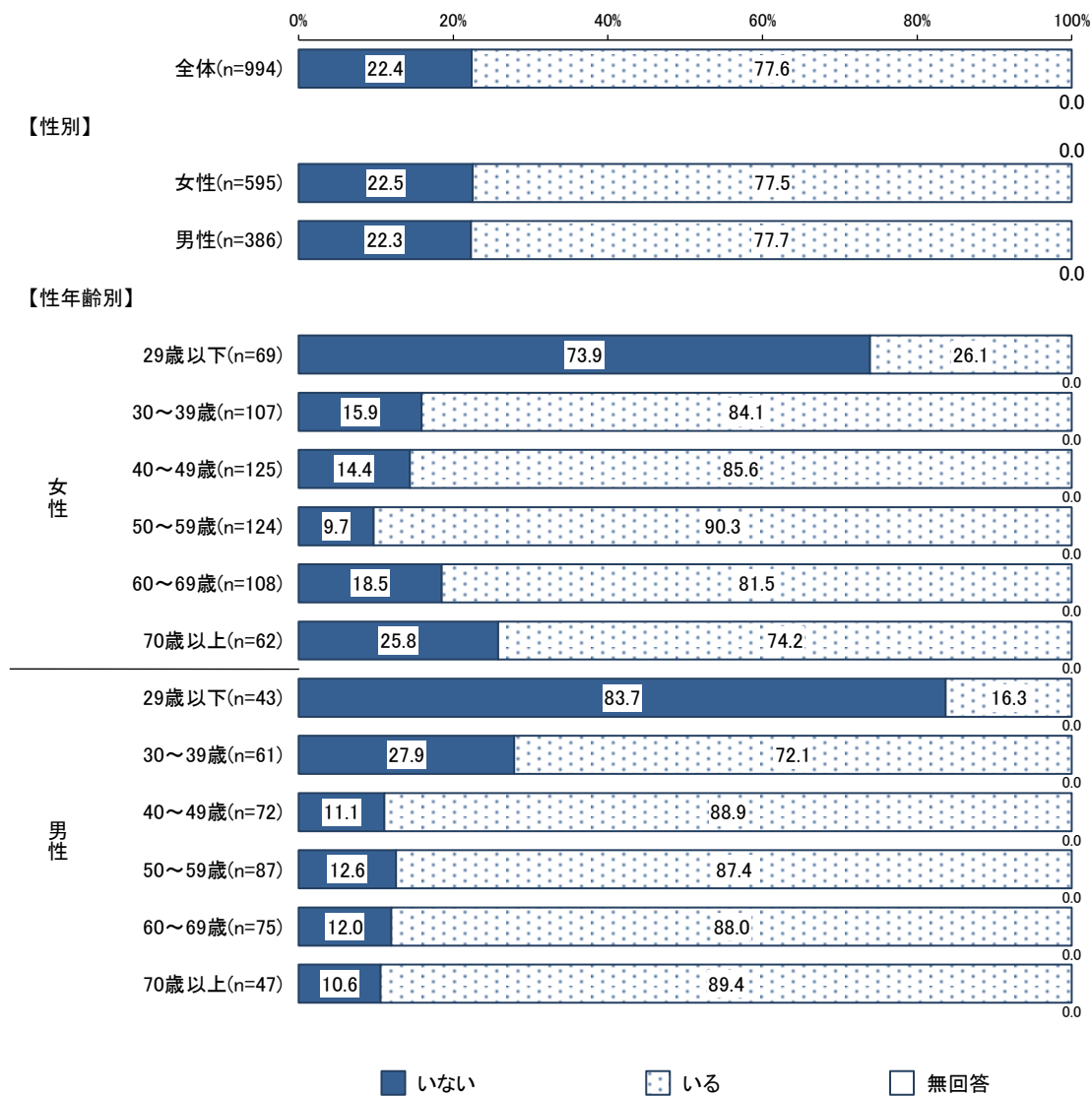
問4 あなたは、配偶者またはパートナーがいますか。(〇はひとつ)

全体では「いない」が22.4%、「いる」が77.6%となっている。

性別で見ると、男女で大きな差は見られない。

性年齢別で見ると、女性は50～59歳で「いる」が90.3%で他の年齢層と比べて高くなっている。男性は40歳以上の年齢層はいずれも「いる」が9割弱とほぼ同率となっている。男女とも29歳以下で「いない」が7～8割台と高くなっている。

図 配偶者またはパートナーの有無



(5)世帯構成

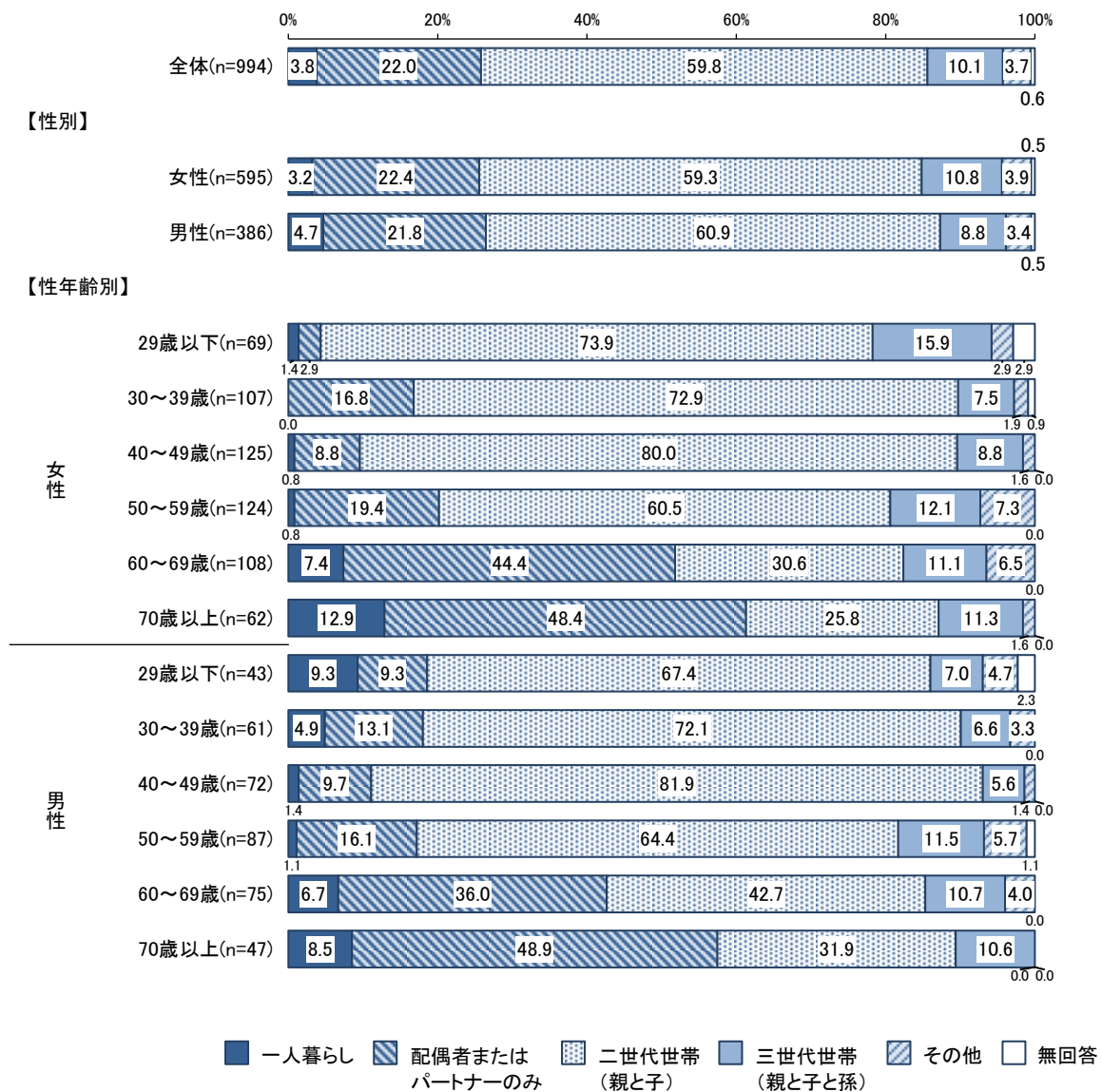
問5 あなたの世帯構成は次のうちどれですか。(〇はひとつ)

全体では「二世帯世帯(親と子)」が59.8%で最も高く、次いで「配偶者またはパートナーのみ」が22.0%、「三世帯世帯(親と子と孫)」が10.1%、「一人暮らし」が3.8%のみとなっている。

性別で見ると、男女で大きな差は見られない。

性年齢別で見ると、男女とも50歳代以下では「二世帯世帯(親と子)」の割合が最も高く、70歳以上では「配偶者またはパートナーのみ」の割合が5割弱を占めている。また、女性は50歳代以下の「一人暮らし」はわずかですが、男性の29歳以下では約1割となっている。

図 世帯構成



(6)末子の年齢

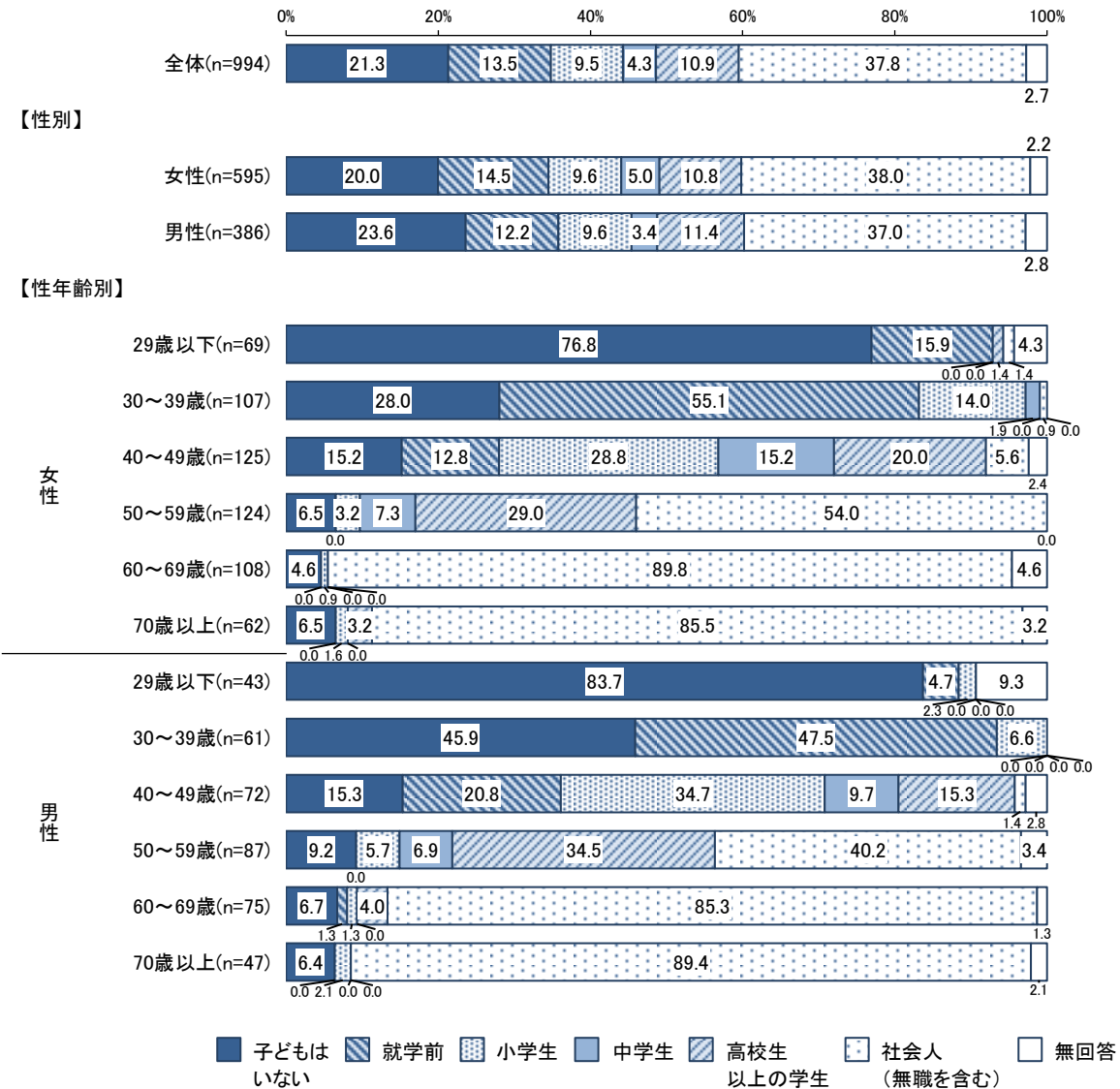
問6 あなたのお子さんのうち一番下のお子さんの年齢はどれにあたりますか。(〇はひとつ)

全体では「社会人(無職を含む)」が37.8%で最も高く、次いで「子どもはいる」が21.3%、「就学前」が13.5%、「高校生以上の学生」が10.9%、「小学生」が9.5%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも「子どもはいる」の割合がやや高くなっている。

性年齢別で見ると、男女とも30～39歳は「就学前」、40～49歳は「小学生」の割合が最も高くなっており、現在子育て中の中心世代であるといえる。

図 末子の年齢



2.あなたの仕事・生活について

(1)仕事の有無

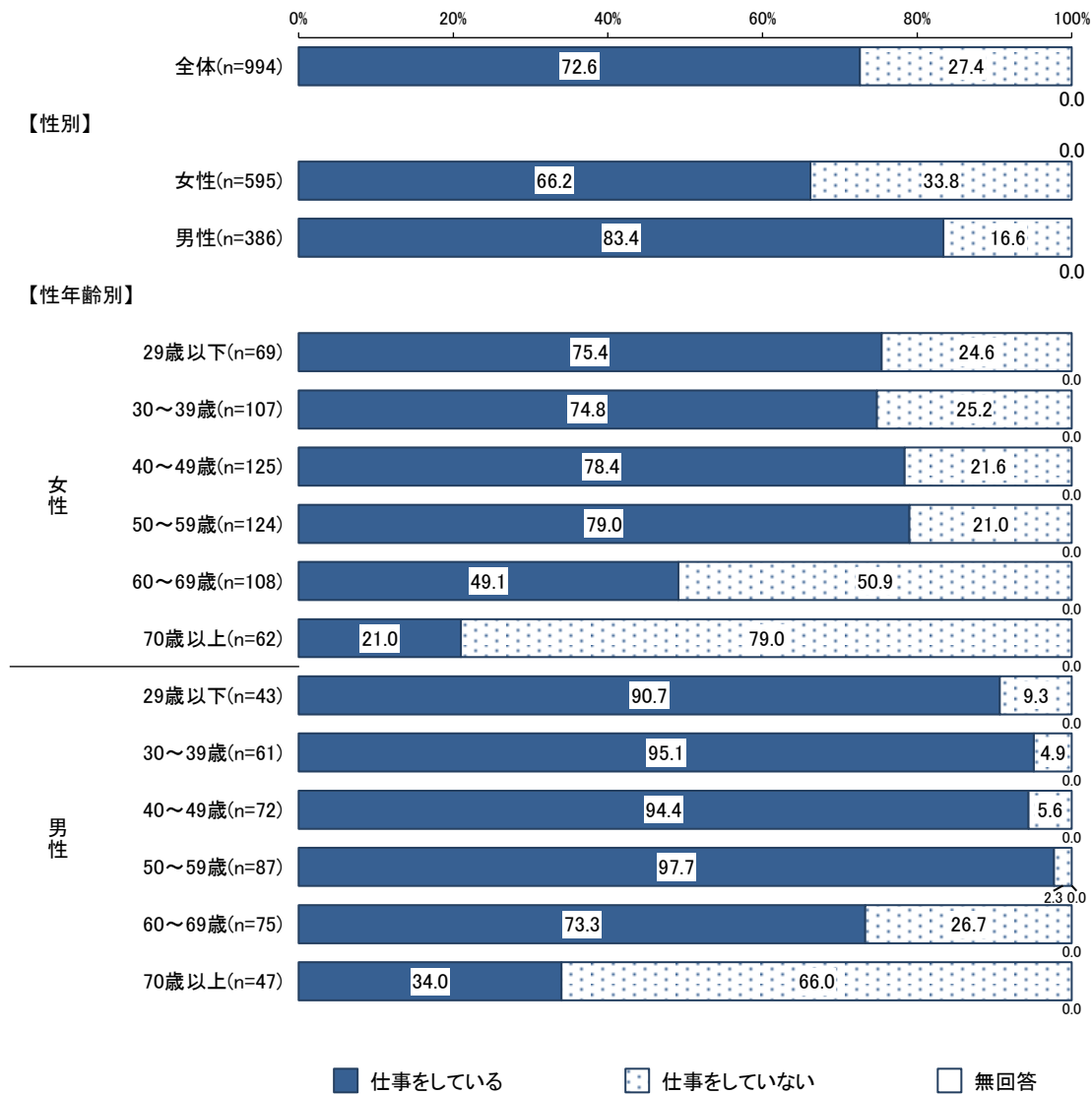
問7 あなたは、収入を得る仕事をしていますか(パート、アルバイト等を含む)。(どちらかに○)

全体では「仕事をしている」が72.6%、「仕事をしていない」が27.4%となっている

性別で見ると、男性の方が女性よりも「仕事をしている」の割合が17.2ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性の60～69歳では「仕事をしている」と「仕事をしていない」の割合がそれぞれ49.1%、50.9%と拮抗している。

図 仕事の有無



(2)雇用形態

問7で「1. 仕事をしている」と回答した方にお聞きます。

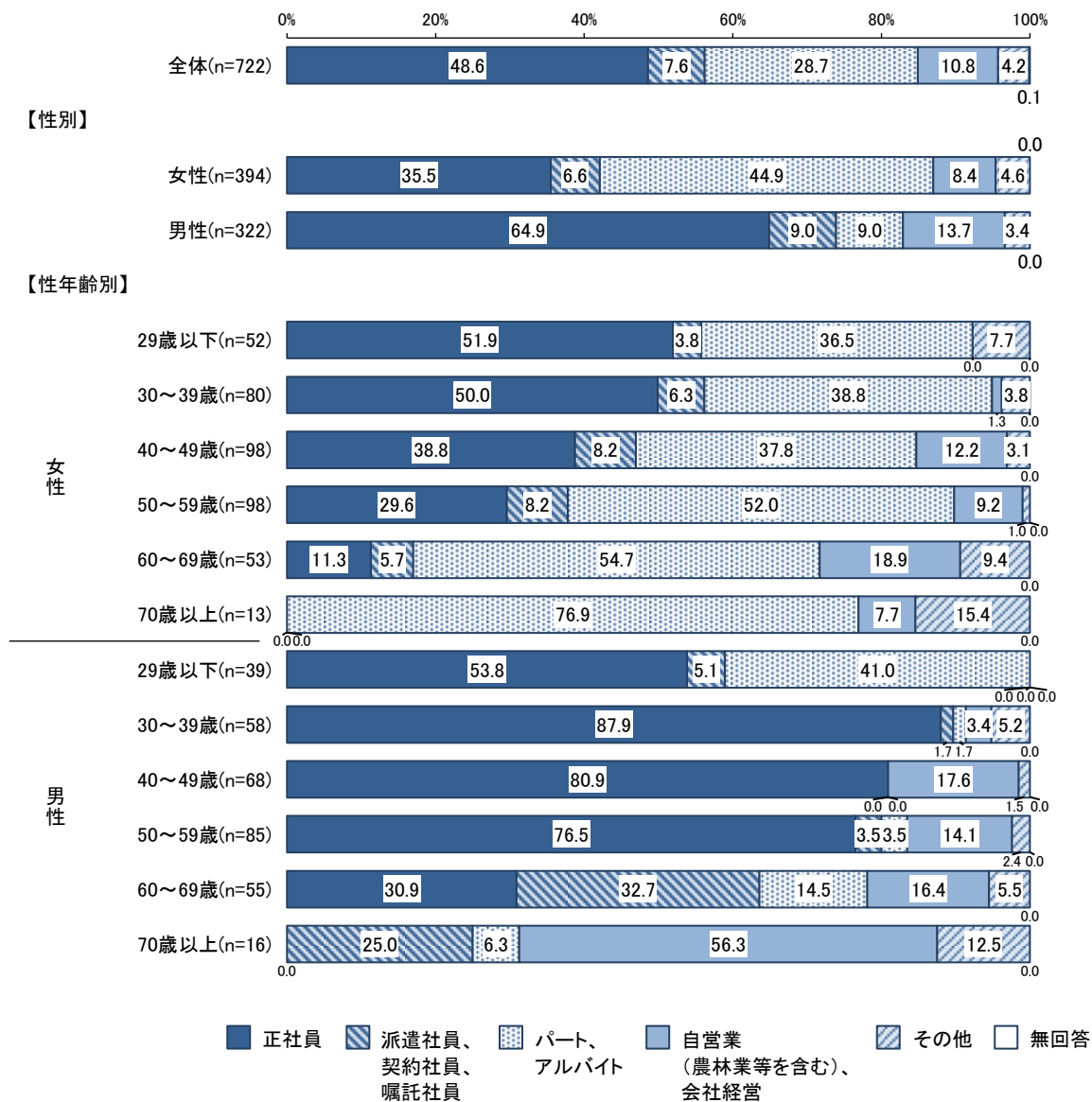
問7-1 それは、どのような雇用形態ですか。(〇はひとつ)

全体では「正社員」が48.6%で最も高く、次いで「パート、アルバイト」が28.7%、「自営業(農林業等を含む)、会社経営」が10.8%、「派遣社員、契約社員、嘱託社員」が7.6%となっている。

性別で見ると、女性は「パート、アルバイト」(44.9%)、男性は「正社員」(64.9%)が最も高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は年齢が高まるにつれて、「正社員」の割合が低くなり、「パート、アルバイト」の割合が高くなる傾向にある。男性は、30～59歳では「正社員」が7割以上を占めているが、60歳以上では「正社員」の割合が低くなり、60～69歳では「派遣社員、契約社員、嘱託社員」の占める割合が高くなっている。70歳以上で「自営業(農林業等を含む)、会社経営」の割合が高いのは、仕事をしている人自体が少なく、農業者が一定含まれていることによると考えられる。

図 雇用形態

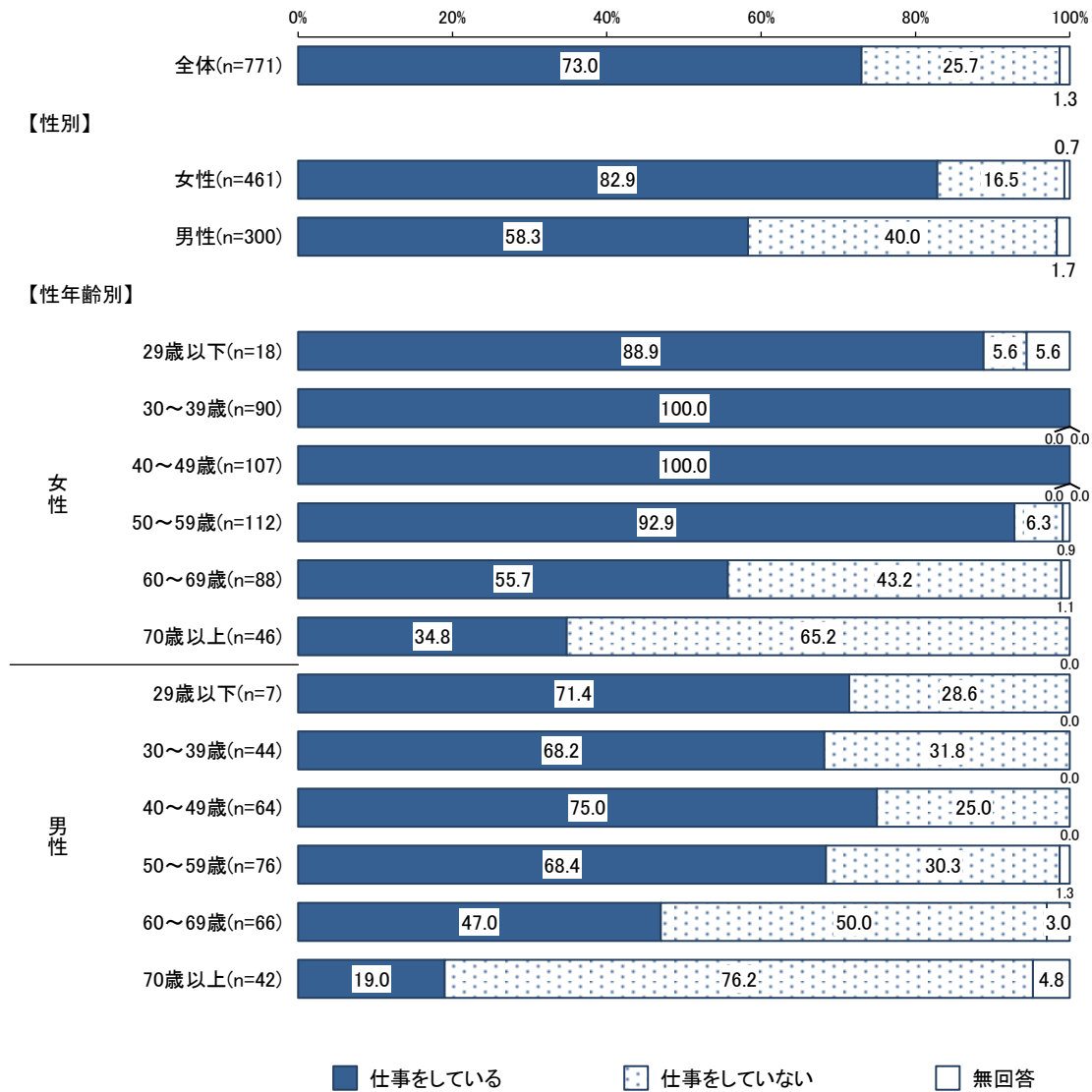


(3)配偶者またはパートナーの仕事の有無

問8 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか(パート、アルバイト等を含む)。(〇はひとつ)

全体では「仕事をしている」が73.0%、「仕事をしていない」が25.7%となっている。
 性別で見ると、女性の方が男性よりも「仕事をしている」の割合が24.6ポイント高くなっている。
 性年齢別で見ると、男女とも60歳以上になると、「仕事をしている」の割合が低くなる傾向にある。

図 配偶者またはパートナーの仕事の有無



(4)配偶者またはパートナーの雇用形態

問8で「1. 仕事をしている」と回答した方にお聞きします。

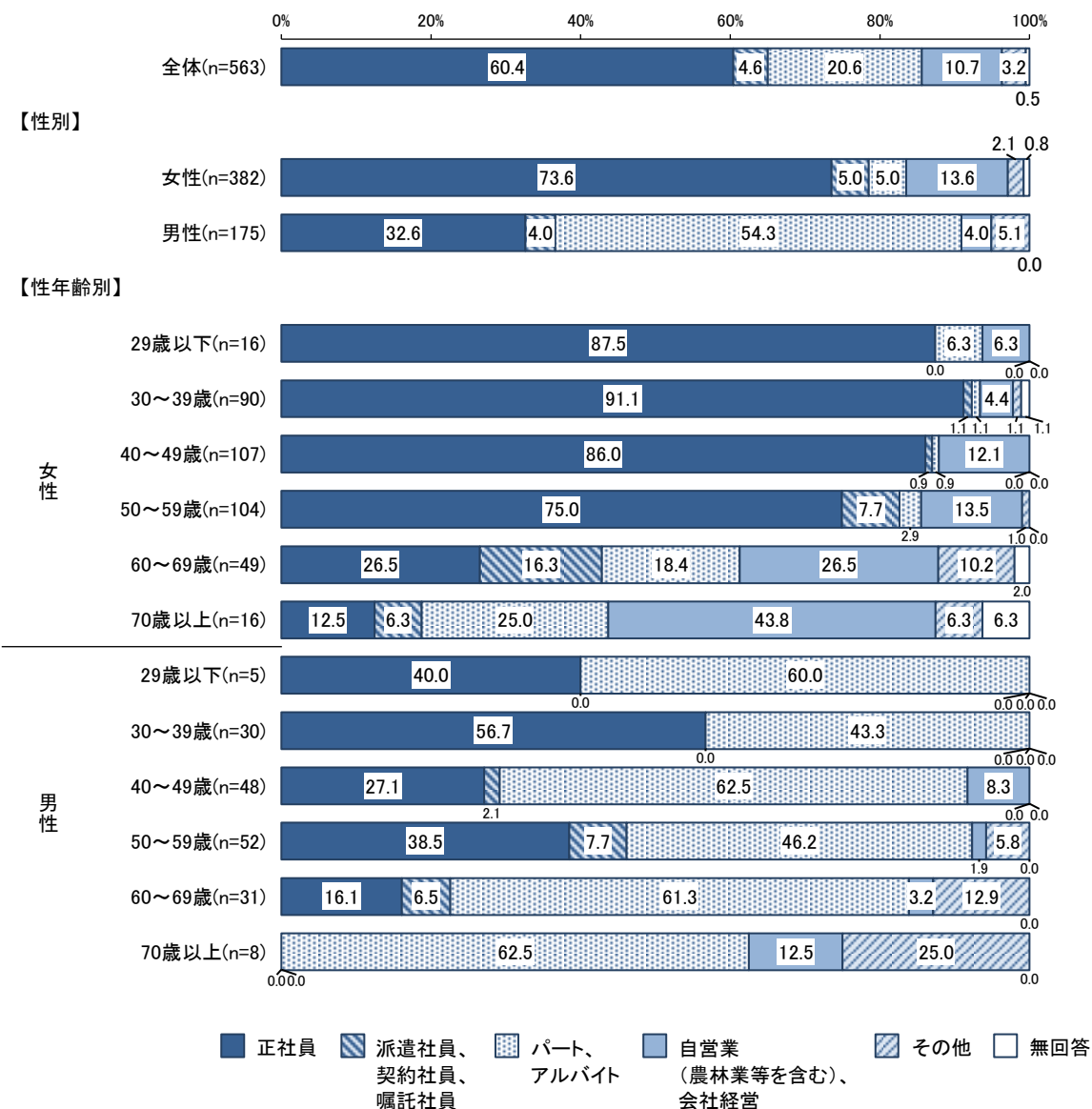
問8-1 あなたの配偶者またはパートナーは、どのような雇用形態ですか。(〇はひとつ)

全体では「正社員」が60.4%で最も高く、次いで「パート、アルバイト」が20.6%、「自営業(農林業等を含む)、会社経営」が10.7%となっている。

性別で見ると、女性は「正社員」(73.6%)、男性は「パート、アルバイト」(54.3%)が最も高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は60歳以上になると「正社員」の割合が1~2割台と大きく下がる。男性は30~39歳では「正社員」が56.7%と高くなっているが、「パート、アルバイト」はいずれの年齢層も4~6割台で概ね一定である。

図 配偶者またはパートナーの雇用形態



回答者本人と配偶者の雇用形態の組み合わせ状況を見ると、女性では、本人「パート、アルバイト」で配偶者・パートナー「正社員」が21.3%で最も高く、次いで本人と配偶者・パートナーとも「正社員」が16.9%、本人「仕事をしていない」で配偶者・パートナー「正社員」が15.6%、本人と配偶者・パートナーとも「仕事をしていない」が10.8%となっている。

男性は、本人「正社員」で配偶者・パートナー「パート、アルバイト」が20.0%で最も高く、次いで本人と配偶者・パートナーとも「正社員」が16.7%、本人「正社員」で配偶者・パートナー「仕事をしていない」が16.3%、本人と配偶者・パートナーとも「仕事をしていない」が11.7%となっている。

配偶者同士の雇用形態の組み合わせは、女性(パート、アルバイト)×男性(正社員)、女性(正社員)×男性(正社員)、女性(無職)×男性(正社員)の順に多く、男女でそれぞれの割合の差はほとんどない。

図 回答者の雇用形態別 配偶者またはパートナーの雇用形態(女性)

上段:件数 下段:全体(n=461)を 100とする%		配偶者・パートナーの雇用形態						
		全体	正社員	派遣社員、 嘱託社員	パート、 アルバイト	その他	自営業、 会社経営、	仕事を していない
回答者本人の 雇用形態	全体	461 100.0	281 61.0	19 4.1	19 4.1	60 13.0	76 16.5	6 1.3
	正社員	95 20.6	78 16.9	2 0.4	2 0.4	6 1.3	7 1.5	-
	派遣社員、契約 社員、嘱託社員	18 3.9	17 3.7	-	-	1 0.2	-	-
	パート、アルバイト	149 32.3	98 21.3	11 2.4	10 2.2	14 3.0	14 3.0	2 0.4
	自営業、会社経営、 その他	40 8.7	16 3.5	-	1 0.2	17 3.7	5 1.1	1 0.2
	仕事を していない	159 34.5	72 15.6	6 1.3	6 1.3	22 4.8	50 10.8	3 0.7

※女性で配偶者がいる人(461人)を母数として構成比を算出。

図 回答者の雇用形態別 配偶者またはパートナーの雇用形態(男性)

上段:件数 下段:全体(n=300)を 100とする%		配偶者・パートナーの雇用形態						
		全体	正社員	派遣社員、 嘱託社員	パート、 アルバイト	その他	自営業、 会社経営、	仕事を していない
回答者本人の 雇用形態	全体	300 100.0	57 19.0	7 2.3	95 31.7	16 5.3	120 40.0	5 1.7
	正社員	170 56.7	50 16.7	4 1.3	60 20.0	5 1.7	49 16.3	2 0.7
	派遣社員、契約 社員、嘱託社員	22 7.3	1 0.3	1 0.3	8 2.7	1 0.3	10 3.3	1 0.3
	パート、アルバイト	9 3.0	-	-	4 1.3	-	5 1.7	-
	自営業、会社経営、 その他	48 16.0	6 2.0	2 0.7	10 3.3	9 3.0	21 7.0	-
	仕事を していない	51 17.0	-	-	13 4.3	1 0.3	35 11.7	2 0.7

※男性で配偶者がいる人(300人)を母数として構成比を算出。

(5)生活時間

問9 あなたが、日頃の生活のなかで各活動に費やしている時間は1日のうちでどれくらいですか。①から③のそれぞれについて時間をお書きください。1時間に満たない場合は分のみお書きください。また該当しない場合は、「-」を記入してください。

①家事(炊事、買い物、洗濯、掃除等)※買い物等の移動時間を含む。

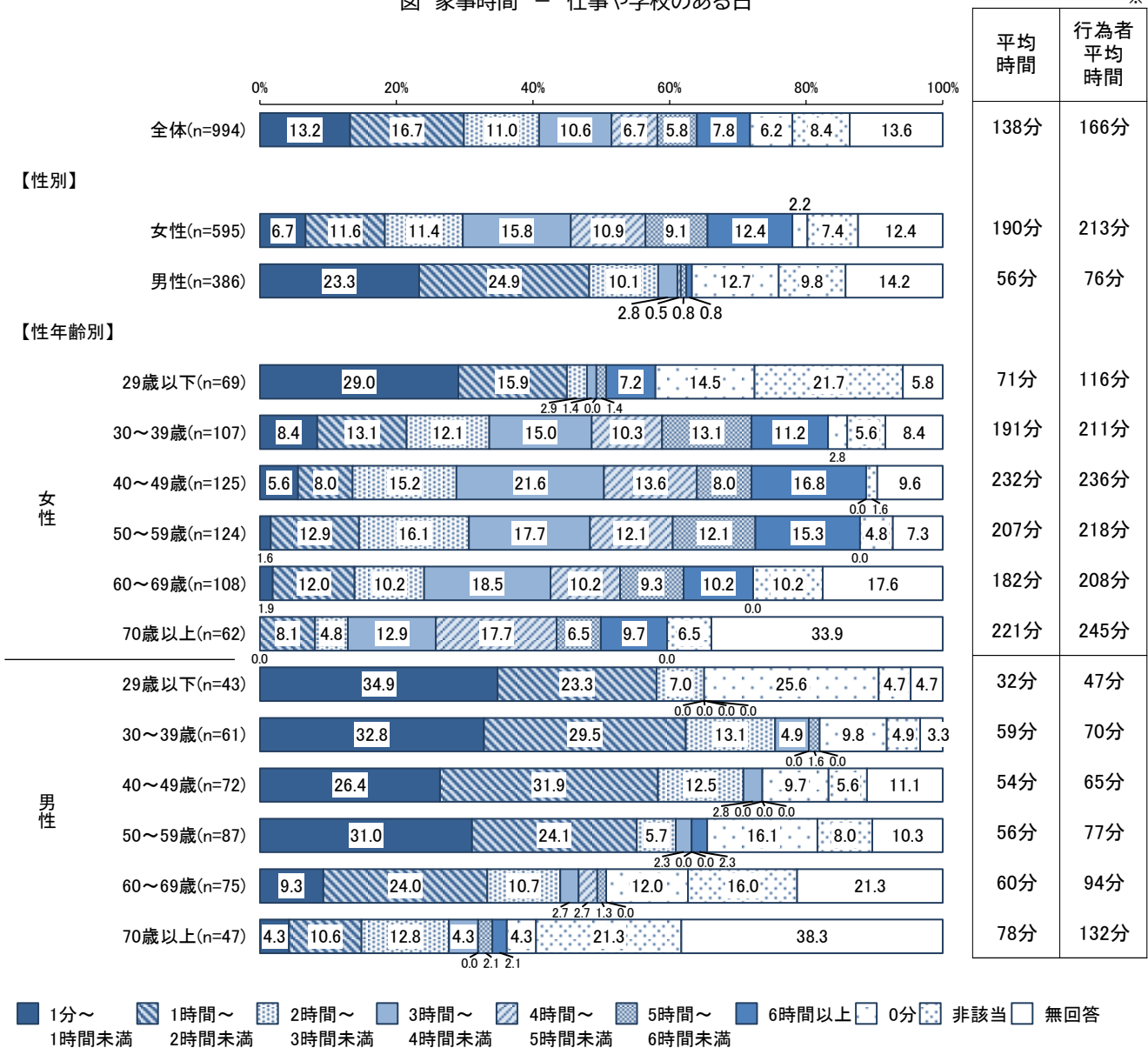
全体では「1時間～2時間未満」が16.7%で最も高く、平均時間は138分となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも平均時間が134分(2時間以上)多くなっている。

性年齢別で見ると、女性は40～49歳で平均時間が232分で最大となっている。男性は年齢が高まるにつれて、平均時間が高まる傾向にある。

図 家事時間 - 仕事や学校のある日

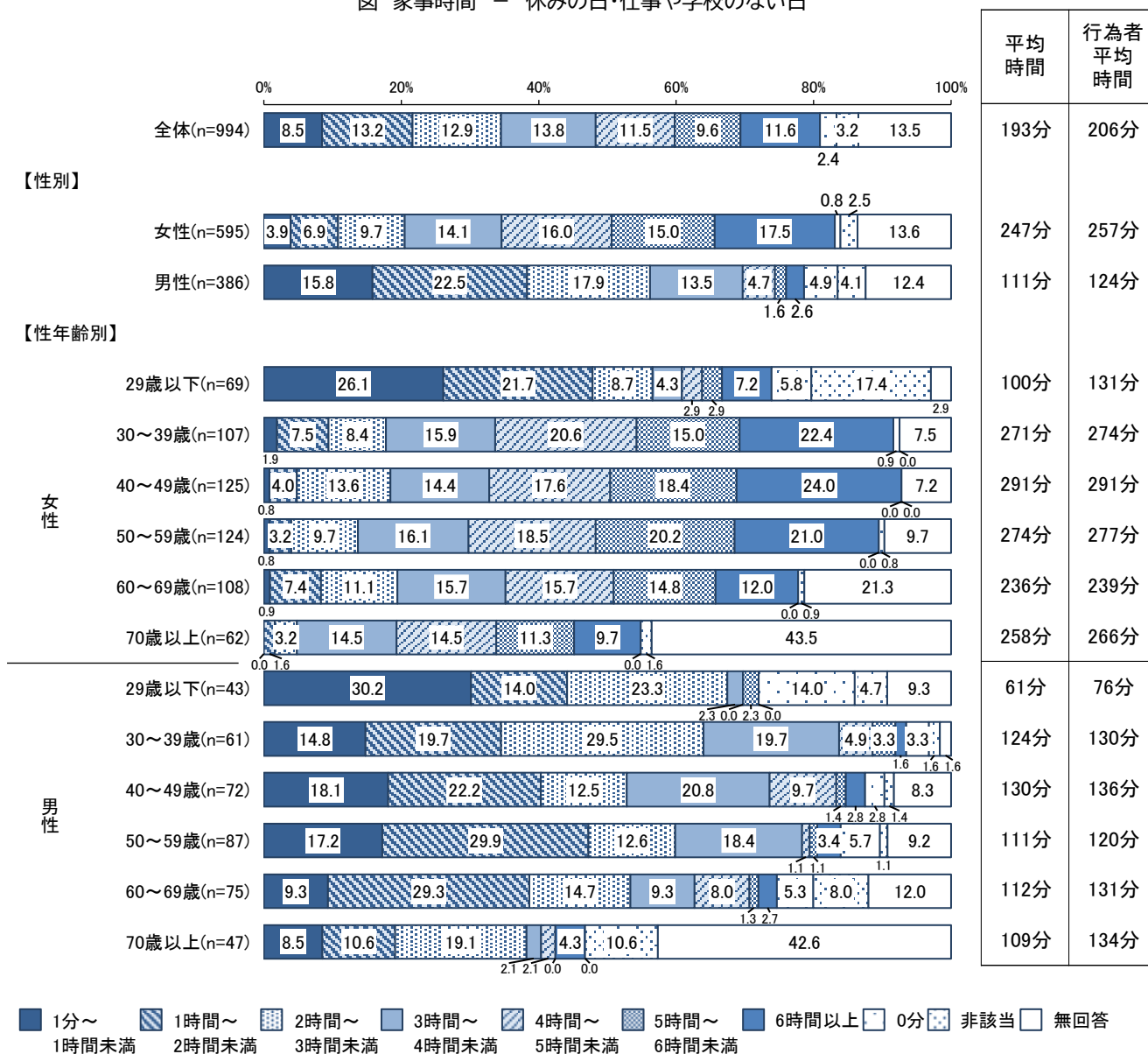
※



※「平均時間」: 0分・非該当と回答した人も含む平均値
 「行為者平均時間」: その行為を1分以上行ったと回答した人の平均値

全体では「3時間～4時間未満」が13.8%で最も高く、平均時間は193分となっている。
 性別で見ると、女性の方が男性よりも平均時間が136分(2時間以上)多くなっている。
 性年齢別で見ると、平均時間は男女とも40～49歳(女性291分・男性130分)で最大となっている。

図 家事時間 - 休みの日・仕事や学校のない日



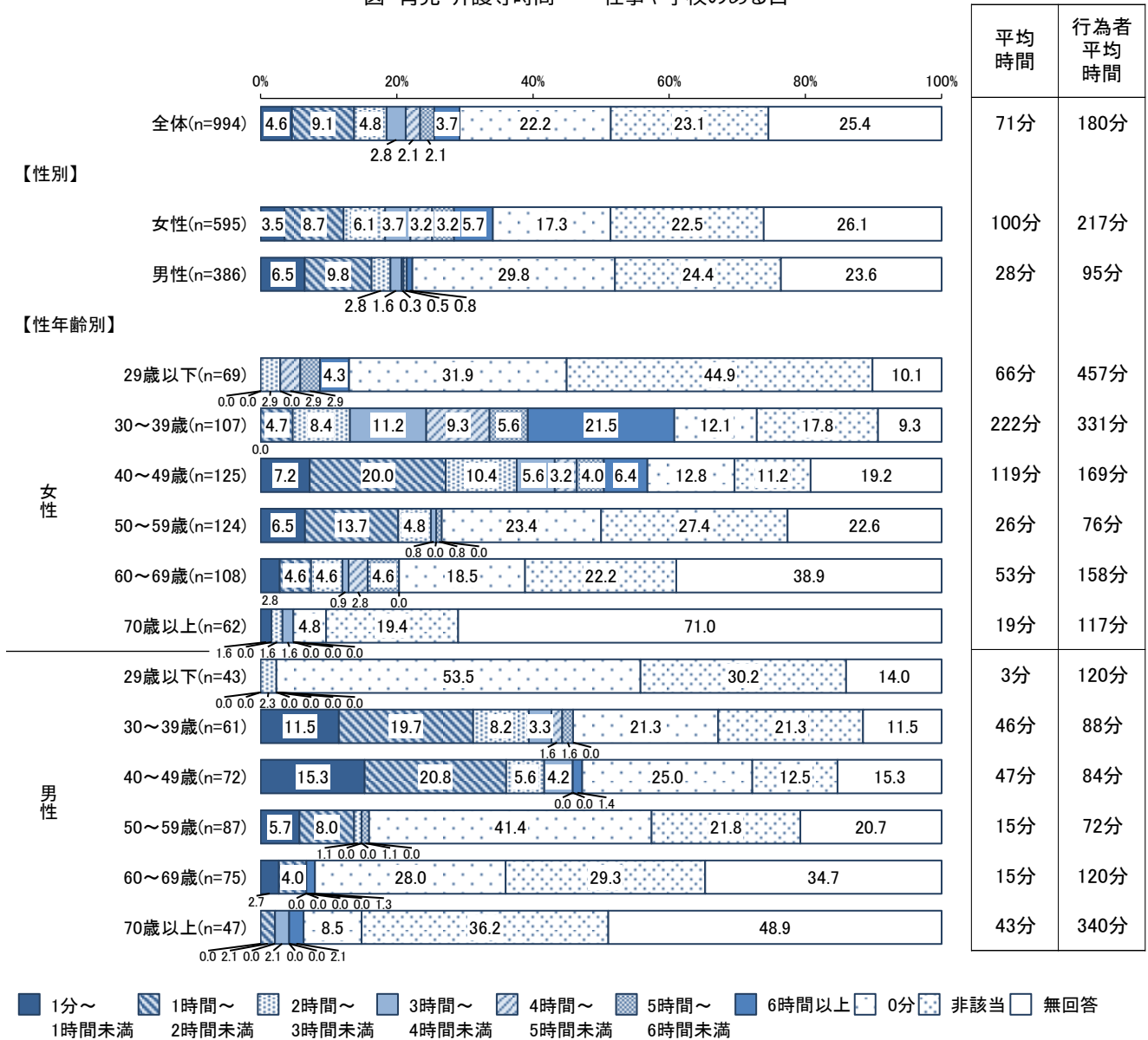
②育児・介護等※習い事・施設等の送迎時間を含む。

全体では「非該当」が23.1%、「0分」が22.2%を占め、平均時間は71分となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも平均時間が72分(1時間以上)多くなっている。

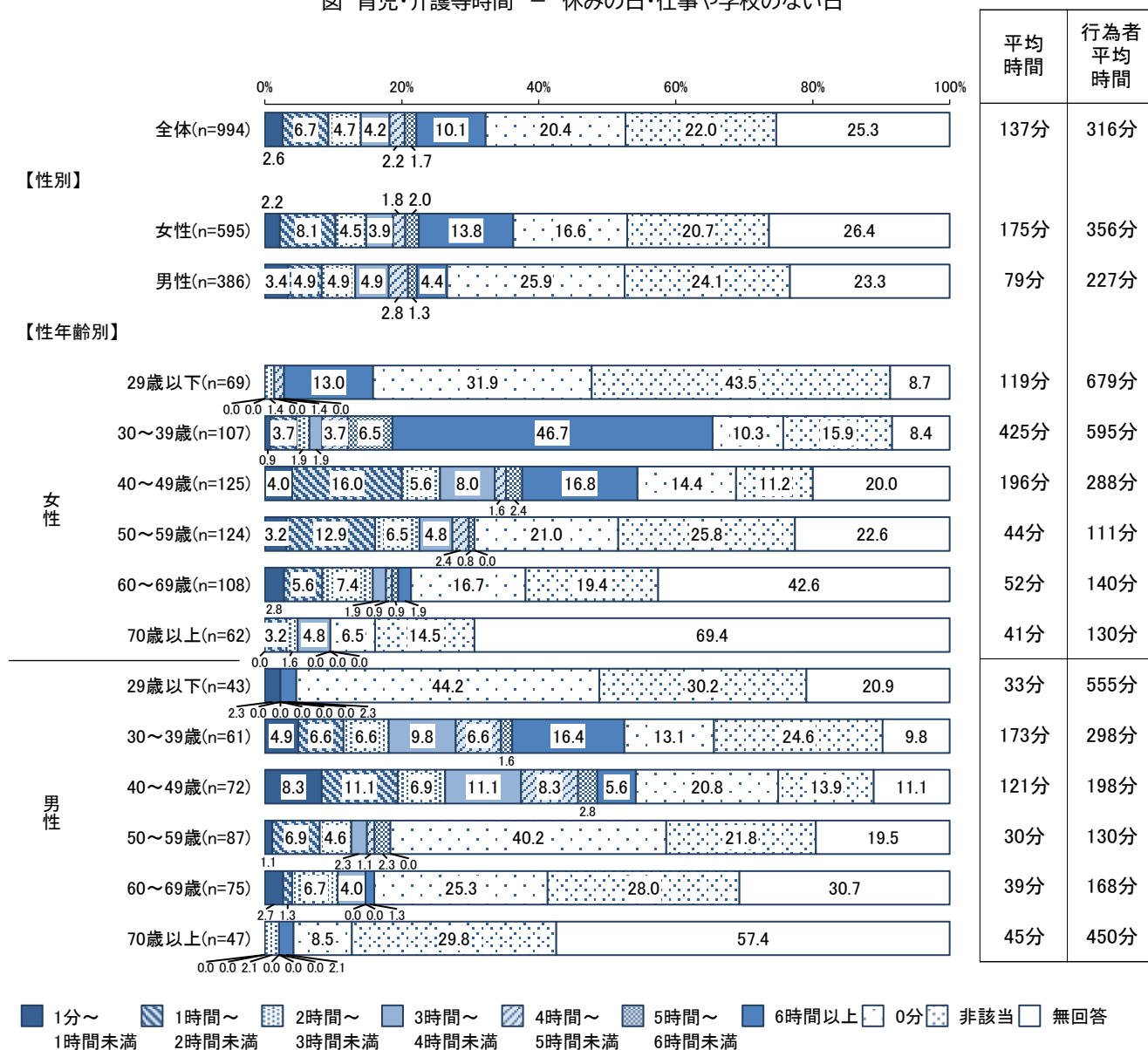
性年齢別で見ると、49歳以下の年齢層では性別による平均時間の違いが大きく、女性の30～39歳は平均時間が222分と長くなっている一方、男性の30～39歳では46分と女性の約5分の1にとどまっている。

図 育児・介護等時間 - 仕事や学校のある日



全体では「非該当」が22.0分、「0分」が20.4%を占め、平均時間は137分となっている。
 性別で見ると、女性の方が男性よりも平均時間が96分(1時間以上)多くなっている。
 性年齢別で見ると、平均時間は男女とも30～39歳(女性425分・男性173分)で最大となっている。

図 育児・介護等時間 - 休みの日・仕事や学校のない日



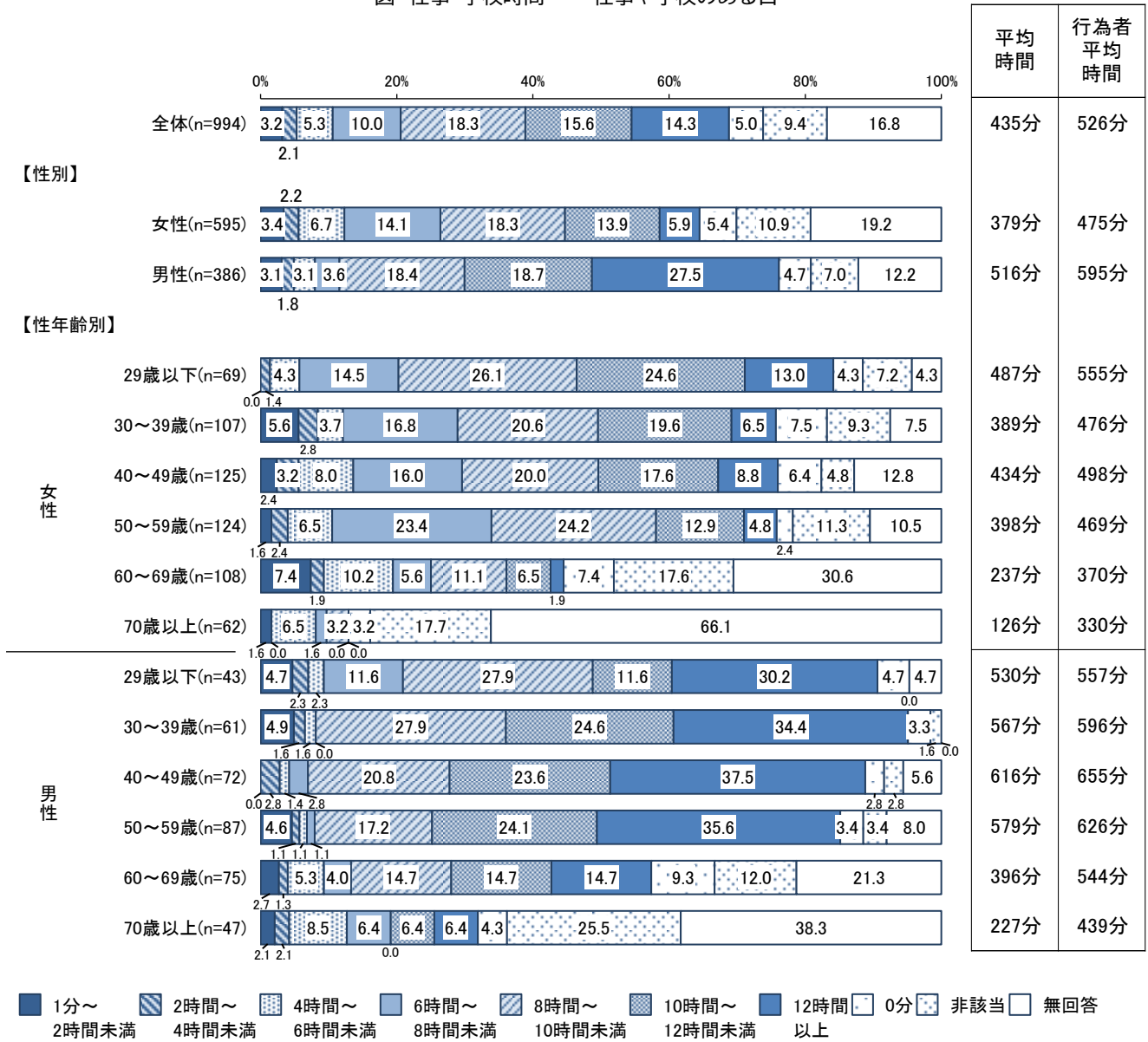
③仕事・学校※通勤・通学時間を含む。

全体では「8時間～10時間未満」が18.3%で最も高く、平均時間は435分となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも平均時間が137分(2時間以上)多くなっている。

性年齢別で見ると、女性は29歳以下で平均時間が487分で最大となっている。男性は40～49歳で平均時間が616分で最大となっている。

図 仕事・学校時間 - 仕事や学校のある日



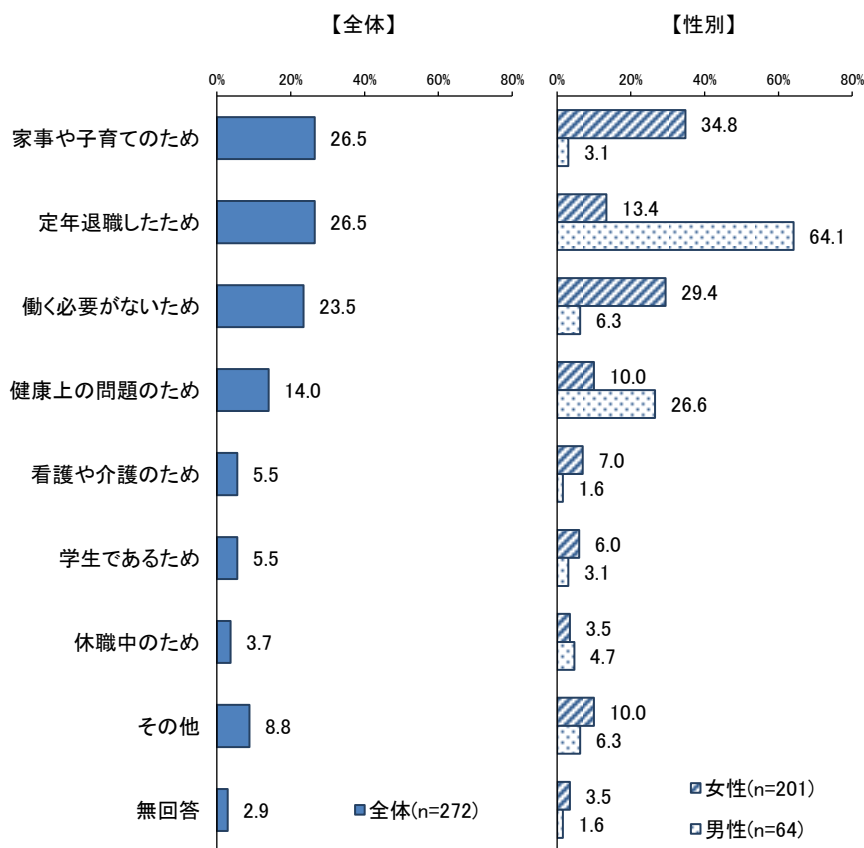
(6) 仕事をしていない理由

問7で「2. 仕事をしていない」と回答した方にお聞きします。
 ※ 仕事をしている方は、問 12 へお進みください。
 問 10 あなたが、仕事をしていないのはどうしてですか。(〇はいくつでも)

全体では「家事や子育てのため」と「定年退職したため」がともに26.5%で最も高く、次いで「働く必要がないため」が23.5%、「健康上の問題のため」が14.0%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも「定年退職したため」の割合が50.7ポイントと大幅に高くなっている。一方で女性は男性よりも「家事や子育てのため」の割合が31.7ポイント、「働く必要がないため」の割合が23.1ポイント高くなっている。

図 仕事をしていない理由



性年齢別で見ると、女性では29歳以下で「学生であるため」、30～59歳で「家事や子育てのため」、60歳以上で「働く必要がないため」が、他の年齢層と比べて高くなっている。男性では60歳以上で「定年退職したため」が高くなっていることに加えて、いずれの年齢層も「健康上の問題のため」が一定数いる。

表 性年齢別 仕事をしていない理由

		回答者数(n)	家事や子育てのため	定年退職したため	働く必要がないため	健康上の問題のため	看護や介護のため	学生であるため	休職中のため	その他	無回答
全体		272	26.5	26.5	23.5	14.0	5.5	5.5	3.7	8.8	2.9
女性	29歳以下	17	11.8	-	5.9	-	-	70.6	5.9	5.9	-
	30～39歳	27	77.8	-	11.1	3.7	-	-	11.1	7.4	-
	40～49歳	27	74.1	-	14.8	14.8	-	-	11.1	7.4	-
	50～59歳	26	50.0	3.8	30.8	11.5	19.2	-	-	11.5	3.8
	60～69歳	55	18.2	23.6	40.0	10.9	12.7	-	-	7.3	9.1
	70歳以上	49	8.2	26.5	42.9	12.2	4.1	-	-	16.3	2.0
男性	29歳以下	4	-	-	-	50.0	-	50.0	25.0	-	-
	30～39歳	3	-	-	-	33.3	-	-	33.3	66.7	-
	40～49歳	4	-	-	-	50.0	-	-	25.0	-	25.0
	50～59歳	2	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-
	60～69歳	20	-	85.0	10.0	25.0	-	-	-	-	-
	70歳以上	31	6.5	77.4	6.5	19.4	3.2	-	-	3.2	-

※ **濃い網掛け** は全体より10ポイント以上高い項目。**薄い網掛け** は全体より5ポイント以上高い項目。
ただし、回答者数(n)が15件未満の項目は除く

(7)就労意向の有無

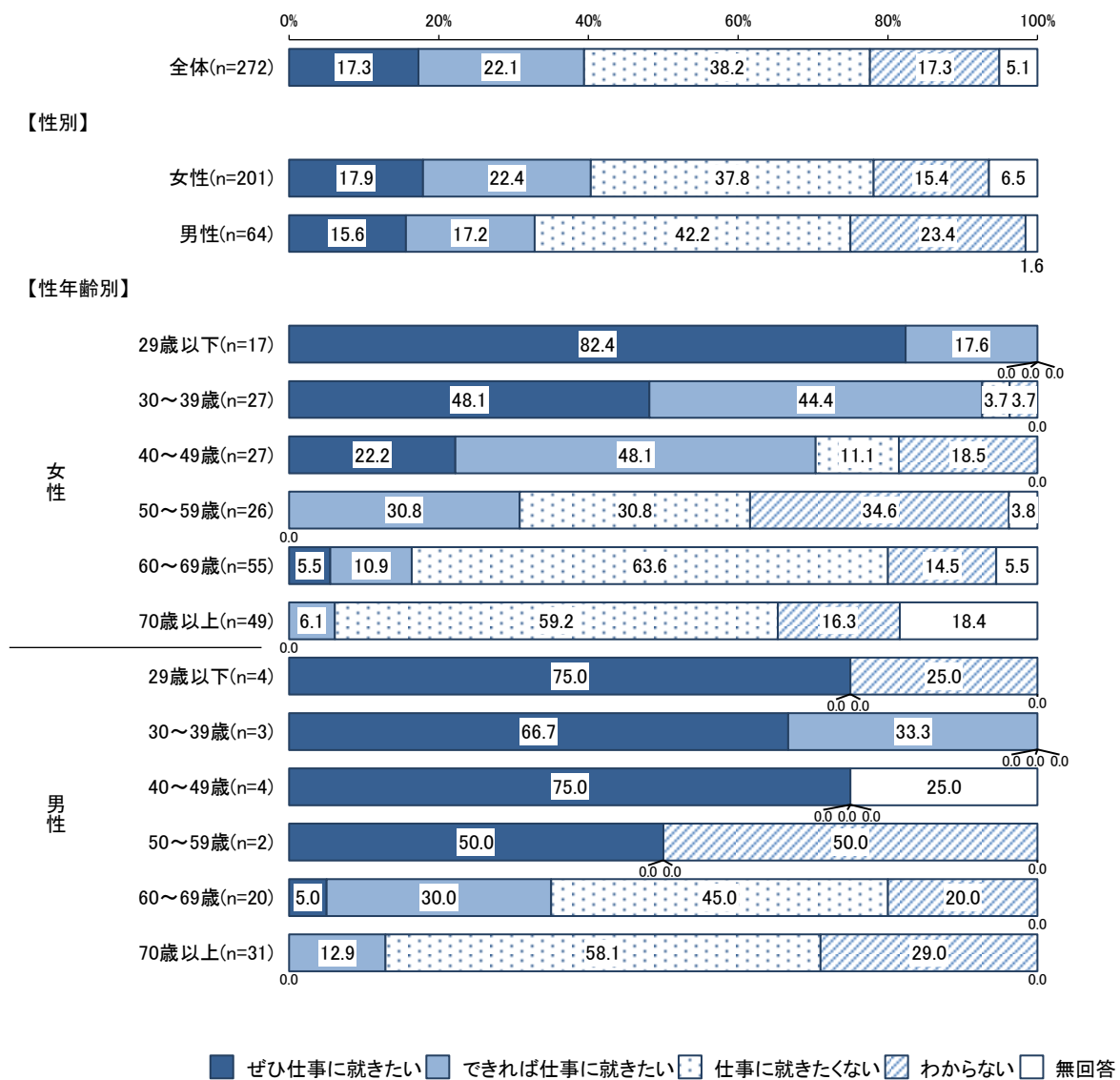
問 11 あなたは、今後収入を得る仕事に就きたいと思いますか。(○はひとつ)

全体では「仕事に就きたくない」が38.2%で最も高く、次いで「できれば仕事に就きたい」が22.1%、「ぜひ仕事に就きたい」と「わからない」がともに17.3%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「できれば仕事に就きたい」の割合が5.2ポイント高く、男性の方が女性よりも「仕事に就きたくない」の割合が4.4ポイント高くなっている。男性は23.4%が「わからない」と回答している。

性年齢別で見ると、女性の49歳以下では「ぜひ仕事に就きたい」「できれば仕事に就きたい」の回答が大半を占めている。女性の60歳以上と男性の70歳以上では「仕事に就きたくない」が6割前後と高くなっている。

図 就労意向の有無



(8)仕事に就く上で問題となること

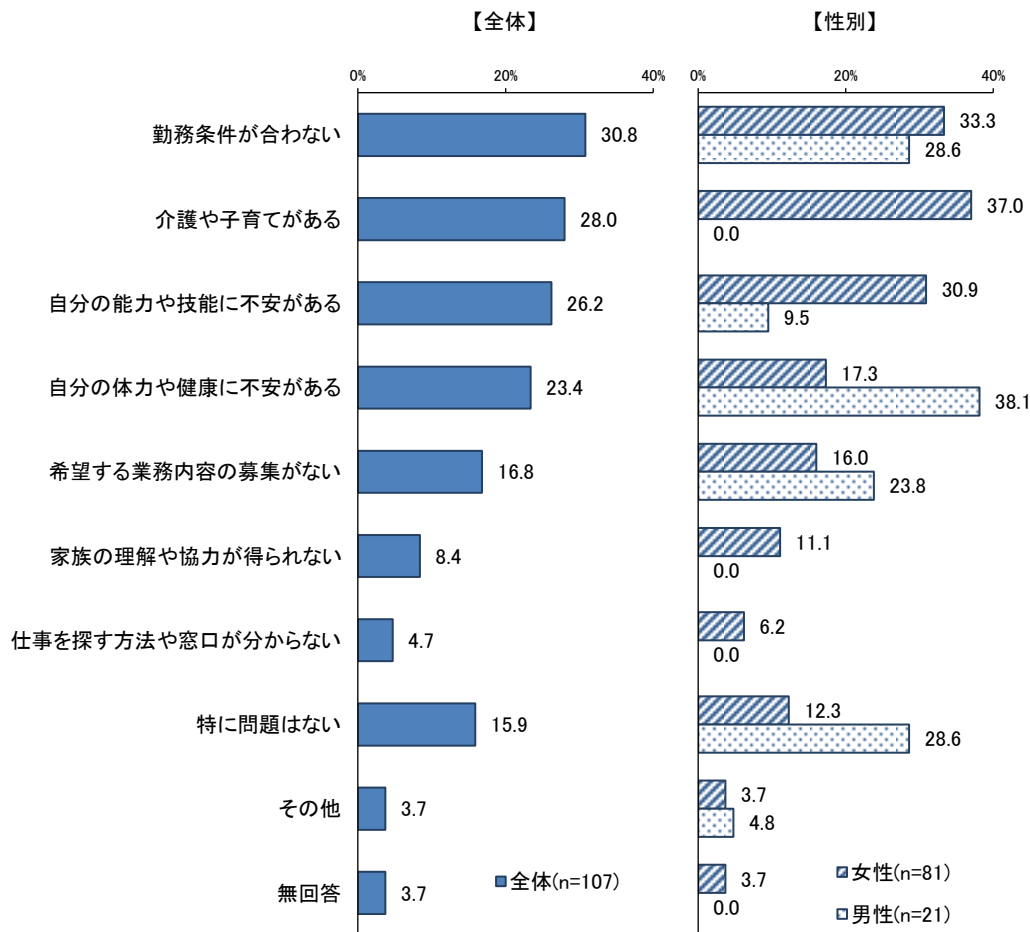
問 11 で「1. ぜひ仕事に就きたい」「2. できれば仕事に就きたい」と回答した方にお聞きします。

問 11-1 あなたが今後仕事に就く上で問題となることは何ですか。(〇はいくつでも)

全体では「勤務条件が合わない」が30.8%で最も高く、次いで「介護や子育てがある」が28.0%、「自分の能力や技能に不安がある」が26.2%、「自分の体力や健康に不安がある」が23.4%となっている。一方で、「特に問題はない」は15.9%となっている。

性別で見ると、女性は「介護や子育てがある」と「自分の能力や技能に不安がある」、男性は「自分の体力や健康に不安がある」と「希望する業務内容の募集がない」が、それぞれ高くなっている。

図 仕事に就く上で問題となること



性年齢別で見ると、女性は30～39歳で「介護や子育てがある」、40～49歳で「自分の能力や技能に不安がある」と「家族の理解や協力が得られない」が他の年齢層と比べて特に高くなっている。男性は50～59歳を除くすべての年齢層で「勤務条件が合わない」と「自分の体力や健康に不安がある」が一定数いる。

表 性年齢別 仕事に就く上で問題となること

		回答者数(n)	勤務条件が合わない	介護や子育てがある	自分の能力や技能に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	希望する業務内容の募集がない	家族の理解や協力が得られない	仕事を探す方法や窓口が分からない	特に問題はない	その他	無回答
全体		107	30.8	28.0	26.2	23.4	16.8	8.4	4.7	15.9	3.7	3.7
女性	29歳以下	17	29.4	11.8	35.3	11.8	11.8	5.9	11.8	41.2	5.9	-
	30～39歳	25	36.0	64.0	24.0	-	20.0	8.0	-	4.0	-	4.0
	40～49歳	19	31.6	31.6	42.1	31.6	21.1	21.1	5.3	5.3	-	-
	50～59歳	8	50.0	50.0	37.5	37.5	-	12.5	-	-	-	-
	60～69歳	9	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	-	11.1	11.1	11.1	22.2
	70歳以上	3	33.3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	-
男性	29歳以下	3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-
	30～39歳	3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3	-	-
	40～49歳	3	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-
	50～59歳	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	60～69歳	7	28.6	-	-	57.1	57.1	-	-	14.3	-	-
	70歳以上	4	25.0	-	-	25.0	-	-	-	50.0	25.0	-

※ **濃い網掛け** は全体より10ポイント以上高い項目。**薄い網掛け** は全体より5ポイント以上高い項目。
ただし、回答者数(n)が15件未満の項目は除く

(9)女性が仕事を持つことについて

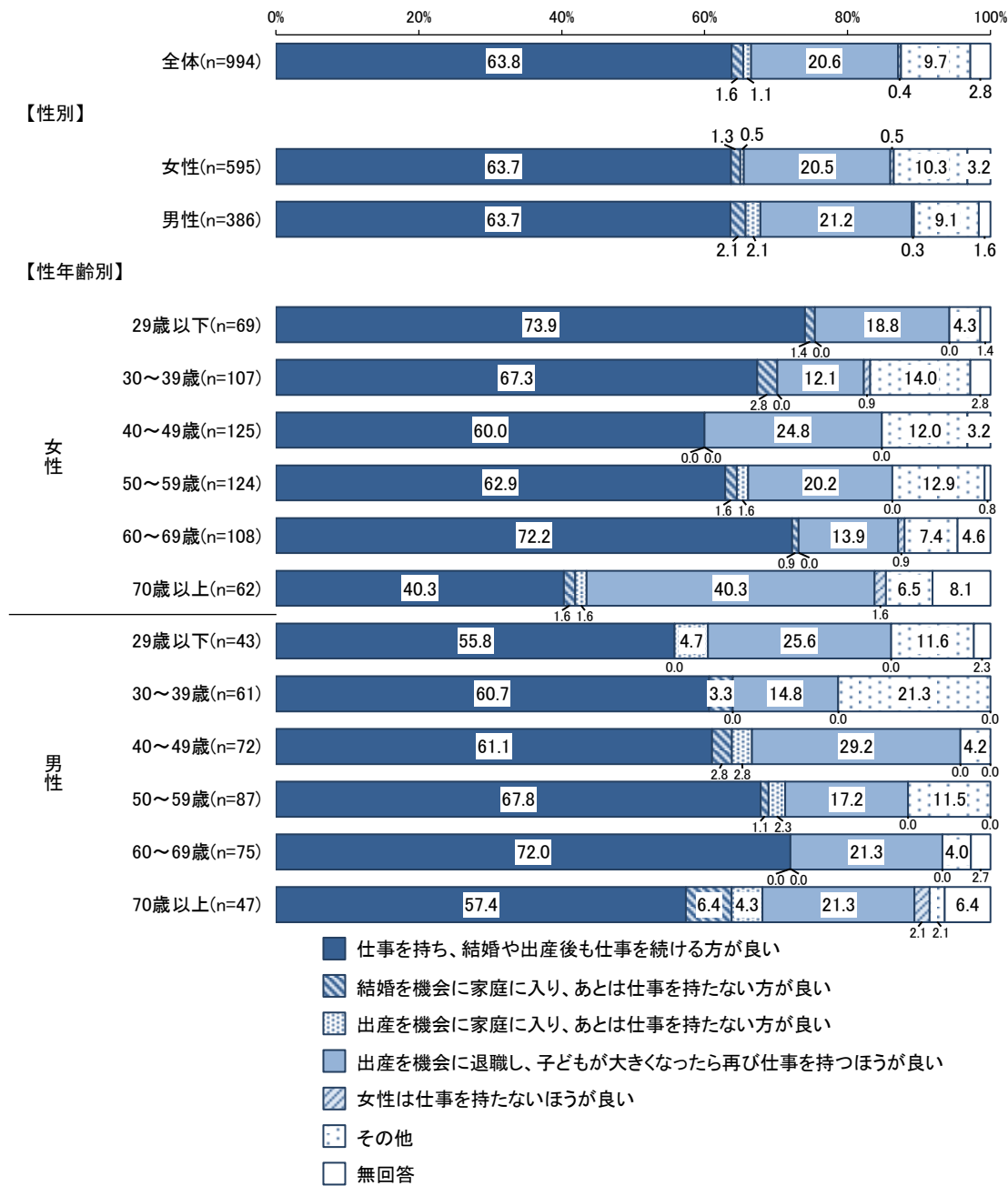
問 12 あなたは、女性が仕事を持つことについてどのようにお考えですか。(○はひとつ)

全体では「仕事を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける方が良い」が63.8%で最も高く、次いで「出産を機会に退職し、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうが良い」が20.6%、「その他」が9.7%となっている。

性別で見ると、男女で大きな差は見られない。

性年齢別で見ると、女性は29歳以下と60～69歳で「仕事を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける方が良い」が、それぞれ7割を超えている。男性は70歳以上を除き、年齢が高まるにつれて、「仕事を持ち、結婚や出産後も仕事を続ける方が良い」の割合が高くなる傾向にある。

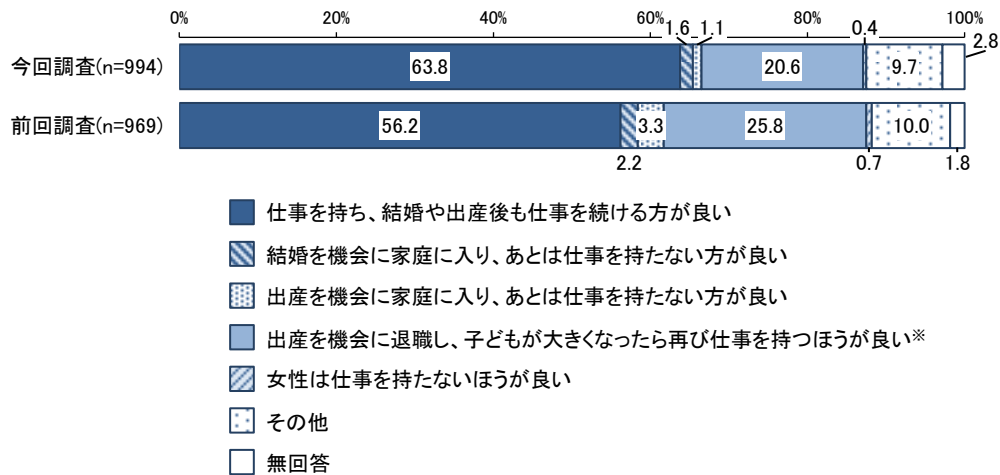
図 女性が仕事を持つことについて



■前回調査との比較

今回調査と前回調査(平成29年度)を比較すると、「出産を機会に退職し、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうが良い」(今回調査20.6%・前回調査25.8%)は今回調査の方が5.2ポイント低く、「仕事を持ち、結婚や出産後も仕事を続けるほうが良い」(今回調査63.8%・前回調査56.2%)は今回調査の方が7.6ポイント高くなっている。

図 女性が仕事を持つことについて(前回調査との比較)



※「出産を機会に退職し、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうが良い」は前回調査では「出産を機会に退職し、育児終了後再び仕事を持つほうが良い」

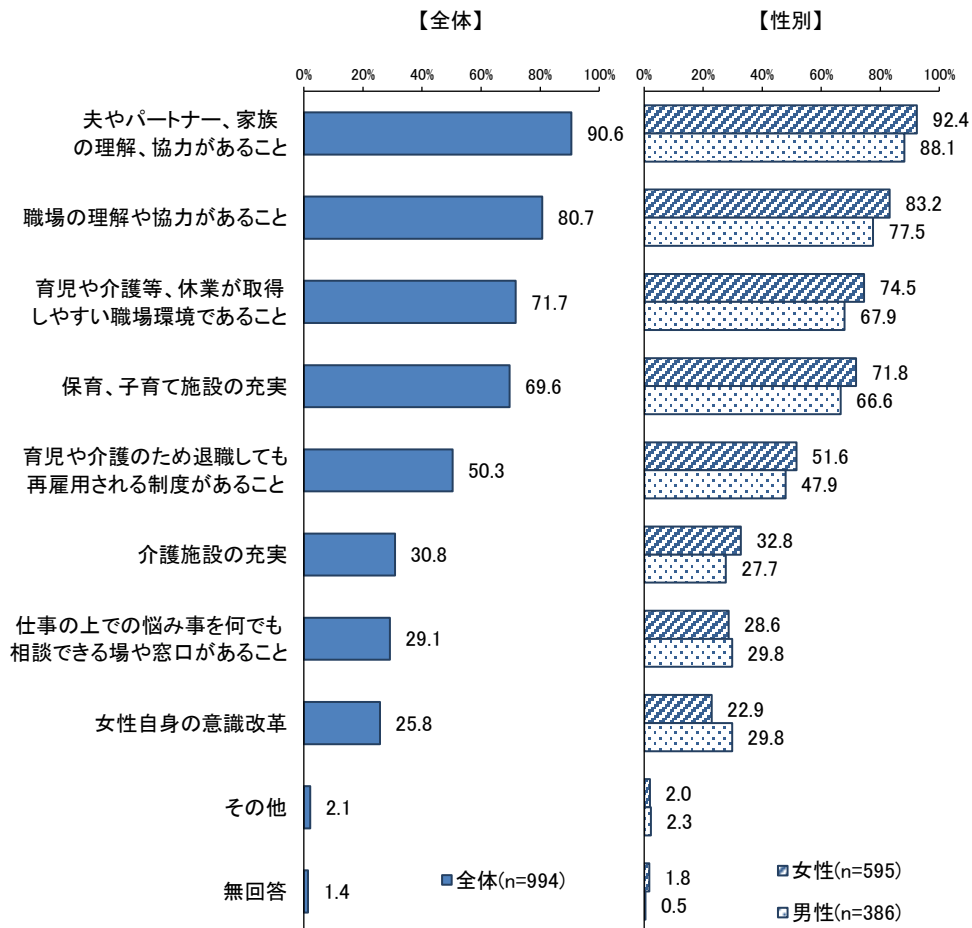
(10)女性が仕事を続けるために必要なこと

問 13 女性が仕事を続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では「夫やパートナー、家族の理解、協力があること」が90.6%で最も高く、次いで「職場の理解や協力があること」が80.7%、「育児や介護等、休業が取得しやすい職場環境であること」が71.7%、「保育、子育て施設の充実」が69.6%となっている。

性別で見ると、上位6項目は女性の割合が男性よりもやや高くなっている。

図 女性が仕事を続けるために必要なこと



性年齢別で見ると、女性は29歳以下で「職場の理解や協力があること」と「育児や介護等、休業が取得しやすい職場環境であること」、30～39歳で「保育、子育て施設の充実」、50～59歳で「介護施設の充実」の割合が、他の年齢層と比べて高くなっている。男性は30～39歳で「保育、子育て施設の充実」と「仕事の上での悩み事を何でも相談できる場や窓口があること」、70歳以上で「女性自身の意識改革」が、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 女性が仕事を続けるために必要なこと

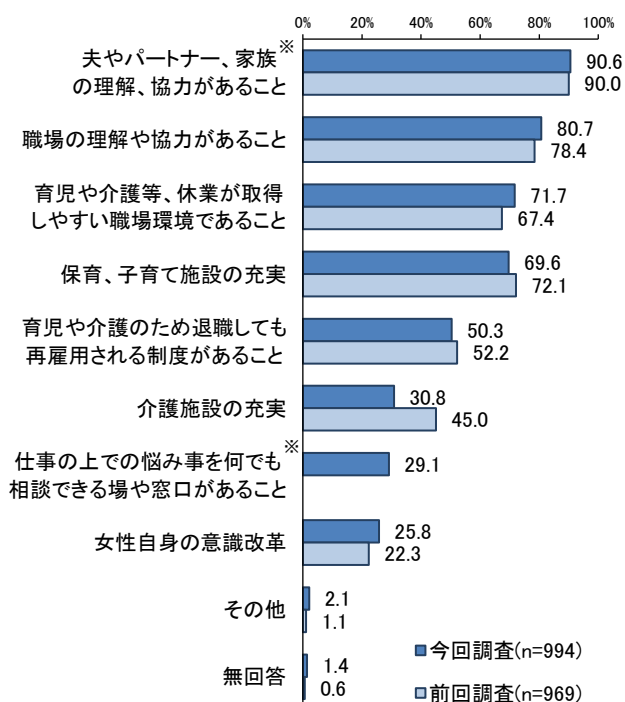
		回答者数(n)	夫やパートナー、家族の理解、協力があること	職場の理解や協力があること	育児や介護等、休業が取得しやすい職場環境であること	保育、子育て施設の充実	育児や介護のため退職しても再雇用される制度があること	介護施設の充実	仕事の上での悩み事を何でも相談できる場や窓口があること	女性自身の意識改革	その他	無回答
全体		994	90.6	80.7	71.7	69.6	50.3	30.8	29.1	25.8	2.1	1.4
女性	29歳以下	69	94.2	92.8	87.0	82.6	53.6	29.0	37.7	20.3	1.4	1.4
	30～39歳	107	93.5	89.7	78.5	85.0	58.9	21.5	30.8	16.8	3.7	0.9
	40～49歳	125	91.2	89.6	77.6	77.6	51.2	36.0	27.2	24.8	3.2	0.8
	50～59歳	124	96.8	81.5	77.4	70.2	54.0	44.4	30.6	23.4	-	0.8
	60～69歳	108	91.7	75.9	62.0	60.2	42.6	34.3	24.1	26.9	1.9	2.8
	70歳以上	62	83.9	64.5	62.9	48.4	48.4	24.2	21.0	24.2	1.6	6.5
男性	29歳以下	43	81.4	79.1	65.1	62.8	48.8	23.3	27.9	18.6	2.3	-
	30～39歳	61	88.5	85.2	80.3	86.9	55.7	29.5	39.3	31.1	1.6	-
	40～49歳	72	86.1	79.2	69.4	72.2	51.4	22.2	33.3	31.9	2.8	-
	50～59歳	87	92.0	77.0	63.2	60.9	46.0	31.0	26.4	26.4	1.1	-
	60～69歳	75	89.3	74.7	72.0	69.3	48.0	33.3	30.7	30.7	2.7	2.7
	70歳以上	47	87.2	68.1	53.2	42.6	36.2	21.3	19.1	40.4	4.3	-

※ 濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目。

図 女性が仕事を続けるために必要なこと(前回調査との比較)

■ 前回調査との比較

今回調査と前回調査(平成29年度)を比較すると、「夫やパートナー、家族の理解、協力があること」「職場の理解や協力があること」「育児や介護等、休業が取得しやすい職場環境であること」「女性自身の意識改革」は、いずれも今回調査の方がやや高くなっている。一方、「介護施設の充実」(今回調査30.8%・前回調査45.0%)は、今回調査の方が14.2ポイント低くなっている。



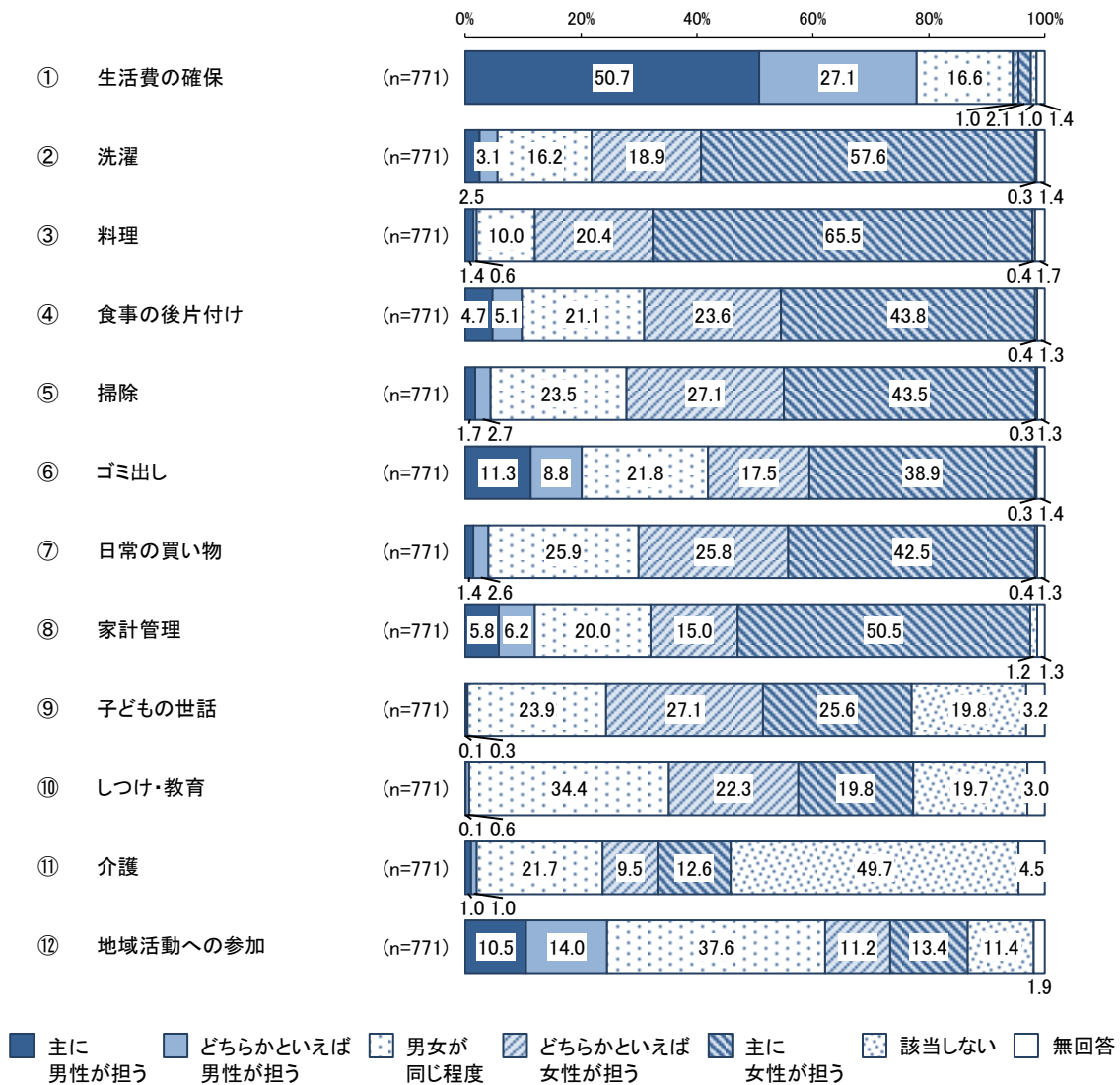
※「夫やパートナー、家族の理解、協力があること」は前回調査では「夫や家族の理解、協力があること」
 ※「仕事の上での悩み事を何でも相談できる場や窓口があること」は今回調査のみの項目

(11)家庭における役割分担

問 14 家庭におけるさまざまな役割について、おたずねします。あなたの家庭では以下のことがらをどのように分担していますか。①から⑫のそれぞれについて一番近いと思われる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)
 ※配偶者やパートナーのいない方は、問 14-1へお進みください。

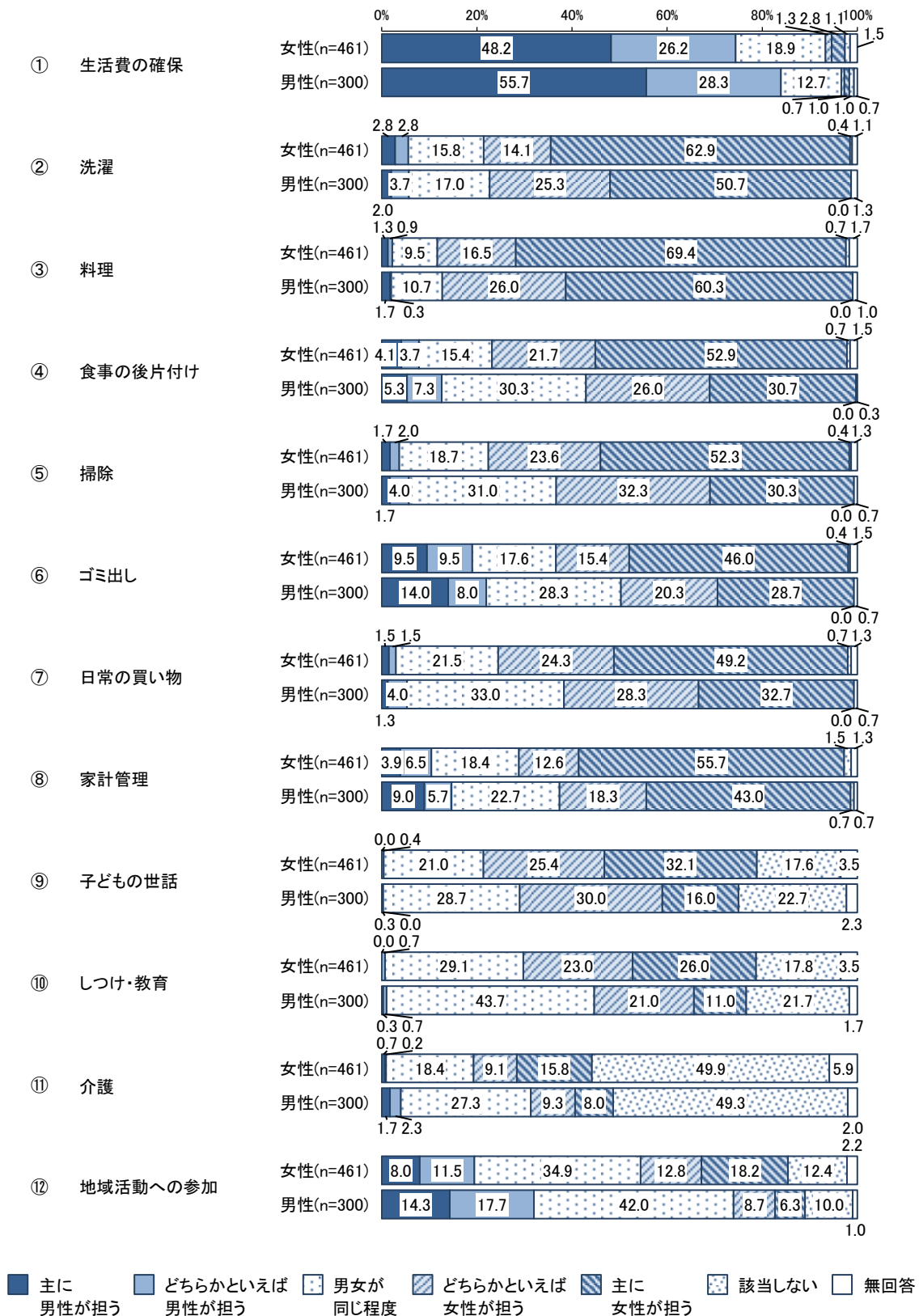
全体では「①生活費の確保」を除くすべての項目で、『女性が担う』(「主に女性が担う」「どちらかといえば女性が担う」の割合の合計)が『男性が担う』(「主に男性が担う」「どちらかといえば男性が担う」の割合の合計)よりも高く、特に「③料理」は『女性が担う』が85.9%と高くなっている。一方で「①生活費の確保」は『男性が担う』が77.8%と高くなっており、「⑫地域活動への参加」は『男性が担う』と『女性が担う』が拮抗し、「男女が同じ程度」が37.6%となっている。

図 家庭における役割分担



性別で見ると、女性の方が男性よりも『女性が担う』の割合が特に高い項目として、「④食事の後片付け」「⑩しつけ・教育」「⑫地域活動への参加」がある。一方で男性の方が女性よりも『男性が担う』の割合が特に高い項目として「①生活費の確保」と「⑫地域活動への参加」がある。

図 性別 家庭における役割分担

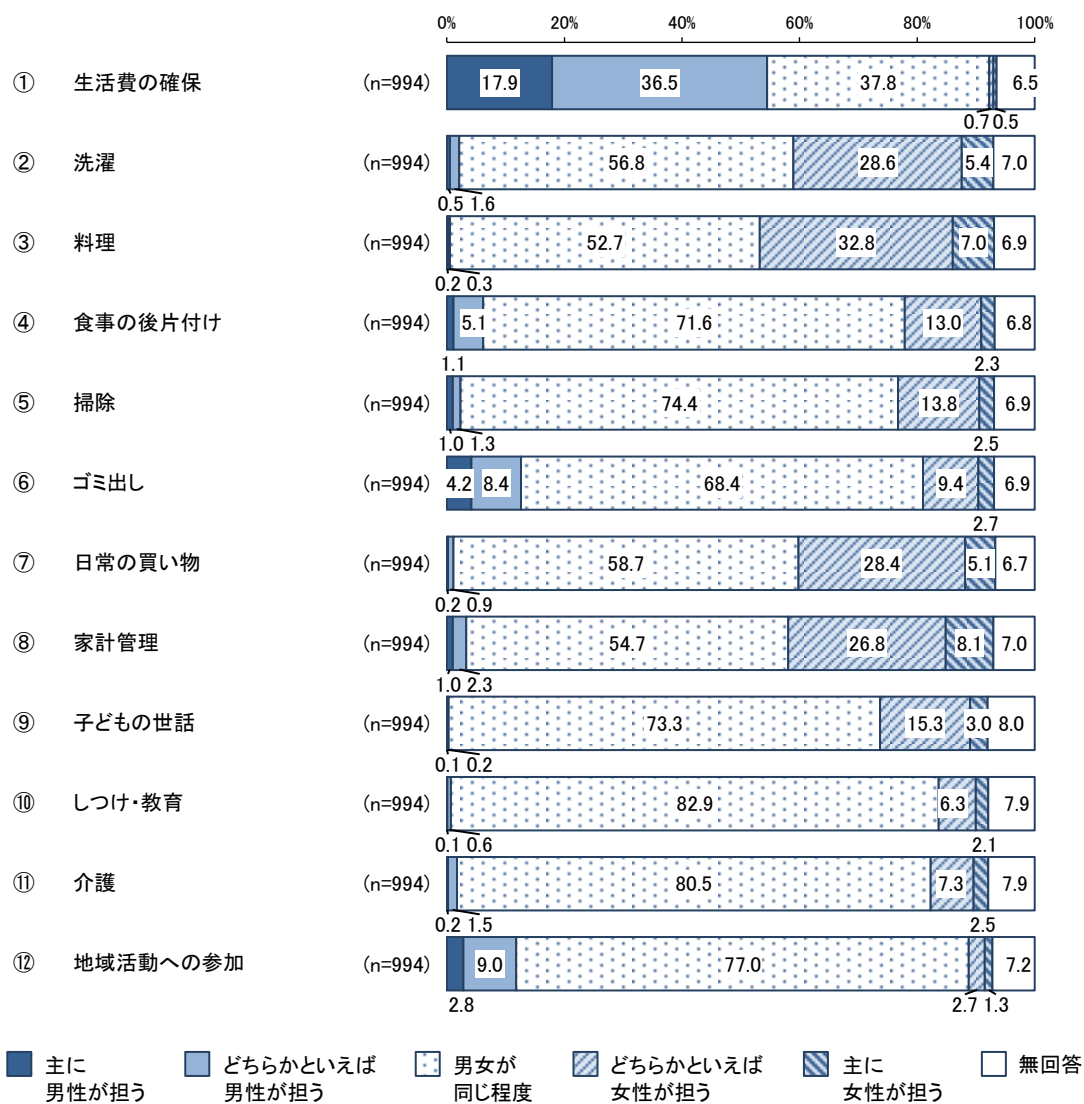


(12)望ましい家庭における役割分担

問 14-1 あなたは以下のことがらをどのように分担するのが良いと思いますか。①から⑫のそれぞれについて一番近いと思われる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)
 ※配偶者やパートナーのいない方も、次のことがどなたの役割だとお考えか、お答えください。

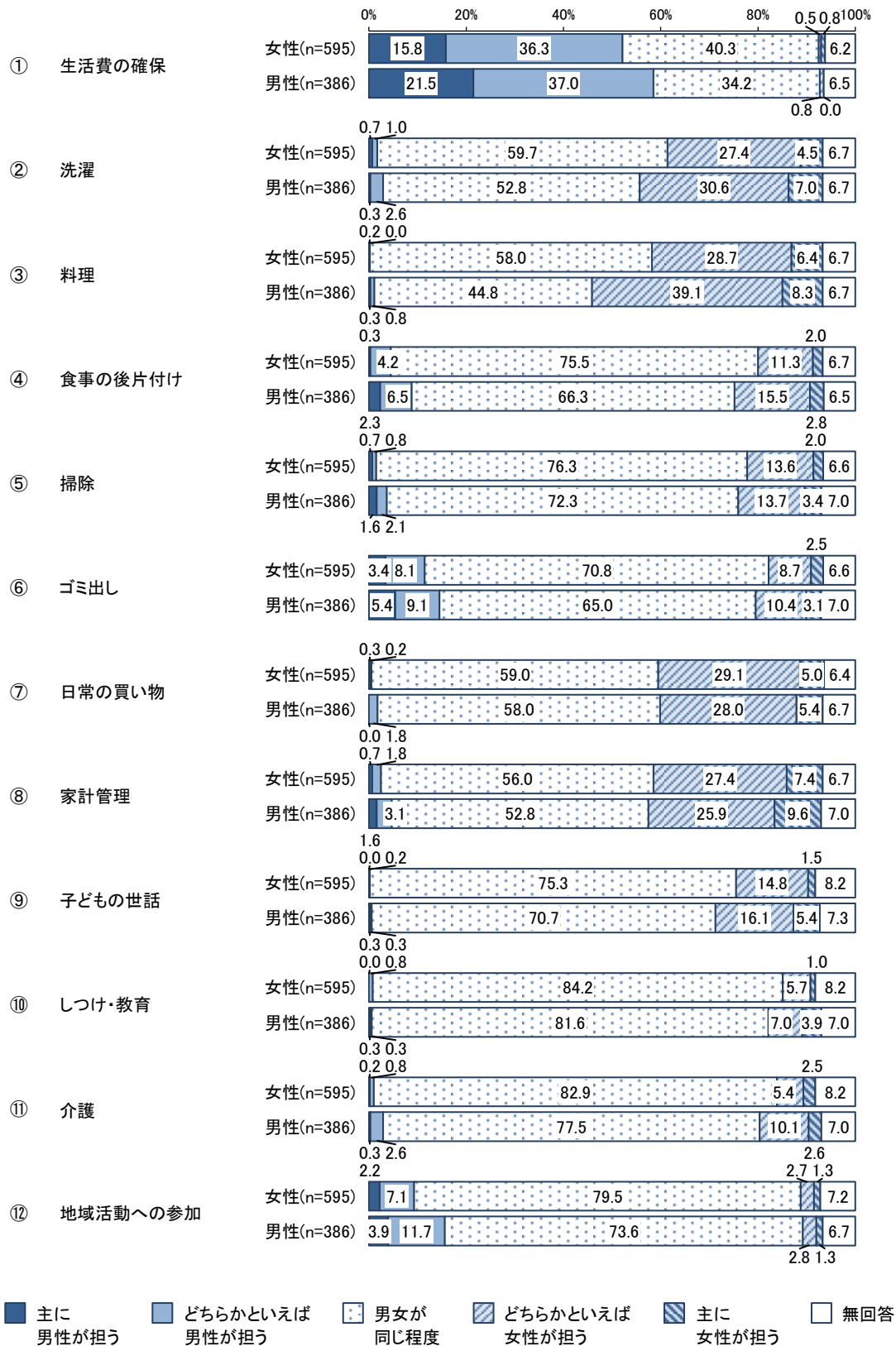
全体では「男女が同じ程度」の割合が特に高い項目として、「⑩しつけ・教育」が82.9%、「⑪介護」が80.5%、「⑫地域活動への参加」が77.0%、「⑤掃除」が74.4%となっている。一方で『女性が担う』の割合が特に高い項目として「③料理」が39.8%、「⑧家計管理」が34.9%、「②洗濯」が34.0%となり、「①生活費の確保」は『男性が担う』が54.4%となっている。

図 望ましい家庭における役割分担



性別で見ると、女性の方が男性よりも『女性が担う』の割合が「③料理」で12.3ポイント、「②洗濯」で5.7ポイント高く、男性の方が女性よりも『男性が担う』の割合が「①生活費の確保」で6.4ポイント高くなっている。

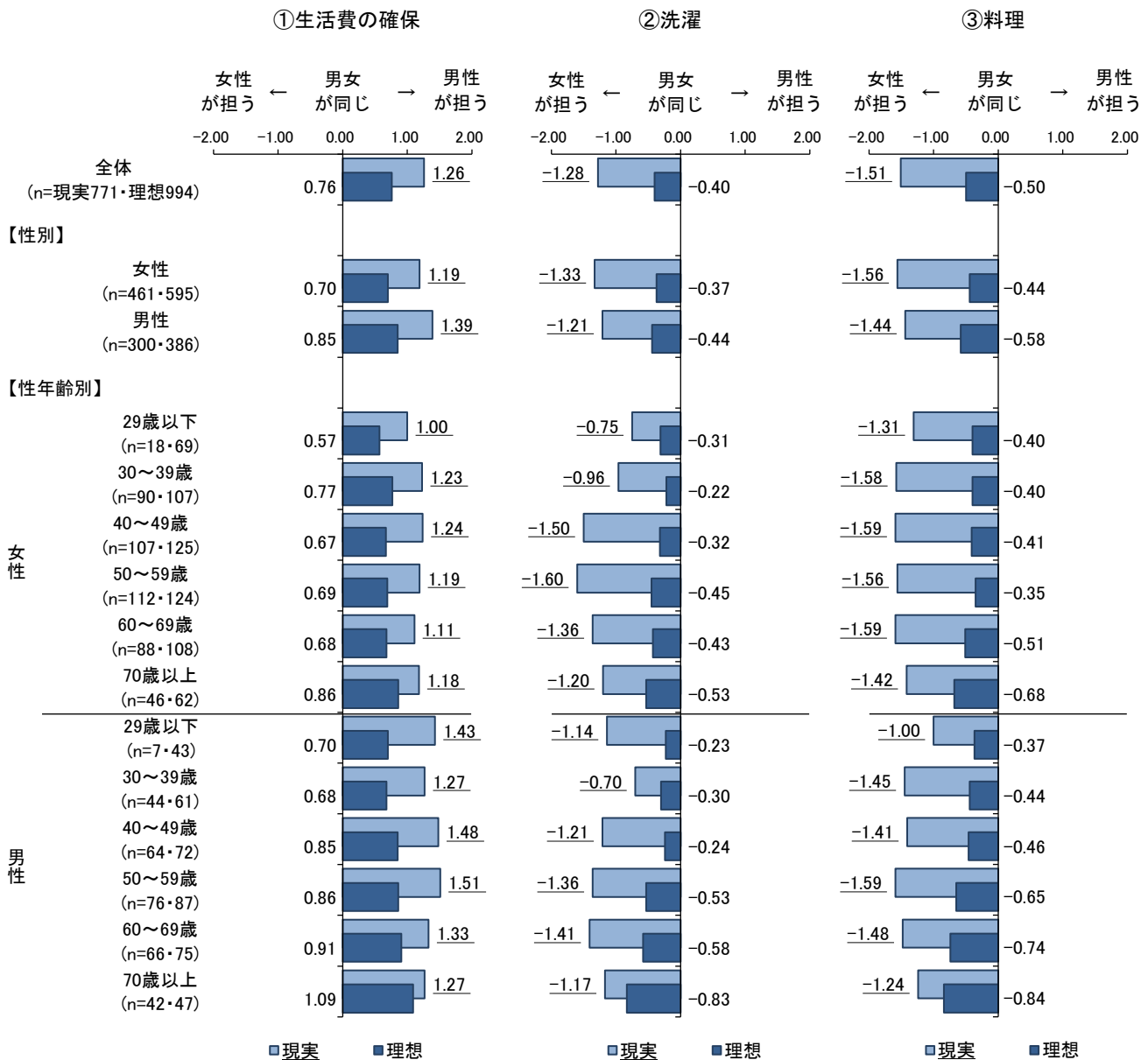
図 性別 望ましい家庭における役割分担



性年齢別に望ましい家庭における役割分担と実際の役割分担を比較するにあたって加重平均による点数化を行っている。加重平均値は「主に男性が担う」に2点、「どちらかといえば男性が担う」に1点、「男女が同じ程度」に0点、「どちらかといえば女性が担う」に-1点、「主に女性が担う」に-2点のウェイトを乗じて平均値を算出したもので、図中左側(マイナス)に近いほど「女性が担う」、右側(プラス)に近いほど「男性が担う」、中心(0.00)に近いほど「男女が同じ」の割合が高いことを示している。

加重平均で見ると、全体では「⑫地域活動への参加」を除くすべての項目で、現実よりも理想(望ましい家庭)の方が「男女が同じ」の割合が高く、この傾向は性別や性年齢別も概ね同様である。一方で「⑫地域活動への参加」は全体では「男性が担う」ことを理想とする割合がやや高く、女性は現実では「女性が担う」、男性は現実では「男性が担う」の割合がそれぞれ高くなっている。

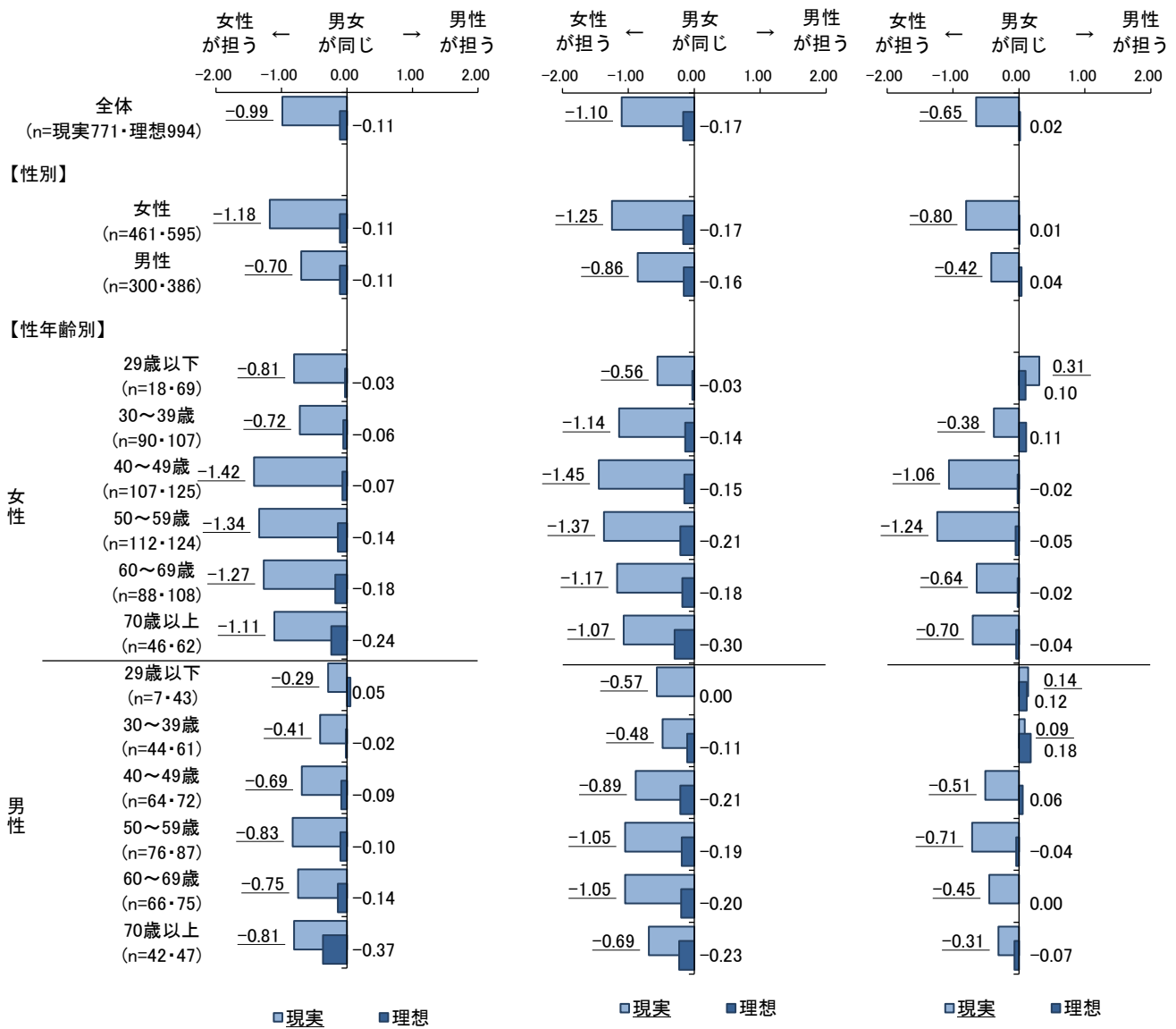
図 性年齢別 望ましい家庭における役割分担と実際の役割分担



④食事の後片付け

⑤掃除

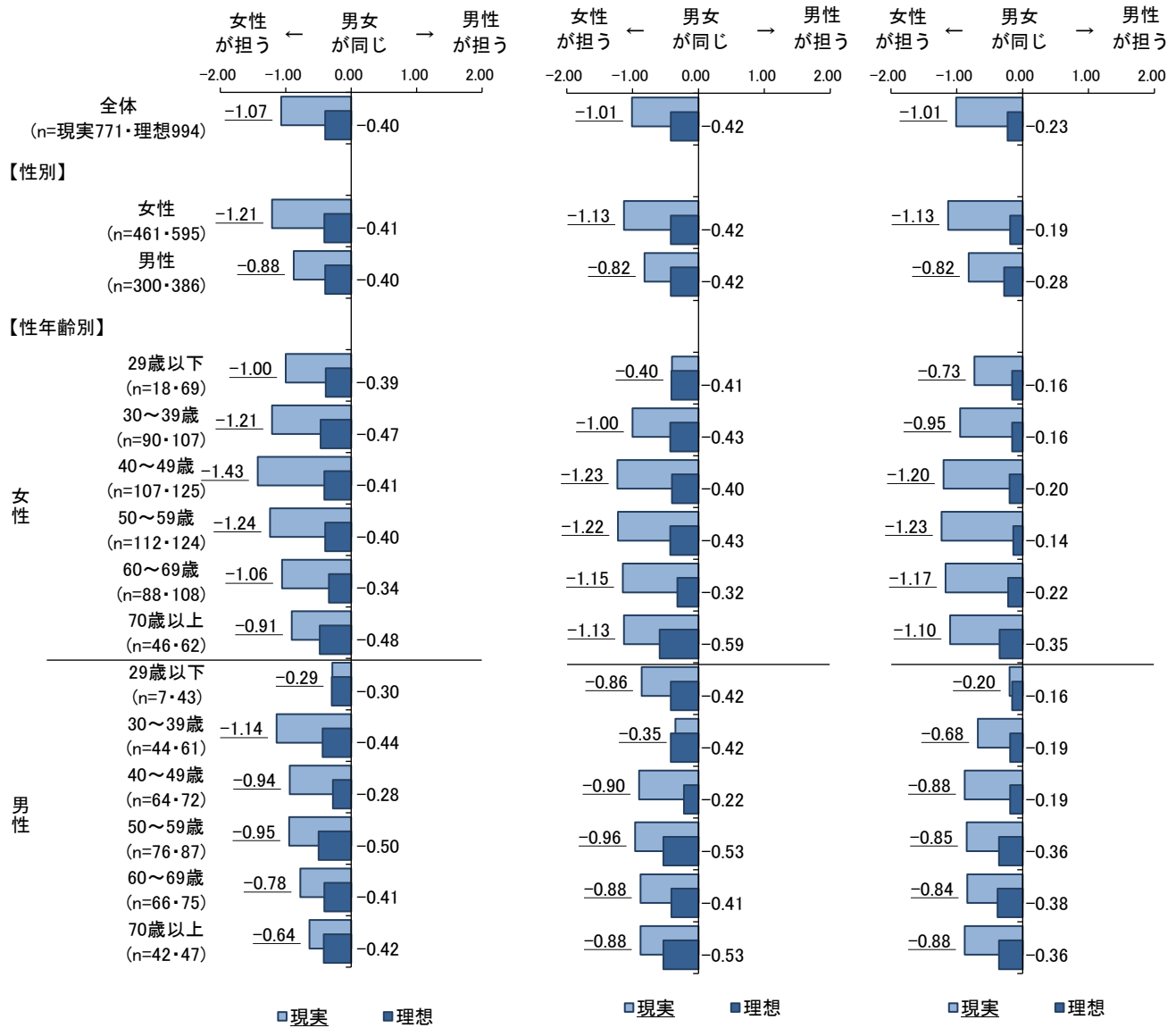
⑥ゴミ出し



⑦ 日常の買い物

⑧ 家計管理

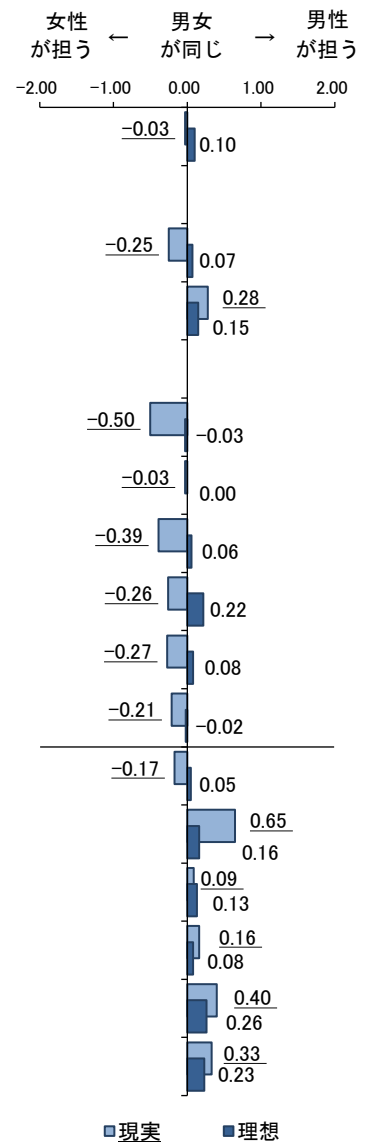
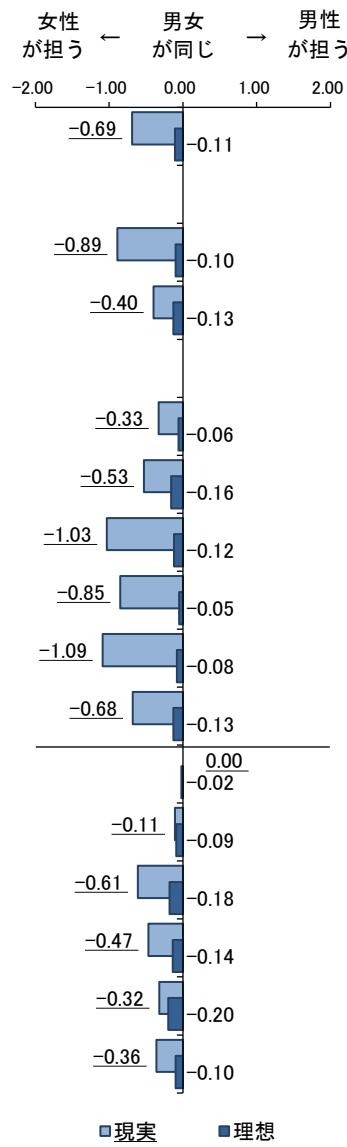
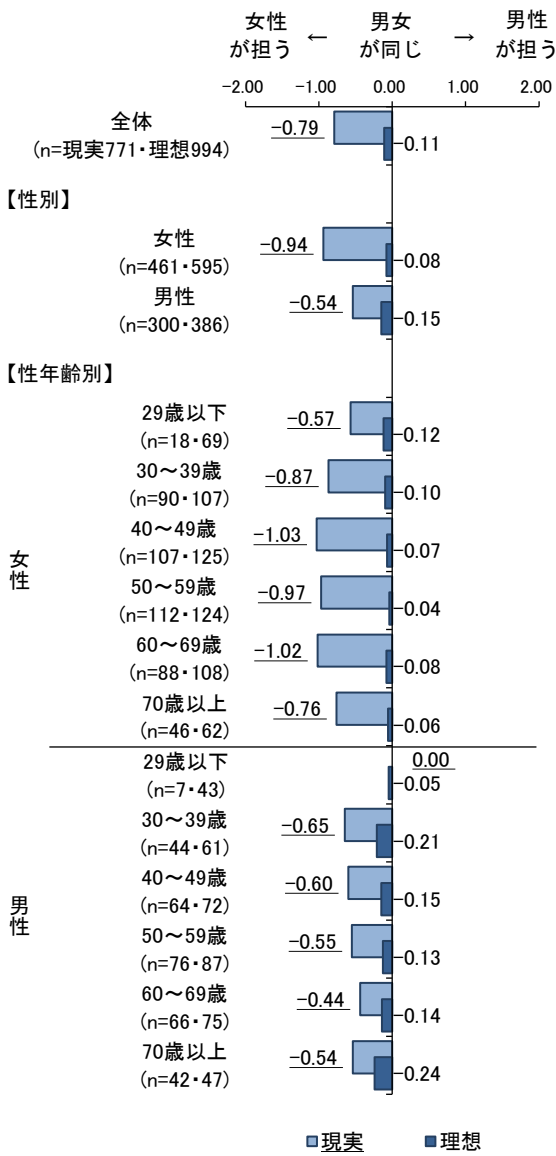
⑨ 子どもの世話



⑩しつけ・教育

⑪介護

⑫地域活動への参加



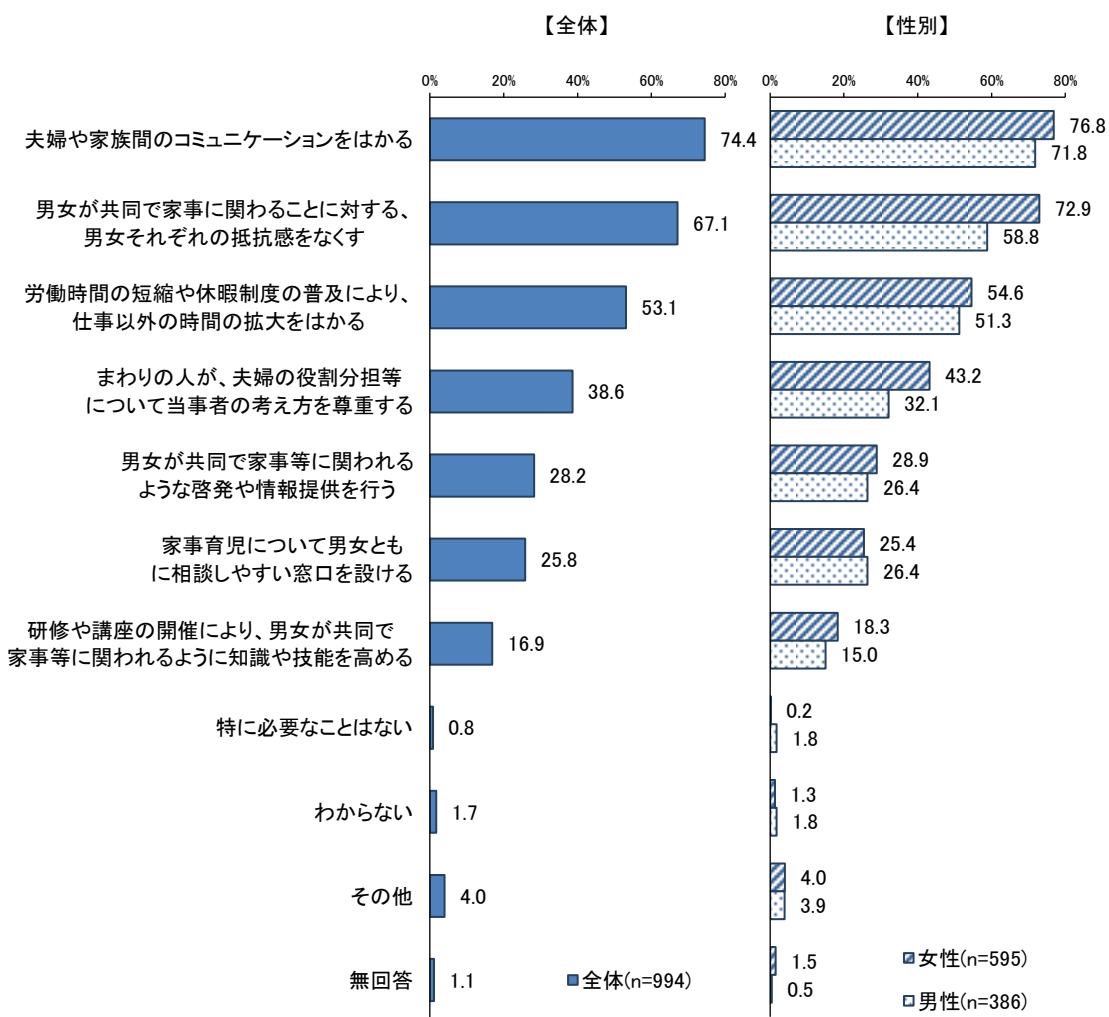
(13)男女が共同で家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要なこと

問 15 今後、男女が共同で、家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」が74.4%で最も高く、次いで「男女が共同で家事に関わることに對する、男女それぞれの抵抗感をなくす」が67.1%、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間の拡大をはかる」が53.1%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「男女が共同で家事に関わることに對する、男女それぞれの抵抗感をなくす」の割合が14.1ポイント、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する」の割合が11.1ポイント高くなっている。

図 男女が共同で家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要なこと



性年齢別で見ると、女性は29歳以下で「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」「男女が共同で家事に関わることに對する、男女それぞれの抵抗感をなくす」「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間の拡大をはかる」「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する」「家事育児について男女ともに相談しやすい窓口を設ける」の5項目が高くなっており、70歳以上で「男女が共同で家事等に関われるような啓発や情報提供を行う」「研修や講座の開催により、男女が共同で家事等に関われるように知識や技能を高める」が高くなっている。男性は30～39歳で「家事育児について男女ともに相談しやすい窓口を設ける」の割合が、他の年齢層と比べて特に高くなっている。

表 性年齢別 男女が共同で家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要なこと

		回答者数(人)	夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	男女が共同で家事に関わることに對する、男女それぞれの抵抗感をなくす	男女が共同で家事に関わることの拡大をはかる	労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間の拡大をはかる	まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する	まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する	男女が共同で家事等に関われるような啓発や情報提供を行う	家事育児について男女ともに相談しやすい窓口を設ける	研修や講座の開催により、男女が共同で家事等に関われるように知識や技能を高める	特に必要なことはない	わからない	その他	無回答
全体		994	74.4	67.1	53.1	38.6	28.2	25.8	16.9	0.8	1.7	4.0	1.1		
女性	29歳以下	69	85.5	82.6	68.1	52.2	26.1	37.7	20.3	-	-	5.8	1.4		
	30～39歳	107	82.2	73.8	63.6	45.8	29.9	23.4	12.1	-	1.9	4.7	0.9		
	40～49歳	125	74.4	70.4	55.2	40.8	27.2	21.6	13.6	-	1.6	4.8	1.6		
	50～59歳	124	71.8	62.1	52.4	42.7	27.4	20.2	21.8	0.8	1.6	5.6	1.6		
	60～69歳	108	72.2	78.7	45.4	34.3	29.6	25.9	17.6	-	0.9	1.9	1.9		
	70歳以上	62	80.6	77.4	43.5	50.0	35.5	32.3	30.6	-	1.6	-	1.6		
男性	29歳以下	43	65.1	65.1	44.2	41.9	23.3	20.9	14.0	-	2.3	7.0	-		
	30～39歳	61	70.5	57.4	57.4	47.5	34.4	42.6	18.0	3.3	-	6.6	-		
	40～49歳	72	69.4	59.7	61.1	36.1	25.0	23.6	12.5	2.8	1.4	2.8	-		
	50～59歳	87	70.1	50.6	49.4	16.1	17.2	17.2	11.5	2.3	1.1	6.9	-		
	60～69歳	75	74.7	65.3	53.3	34.7	32.0	30.7	17.3	1.3	4.0	-	1.3		
	70歳以上	47	80.9	57.4	34.0	23.4	29.8	25.5	19.1	-	2.1	-	2.1		

※ 濃い網掛け は全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛け は全体より5ポイント以上高い項目。

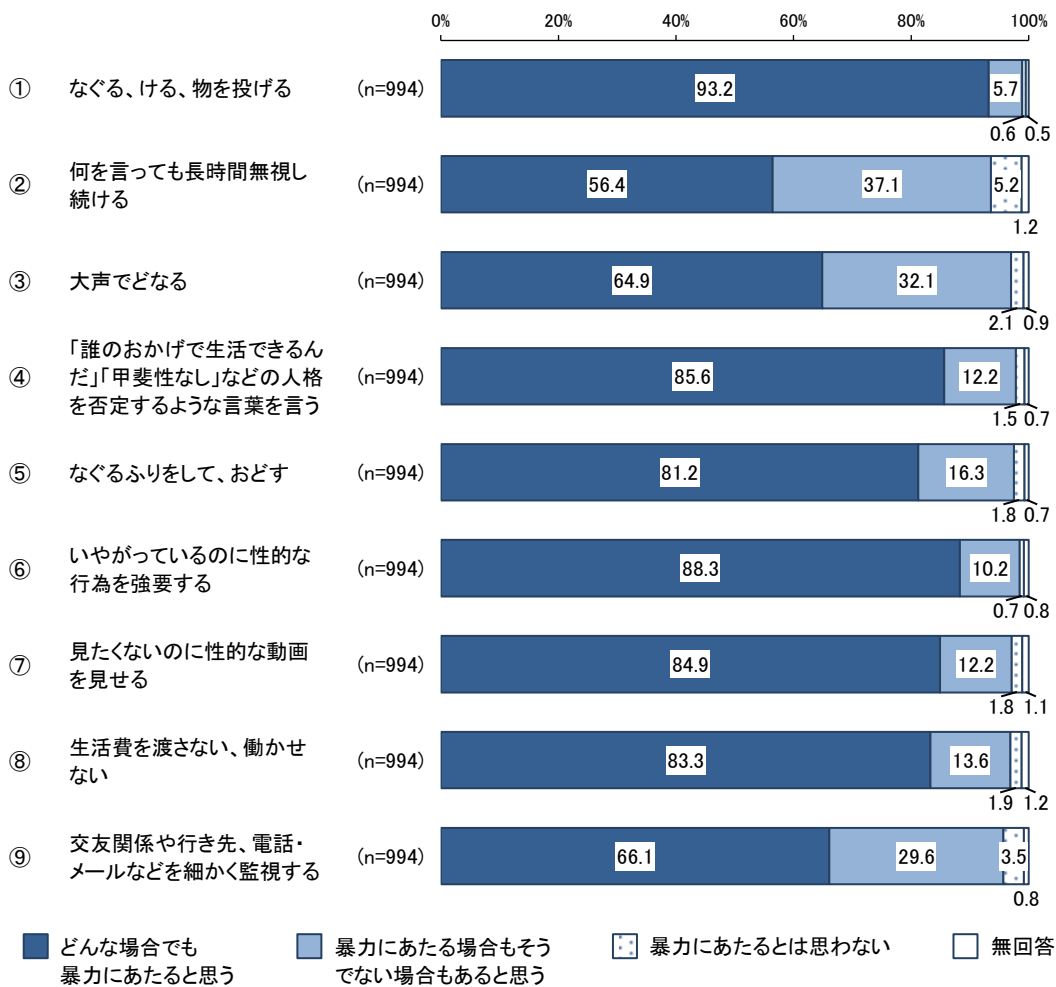
3.DVやハラスメントについて

(1)DVについての認識

問 16 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

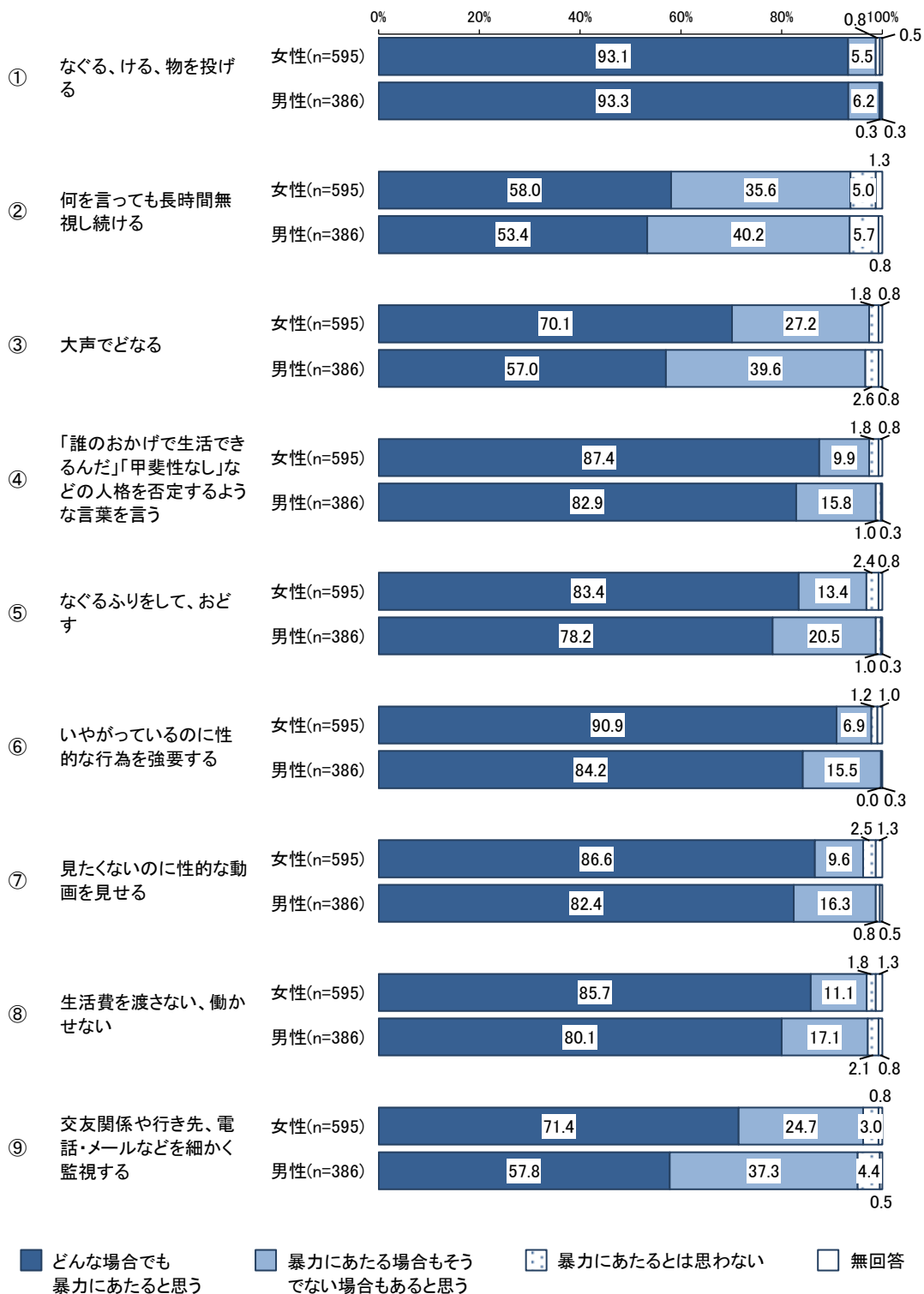
全体では多くの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上を占める一方で、「②何を言っても長時間無視し続ける」「③大声でどなる」「⑨交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」の3項目は「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が3割前後を占めている。

図 DVについての認識



性別で見ると、「①なぐる、ける、物を投げる」を除くすべての項目で、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高く、特に「⑨交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」で13.6ポイント、「③大声でどなる」で13.1ポイントと10ポイント以上高くなっている。

図 性別 DVIについての認識



性年齢別で見ると、女性は50～69歳で「③大声でどなる」、60～69歳で「⑨交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」、男性は30～39歳で「④『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などの人格を否定するような言葉を言う」の割合が、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 DVについての認識 - 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合

		回答者数(n)	① なぐる、ける、物を投げる	② 何を言っても長時間無視し続ける	③ 大声でどなる	④ 誰のおかげで生活できるんだ」甲斐性なし」などの人格を否定するような言葉を言う	⑤ なぐるふりをして、おどす	⑥ いやがつているのに性的な行為を強要する	⑦ 見たくないのに性的な動画を見せる	⑧ 生活費を渡さない、働かせない	⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する
全体		994	93.2	56.4	64.9	85.6	81.2	88.3	84.9	83.3	66.1
女性	29歳以下	69	94.2	58.0	66.7	92.8	88.4	97.1	91.3	87.0	66.7
	30～39歳	107	93.5	58.9	70.1	90.7	89.7	93.5	90.7	90.7	72.9
	40～49歳	125	91.2	49.6	64.0	85.6	80.8	90.4	83.2	86.4	67.2
	50～59歳	124	93.5	63.7	75.0	85.5	79.8	90.3	85.5	83.1	73.4
	60～69歳	108	92.6	65.7	75.0	88.9	87.0	92.6	88.0	87.0	79.6
	70歳以上	62	95.2	48.4	67.7	80.6	72.6	79.0	80.6	77.4	64.5
男性	29歳以下	43	93.0	48.8	48.8	88.4	81.4	88.4	90.7	93.0	58.1
	30～39歳	61	93.4	60.7	65.6	96.7	83.6	93.4	86.9	88.5	57.4
	40～49歳	72	91.7	54.2	55.6	76.4	75.0	75.0	76.4	73.6	47.2
	50～59歳	87	90.8	52.9	59.8	80.5	80.5	82.8	80.5	73.6	56.3
	60～69歳	75	93.3	50.7	52.0	78.7	77.3	84.0	77.3	78.7	65.3
	70歳以上	47	100.0	51.1	57.4	80.9	70.2	85.1	89.4	80.9	63.8

※ **濃い網掛け** は全体より10ポイント以上高い項目。 **薄い網掛け** は全体より5ポイント以上高い項目。

(2)DVを受けた経験の有無

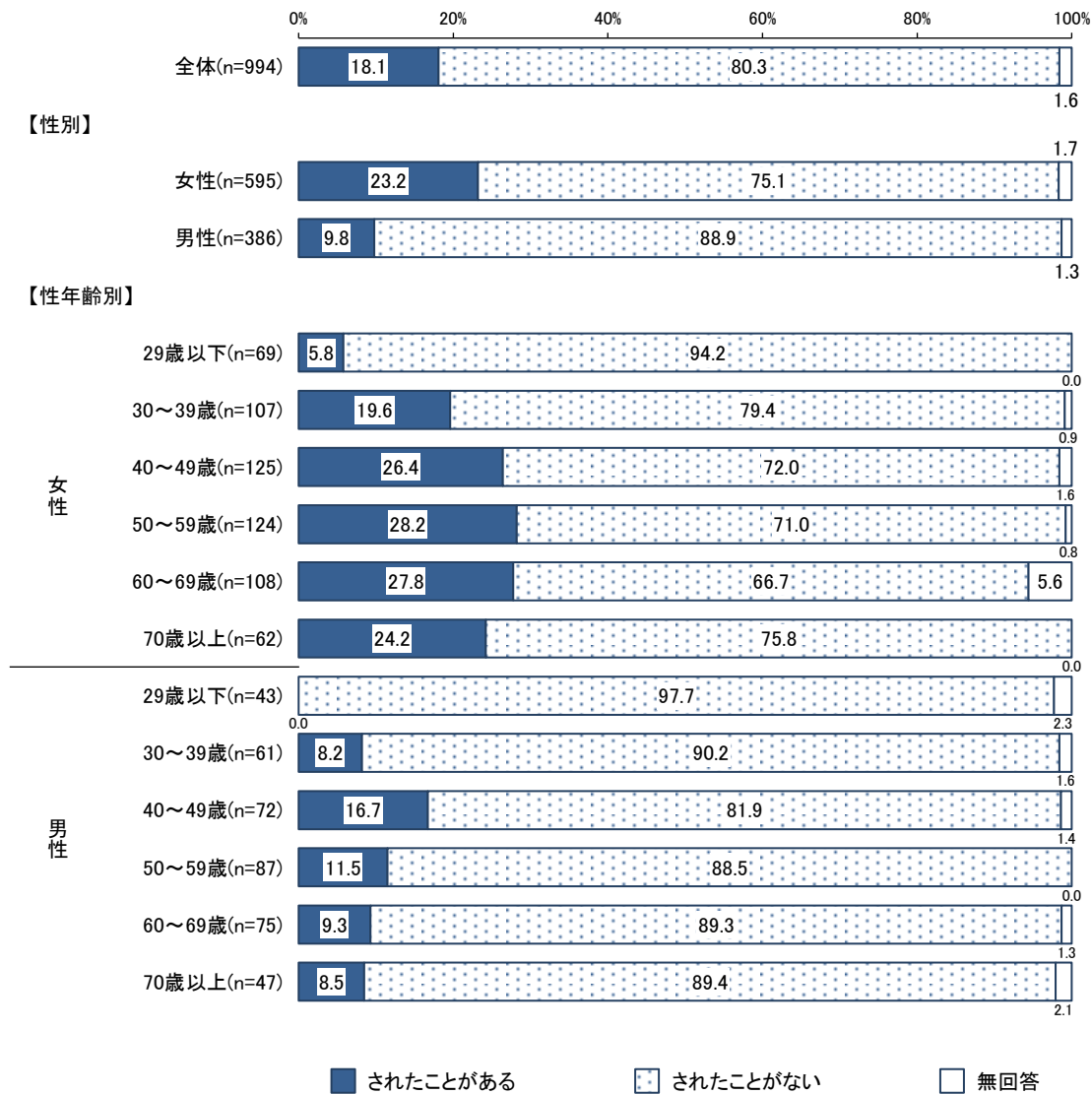
問 17 問 16 で聞いた項目は、すべて「DV」にあたる行為です。あなたは、配偶者・パートナーや恋人から、これらの行為をされたことがありますか。(○はひとつ)

全体では「されたことがある」が18.1%、「されたことがない」が80.3%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「されたことがある」の割合が13.4ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は40歳以上で「されたことがある」が、それぞれ2割以上を占めている。男性は40～49歳で「されたことがある」が16.7%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 DVを受けた経験の有無



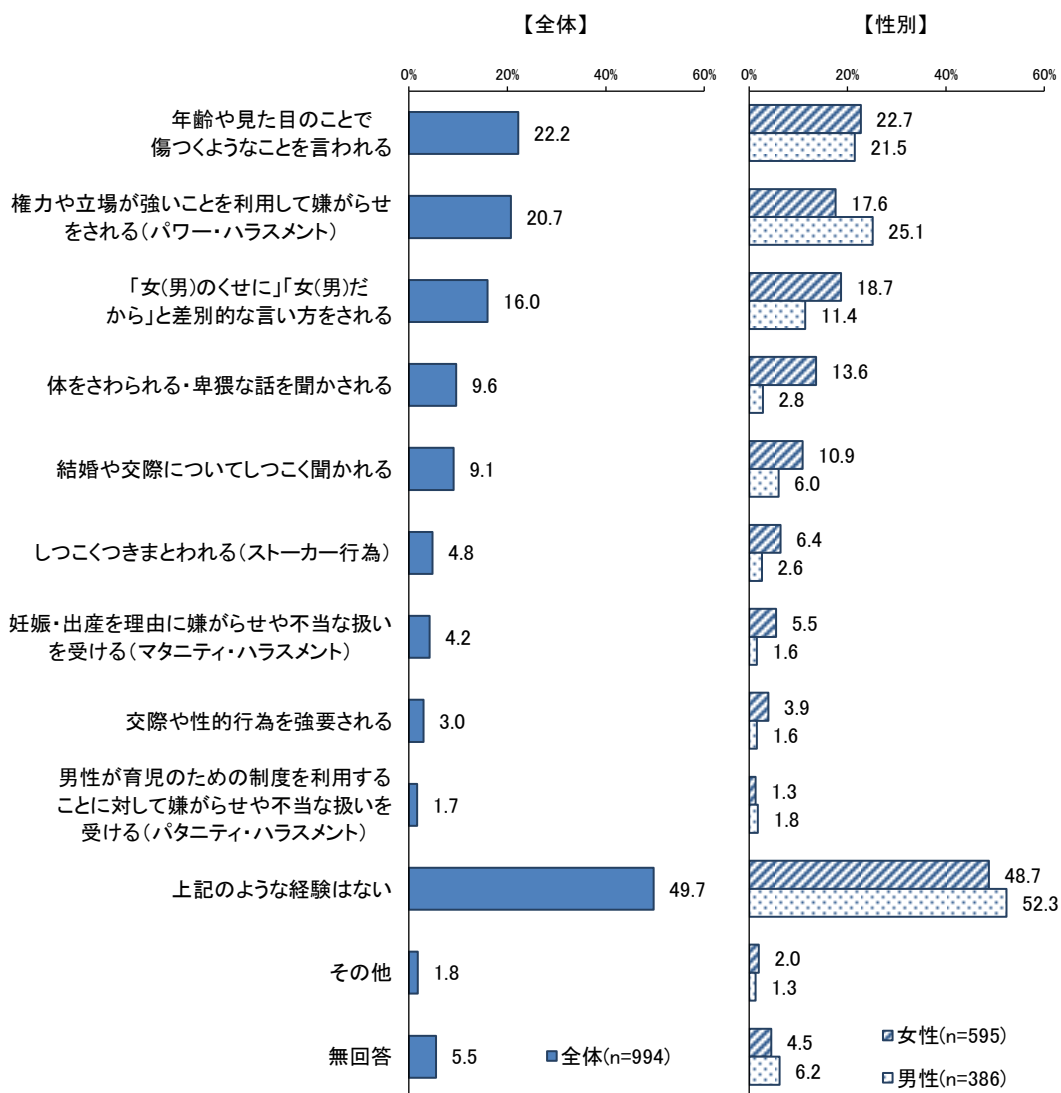
(3) ハラスメント等を受けた経験の有無

問 18 あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような行為を受け、不快と感じたことがありますか。(〇はいくつでも)

全体では「上記のような経験はない」が49.7%で最も高く、次いで「年齢や見た目のことで傷つくようなことを言われる」が22.2%、「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」が20.7%、「『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされる」が16.0%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「体をさわられる・卑猥な話を聞かされる」の割合が10.8ポイント、男性の方が女性よりも「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」の割合が7.5ポイント高くなっている。

図 ハラスメント等を受けた経験の有無



性年齢別で見ると、女性は29歳以下で「結婚や交際についてしつこく聞かれる」、30～39歳で「体をさわられる・卑猥な話を聞かされる」の割合が、他の年齢層と比べて高くなっている。男性は29歳以下で『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされる」の割合が、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 ハラスメント等を受けた経験の有無

		回答者数(n)	年齢や見た目のことで傷つくようなことを言われる	権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)	別的な言い方をされる(女(男)のくせに「女(男)だから」と差別的な言い方をされる)	体をさわられる・卑猥な話を聞かされる	結婚や交際についてしつこく聞かれる	しつこくつきまとわれる(ストーカー行為)	妊娠・出産を理由に嫌がらせや不当な扱いを受ける(マタニティ・ハラスメント)	交際や性的行為を強要される	男性が育児のための制度を利用することに對して嫌がらせや不当な扱いを受ける(パタニティ・ハラスメント)	上記のような経験はない	その他	無回答
全体		994	22.2	20.7	16.0	9.6	9.1	4.8	4.2	3.0	1.7	49.7	1.8	5.5
女性	29歳以下	69	27.5	15.9	17.4	14.5	21.7	13.0	2.9	7.2	2.9	46.4	2.9	-
	30～39歳	107	29.9	27.1	22.4	20.6	17.8	8.4	14.0	7.5	-	36.4	2.8	1.9
	40～49歳	125	21.6	12.8	20.8	15.2	8.0	6.4	8.0	4.8	2.4	52.8	1.6	4.8
	50～59歳	124	18.5	21.0	15.3	8.9	8.9	5.6	3.2	1.6	0.8	54.0	1.6	3.2
	60～69歳	108	19.4	14.8	14.8	10.2	7.4	3.7	1.9	1.9	1.9	52.8	1.9	6.5
	70歳以上	62	21.0	11.3	22.6	12.9	3.2	1.6	-	-	-	46.8	1.6	12.9
男性	29歳以下	43	27.9	23.3	20.9	4.7	14.0	4.7	2.3	4.7	2.3	44.2	2.3	2.3
	30～39歳	61	21.3	26.2	9.8	-	6.6	1.6	-	-	4.9	59.0	1.6	-
	40～49歳	72	26.4	26.4	12.5	1.4	6.9	1.4	2.8	1.4	-	55.6	-	4.2
	50～59歳	87	19.5	25.3	9.2	2.3	1.1	2.3	-	-	1.1	55.2	1.1	4.6
	60～69歳	75	21.3	29.3	10.7	6.7	5.3	5.3	4.0	4.0	2.7	48.0	1.3	10.7
	70歳以上	47	12.8	14.9	8.5	2.1	6.4	-	-	-	-	48.9	2.1	17.0

※ 濃い網掛け は全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛け は全体より5ポイント以上高い項目。

(4)DV・ハラスメントの相談状況

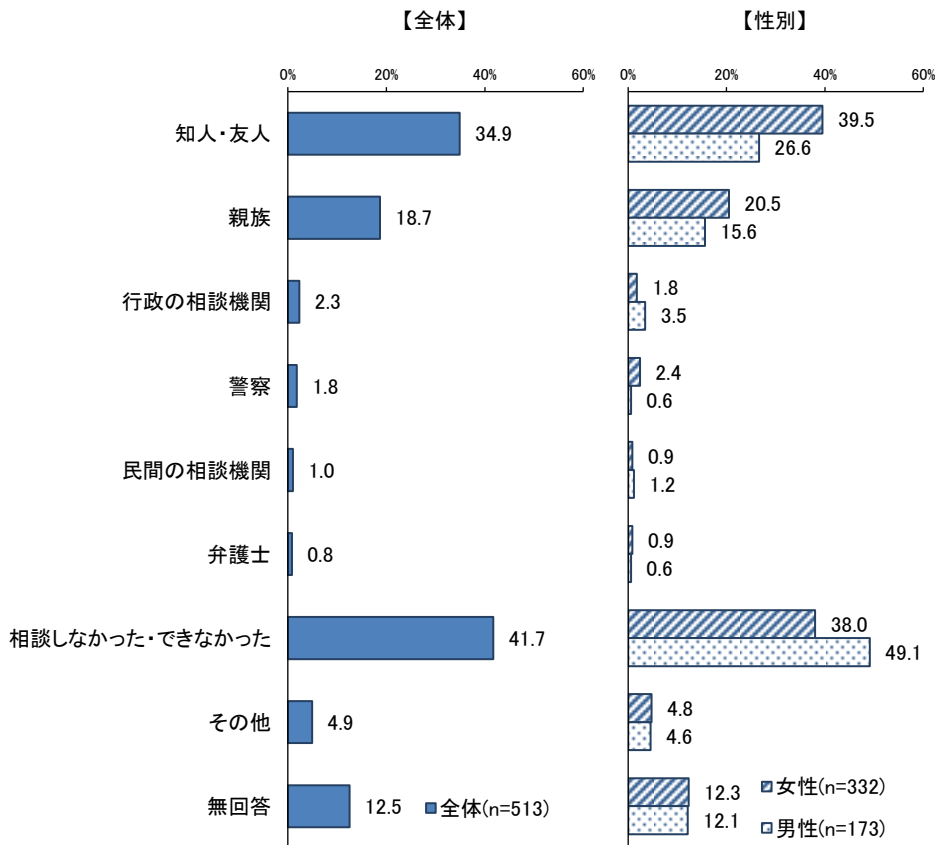
問 17・問 18 で「ある」と回答した方にお聞きします。

問 18-1 あなたはだれか(どこか)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

全体では「相談しなかった・できなかった」が41.7%で最も高く、次いで「知人・友人」が34.9%、「親族」が18.7%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「知人・友人」の割合が12.9ポイント、男性の方が女性よりも「相談しなかった・できなかった」の割合が11.1ポイント高くなっている。

図 DV・ハラスメントの相談状況



性年齢別で見ると、女性の29歳以下で「知人・友人」と「親族」の割合が、他の年齢層と比べて高くなっている。また、男性の60～69歳で「行政の相談機関」が9.1%と、やや高くなっている。男女とも70歳以上で「相談しなかった・できなかった」の割合が他の年齢層と比べて高く、女性は54.5%、男性は64.7%となっている。

表 性年齢別 DV・ハラスメントの相談状況

		回答者数(n)	知人・友人	親族	行政の相談機関	警察	民間の相談機関	弁護士	相談しなかった・できなかった	その他	無回答
全体		513	34.9	18.7	2.3	1.8	1.0	0.8	41.7	4.9	12.5
女性	29歳以下	38	57.9	39.5	-	2.6	-	-	23.7	5.3	15.8
	30～39歳	72	38.9	25.0	1.4	4.2	2.8	1.4	44.4	6.9	4.2
	40～49歳	66	37.9	21.2	3.0	3.0	-	1.5	36.4	6.1	10.6
	50～59歳	67	44.8	14.9	1.5	1.5	1.5	1.5	35.8	3.0	13.4
	60～69歳	56	33.9	17.9	1.8	1.8	-	-	33.9	5.4	14.3
	70歳以上	33	21.2	3.0	3.0	-	-	-	54.5	-	24.2
男性	29歳以下	23	30.4	21.7	4.3	-	4.3	-	52.2	4.3	8.7
	30～39歳	27	29.6	18.5	-	-	-	-	44.4	18.5	3.7
	40～49歳	34	26.5	20.6	-	2.9	-	2.9	47.1	-	20.6
	50～59歳	38	23.7	18.4	2.6	-	2.6	-	52.6	-	10.5
	60～69歳	33	36.4	6.1	9.1	-	-	-	39.4	6.1	12.1
	70歳以上	17	5.9	5.9	5.9	-	-	-	64.7	-	17.6

※ **濃い網掛け** は全体より10ポイント以上高い項目。**薄い網掛け** は全体より5ポイント以上高い項目。

(5)DV・ハラスメントを相談しなかった理由

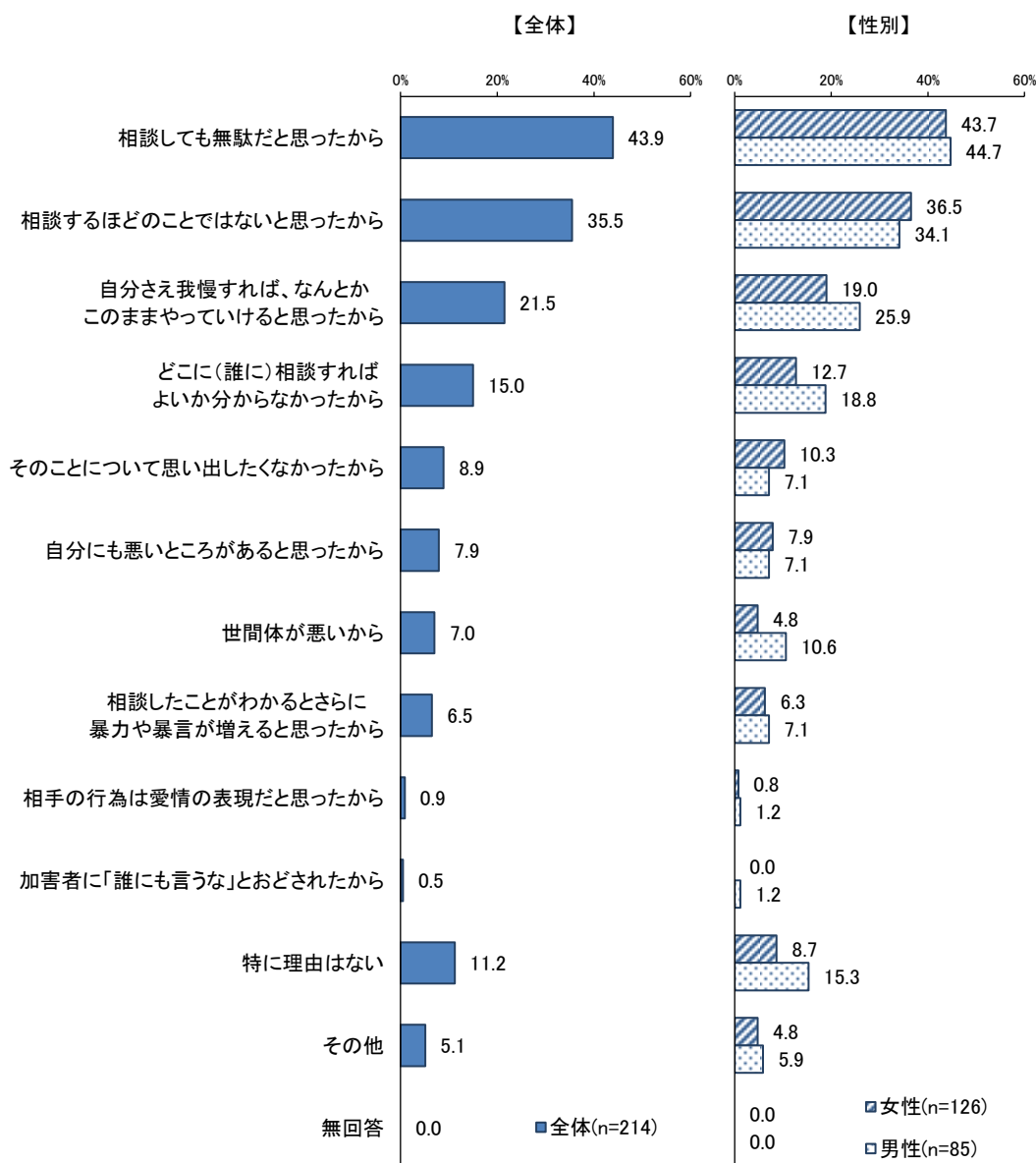
問 18-1で「7. 相談しなかった・できなかった」に回答した方にお聞きします。

問 18-2 相談しなかった理由は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

全体では「相談しても無駄だと思ったから」が43.9%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が35.5%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が21.5%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が6.9ポイント、「どこに(誰に)相談すればよいか分からなかったから」の割合が6.1ポイント高くなっている。

図 DV・ハラスメントを相談しなかった理由



性年齢別で見ると、女性は40～49歳で「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が、他の年齢層と比べて特に高くなっている。男性は40～49歳で「相談するほどのことではないと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」がいずれも5割、50～59歳で「相談しても無駄だと思ったから」が6割と高くなっている。

表 性年齢別 DV・ハラスメントを相談しなかった理由

	回答者数(n)	相談しても無駄だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	どこに(誰に)相談すればよいか分からなかったから	そのことについて思い出しにくかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	世間体が悪いから	力や暴言が増えると思ったから	相談したことがわかるとさらに暴力や暴言が増えると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	特に理由はない	その他	無回答
全体	214	43.9	35.5	21.5	15.0	8.9	7.9	7.0	6.5	0.9	0.5	11.2	5.1	-		
女性	29歳以下	9	55.6	55.6	11.1	22.2	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1	-	
	30～39歳	32	46.9	40.6	15.6	6.3	12.5	6.3	6.3	3.1	-	-	9.4	3.1	-	
	40～49歳	24	45.8	20.8	33.3	20.8	8.3	4.2	4.2	8.3	-	-	8.3	4.2	-	
	50～59歳	24	50.0	33.3	16.7	16.7	8.3	12.5	8.3	8.3	4.2	-	8.3	8.3	-	
	60～69歳	19	47.4	42.1	21.1	10.5	5.3	5.3	-	10.5	-	-	-	5.3	-	
	70歳以上	18	16.7	38.9	11.1	5.6	16.7	16.7	5.6	5.6	-	-	22.2	-	-	
男性	29歳以下	12	33.3	58.3	8.3	8.3	8.3	-	8.3	-	-	-	16.7	-	-	
	30～39歳	12	33.3	16.7	50.0	33.3	25.0	16.7	33.3	16.7	-	8.3	16.7	16.7	-	
	40～49歳	16	43.8	50.0	50.0	12.5	6.3	-	18.8	6.3	6.3	-	6.3	-	-	
	50～59歳	20	60.0	25.0	15.0	15.0	5.0	5.0	-	5.0	-	-	20.0	5.0	-	
	60～69歳	13	53.8	30.8	15.4	30.8	-	7.7	-	-	-	-	23.1	7.7	-	
	70歳以上	11	36.4	18.2	18.2	18.2	-	18.2	9.1	18.2	-	-	9.1	9.1	-	

※ 濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目。
ただし、回答者数(n)が15件未満の項目は除く

4.男女共同参画に関する意識について

(1)性別役割分担意識

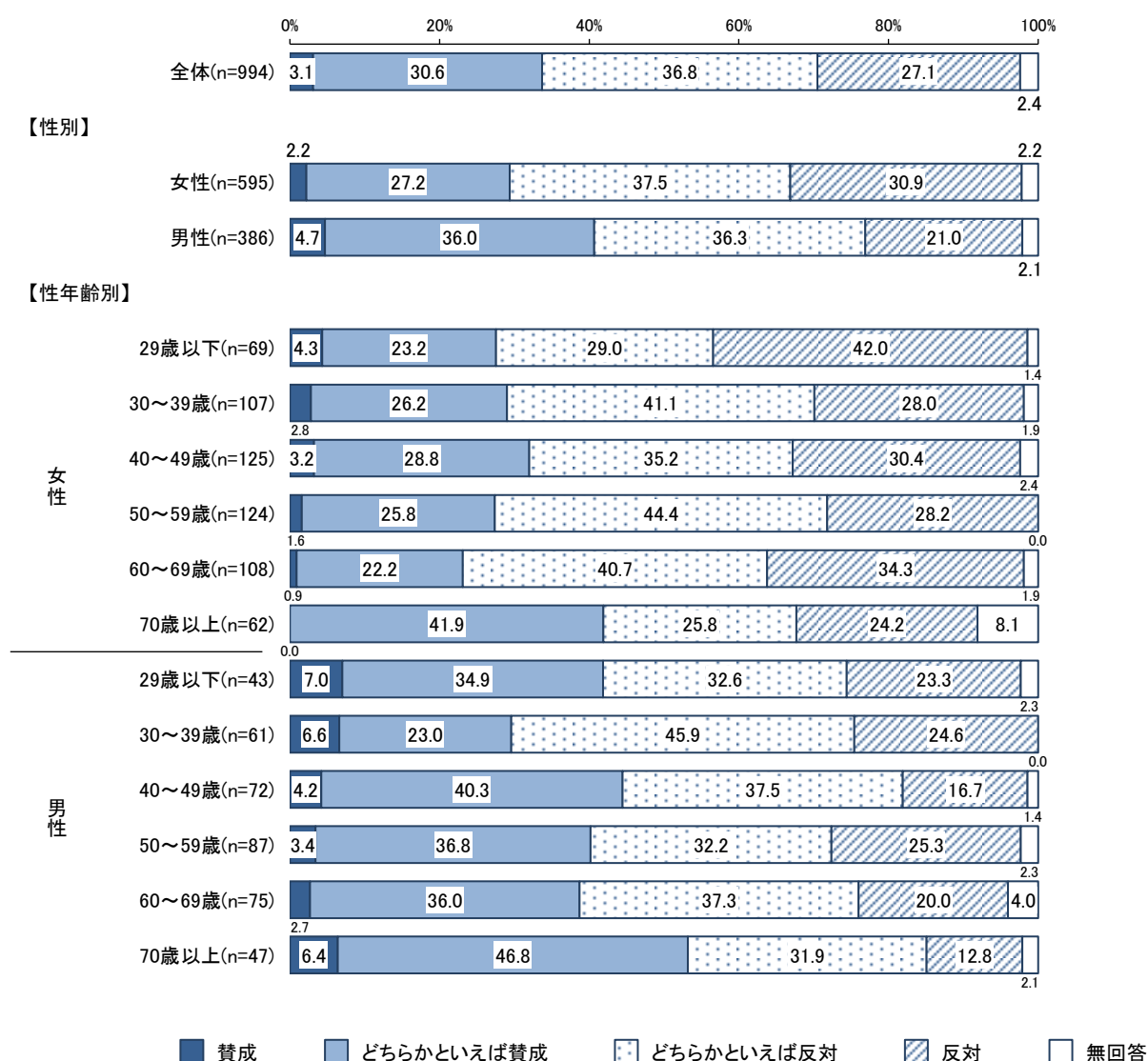
問 19 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどのように思いますか。(〇はひとつ)

全体では『どちらかといえば賛成』(「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合の合計)が33.7%、『どちらかといえば反対』(「反対」「どちらかといえば反対」の割合の合計)が63.9%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも『どちらかといえば賛成』の割合が11.3ポイント高くなっている。

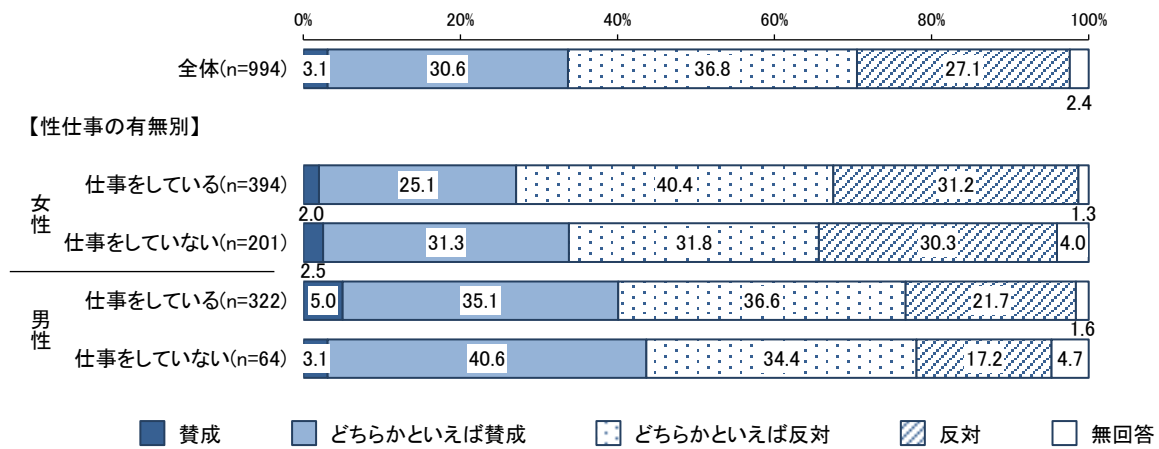
性年齢別で見ると、男性の30～39歳は『どちらかといえば反対』が70.5%で、同じ年代の女性(69.1%)とほぼ同じ割合となっており、30～39歳の男女の意識差は小さい。男女とも70歳以上の『どちらかといえば賛成』が他の年齢層と比べて特に高く、女性で41.9%、男性で53.2%となっている。

図 性別役割分担意識



性仕事の有無別で見ると、男女とも、仕事をしていない人より仕事をしている人の方が『(どちらかといえば)反対』の割合が高く、女性の仕事をしている人では『(どちらかといえば)反対』が71.6%となっている。

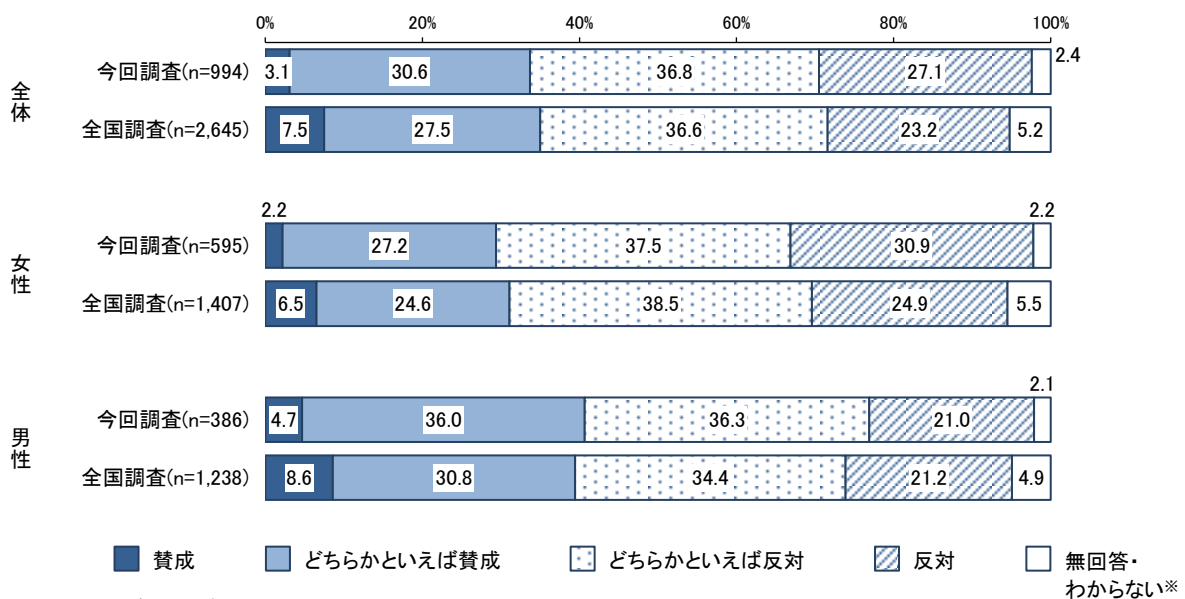
図 性仕事の有無別 性別役割分担意識



■全国調査との比較

今回調査と全国調査(令和元年度)を比較すると、全体では、今回調査の方が全国調査よりも『(どちらかといえば)反対』の割合が4.1ポイント高くなっている。性別で見ると、男女で大きな差は見られない。

図 性別 性別役割分担意識(全国調査との比較)

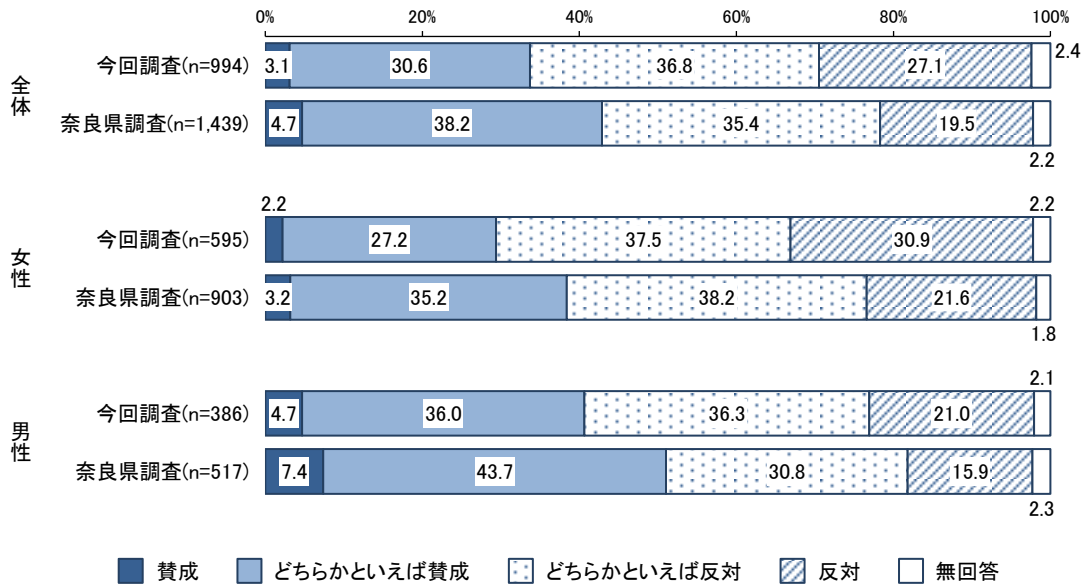


※「わからない」は全国調査のみの項目

■奈良県調査との比較

今回調査と奈良県調査(令和元年度)を比較すると、今回調査の方が奈良県調査よりも『どちらかといえば反対』の割合が約10ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担意識(奈良県調査との比較)

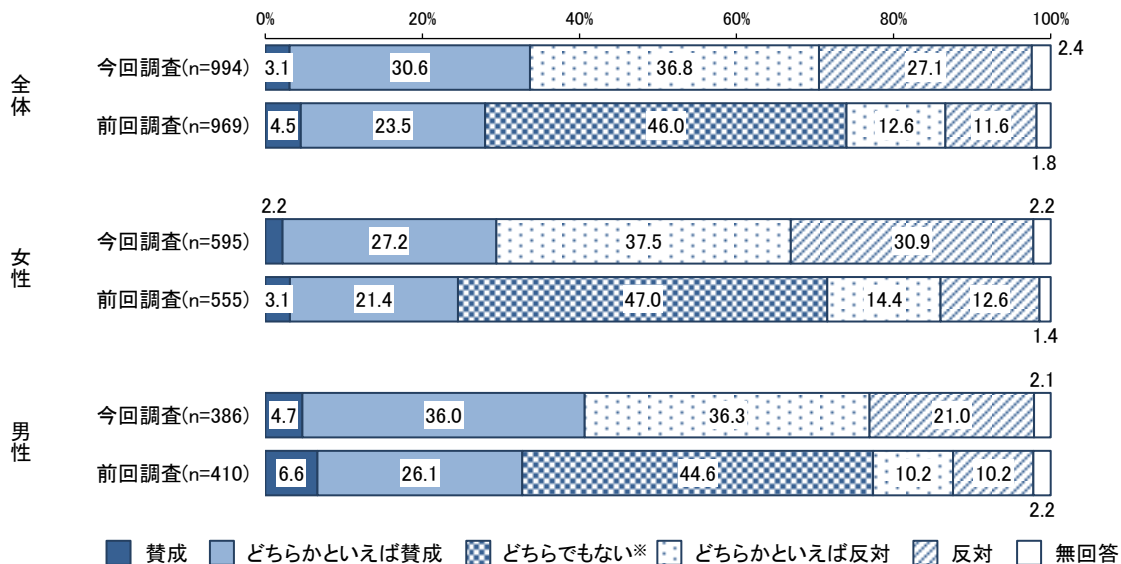


■前回調査との比較

今回調査と前回調査(平成29年度)を比較すると、全体では、前回調査では『どちらかといえば反対』よりも『どちらかといえば賛成』の割合が高くなっていたが、今回調査では『どちらかといえば賛成』よりも『どちらかといえば反対』の割合が高くなっている。

性別で見ると、前回調査では女性は『どちらかといえば賛成』よりも『どちらかといえば反対』、男性は『どちらかといえば反対』よりも『どちらかといえば賛成』の割合が高くなっていたが、今回調査では男女とも『どちらかといえば反対』の割合が高くなっている。

図 性別 性別役割分担意識(前回調査との比較)



※「どちらでもない」は前回調査のみの項目

(2)家庭や子育てについての考え方

問 20 あなたは、次にあげるような考え方についてどのように思いますか。①から③のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)

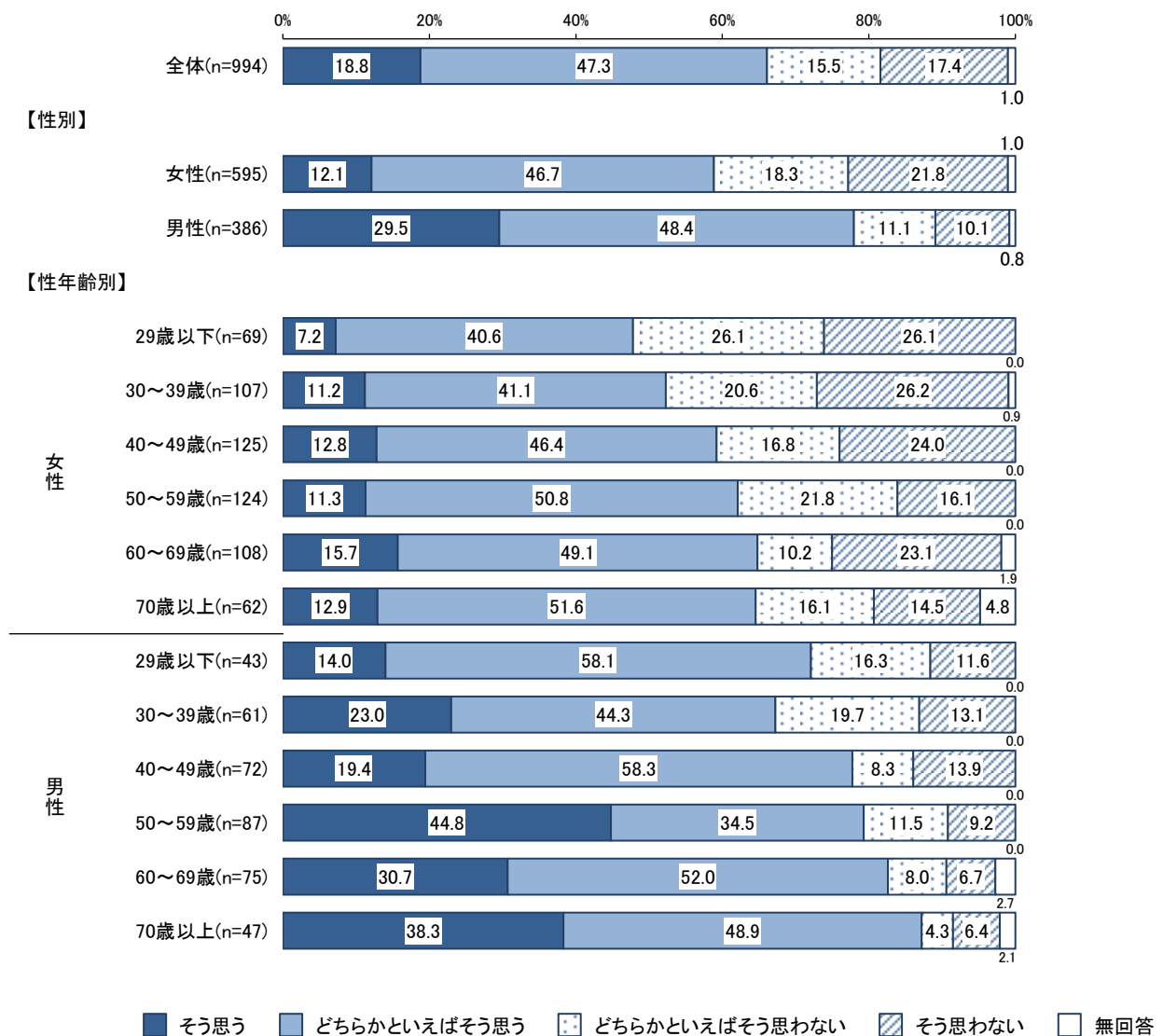
①妻や子どもを養うのは、男性の責任である

全体では『(どちらかといえば)そう思う』(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の合計)が66.1%、『(どちらかといえば)そう思わない』(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合の合計)が32.9%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも『(どちらかといえば)そう思う』の割合が19.1ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は年齢が高まるにつれて、『(どちらかといえば)そう思う』の割合が高くなる傾向にある。男性は60歳以上で『(どちらかといえば)そう思う』の割合が8割以上と高くなっている。

図 ①妻や子どもを養うのは、男性の責任である



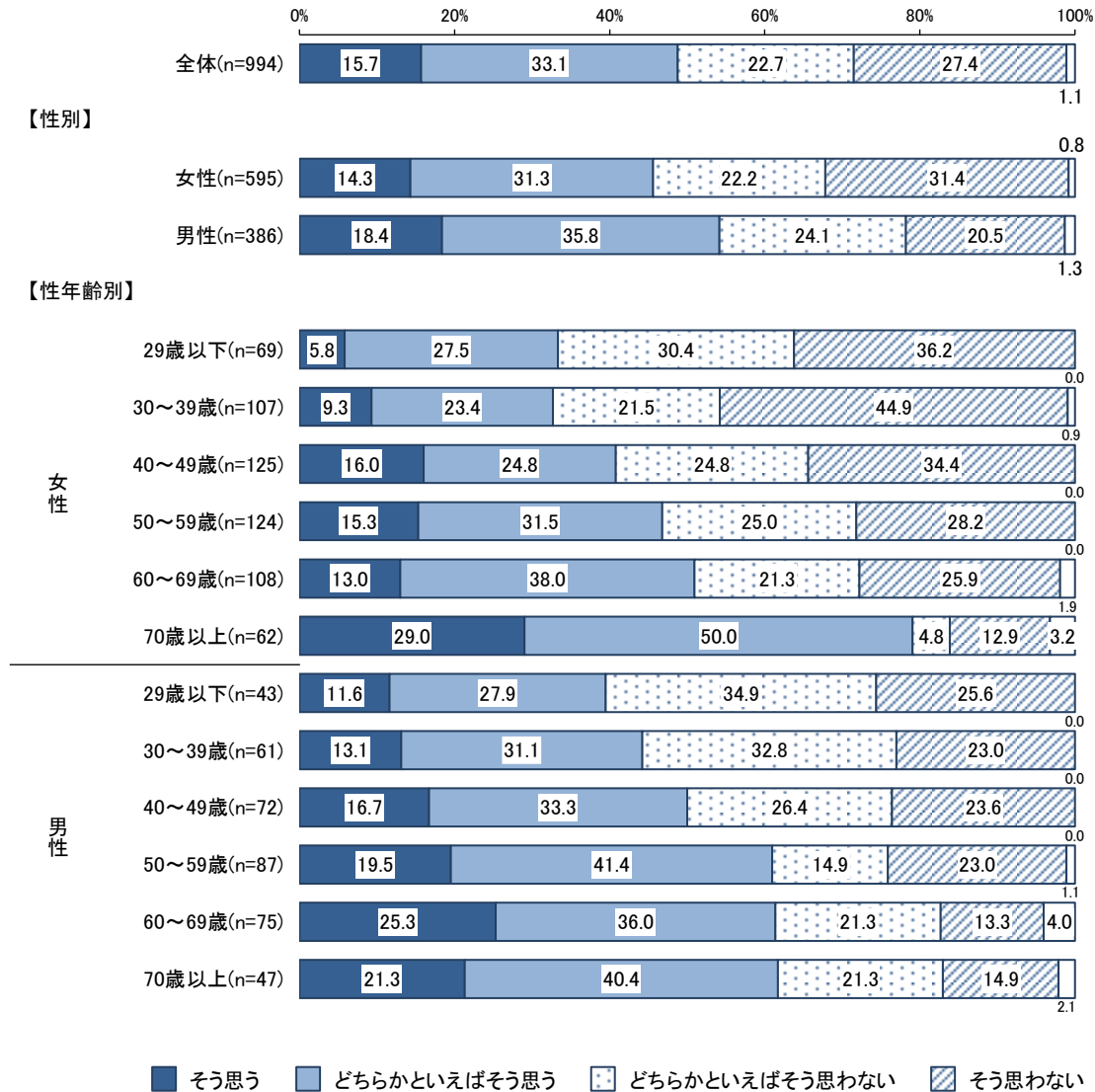
②子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい

全体では『(どちらかといえば)そう思う』が48.8%、『(どちらかといえば)そう思わない』が50.1%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも『(どちらかといえば)そう思う』の割合が8.6ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性の70歳以上で『(どちらかといえば)そう思う』の割合が79.0%と特に高くなっている。男性は年齢が高まるにつれて『(どちらかといえば)そう思う』の割合が高くなっている。

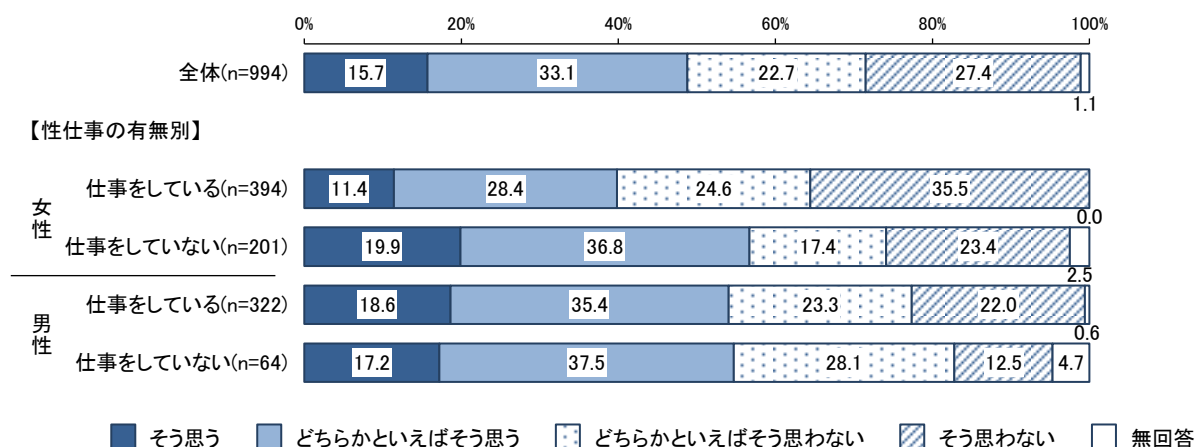
図 ②子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい



性仕事の有無別で見ると、女性の仕事をしている人では『(どちらかといえば)そう思わない』が60.1%と高く、『(どちらかといえば)そう思う』の39.8%を上回っている。一方、女性の仕事をしていない人は『(どちらかといえば)そう思わない』(40.8%)よりも『(どちらかといえば)そう思う』(56.7%)の割合が高くなっている。

男性は仕事をしている人、仕事をしていない人いずれも『(どちらかといえば)そう思う』が約55%となっている。

図 性仕事の有無別 ②子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい



③男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

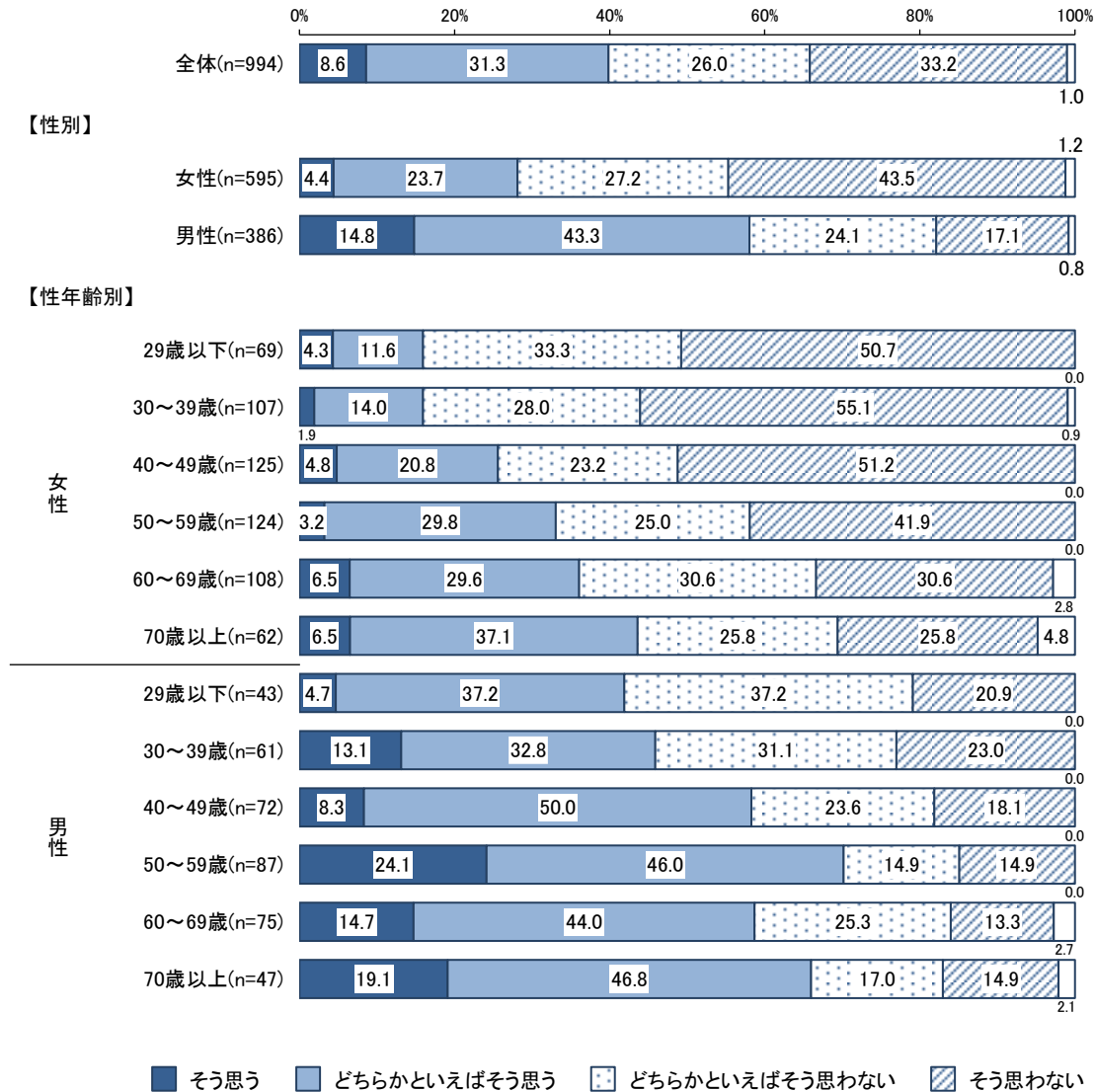
全体では『(どちらかといえば)そう思う』が39.9%、『(どちらかといえば)そう思わない』が59.2%となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも『(どちらかといえば)そう思う』の割合が30.0ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は年齢が高まるにつれて『(どちらかといえば)そう思う』の割合が高くなっている。

男性は50～59歳で『(どちらかといえば)そう思う』の割合が他の年齢層と比べて高く、70.1%となっている。

図 ③男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい



■前回調査との比較

今回調査と前回調査(平成29年度)を比較すると、「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」という考え方については、『(どちらかといえば)そう思う』の割合に大きな違いは見られないが、『(どちらかといえば)そう思わない』の割合は前回調査よりも高くなっている。

「②子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい」という考え方については、前回調査では『(どちらかといえば)そう思う』が69.1%を占め、『(どちらかといえば)そう思わない』は12.4%にとどまっていたが、今回調査では『(どちらかといえば)そう思う』と『(どちらかといえば)そう思わない』がそれぞれ約5割となっている。

「③男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」という考え方については、前回調査では『(どちらかといえば)そう思う』が49.4%、『(どちらかといえば)そう思わない』が17.7%となっていたが、今回調査では『(どちらかといえば)そう思わない』が59.2%となっている。

図 ①妻や子どもを養うのは、男性の責任である(前回調査との比較)

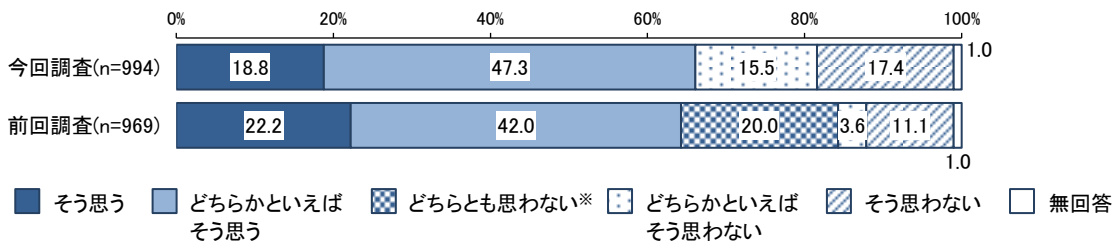


図 ②子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい(前回調査との比較)*

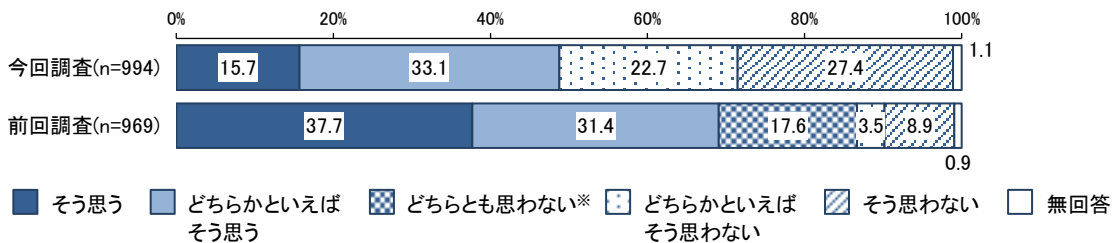
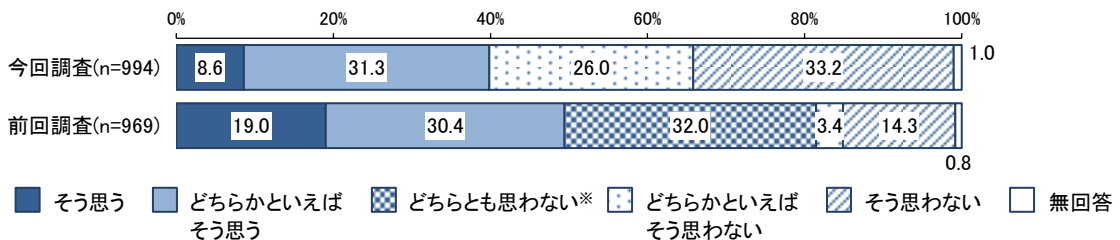


図 ③男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい(前回調査との比較)



*「子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい」は前回調査では「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」

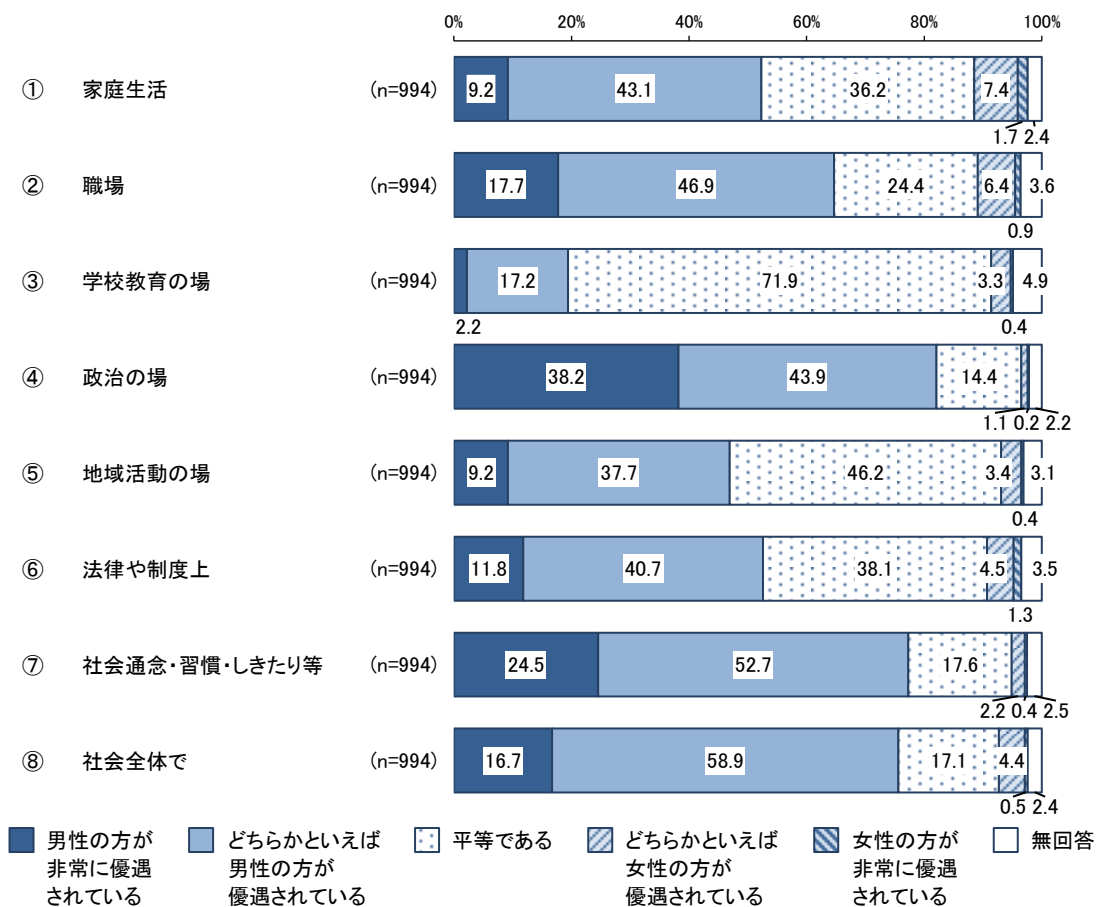
*「どちらとも思わない」は前回調査のみの項目

(3)男女の地位の平等感

問 21 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 ①から⑧のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)

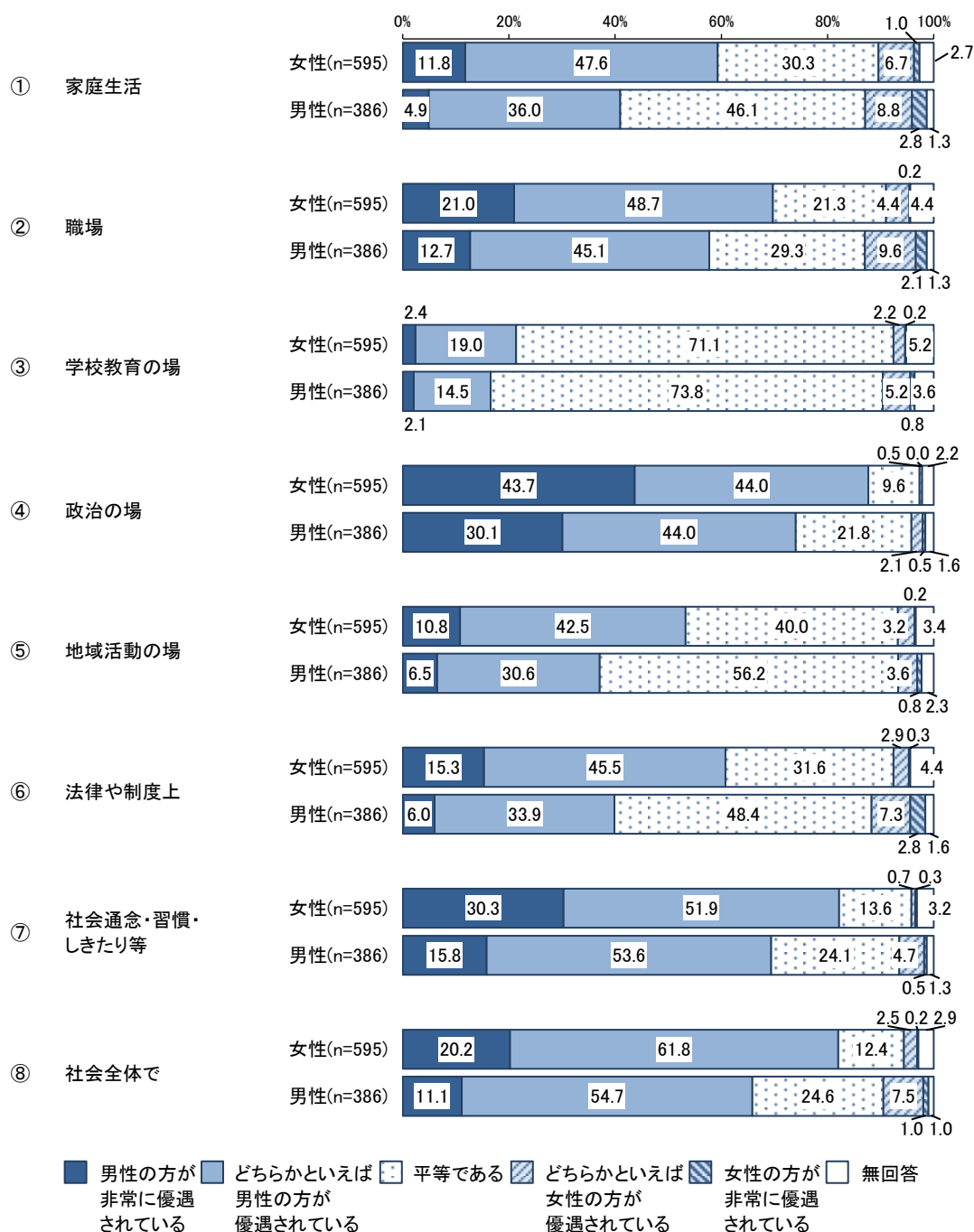
全体では「③学校教育の場」を除くすべての分野で『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合の合計)の割合が最も高くなっている。『男性優遇』は「④政治の場」(82.1%)、「⑦社会通念・習慣・しきたり等」(77.2%)、「⑧社会全体で」(75.6%)の順に高くなっている。

図 男女の地位の平等感



性別で見ると、すべての分野で女性の方が男性よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、特に「⑥法律や制度上」で20.9ポイント、「①家庭生活」で18.5ポイント、「⑤地域活動の場」と「⑧社会全体で」でそれぞれ16.2ポイント高くなっている。

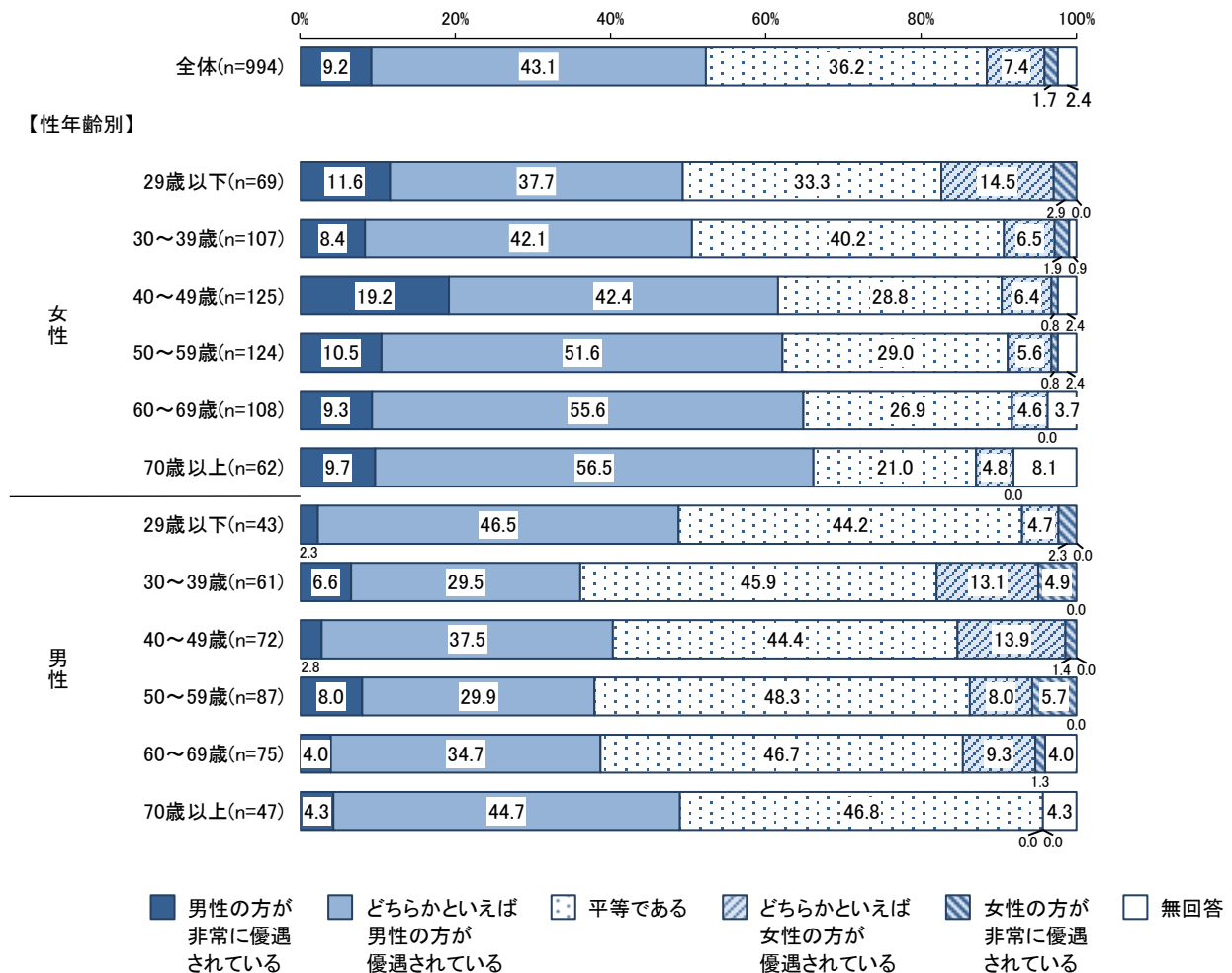
図 性別 男女の地位の平等感



①家庭生活

性年齢別で見ると、女性は年齢が高まるにつれて、『男性優遇』の割合が高くなり、70歳以上で66.2%となっている。男性は、『男性優遇』が29歳以下と70歳以上で高く、30～39歳から60～69歳では概ね同程度である。30～39歳では『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合の合計）が18.0%と2割近くとなっている。

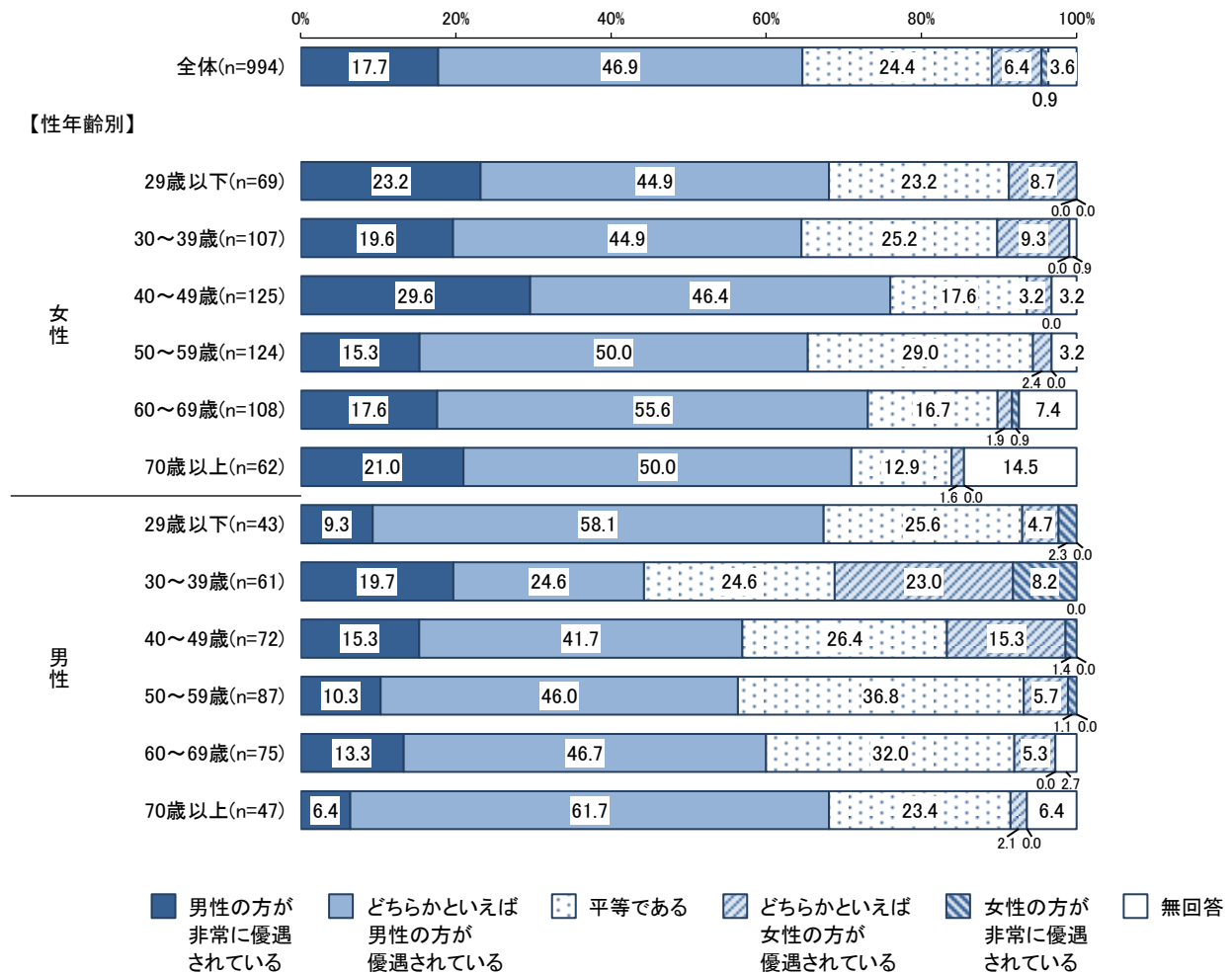
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ①家庭生活



②職場

性年齢別で見ると、女性は年齢を問わず『男性優遇』が6～7割台、「平等である」が1～2割台である。男性は30～39歳で『女性優遇』が31.2%と、他の年齢層と比べて特になくなっている。

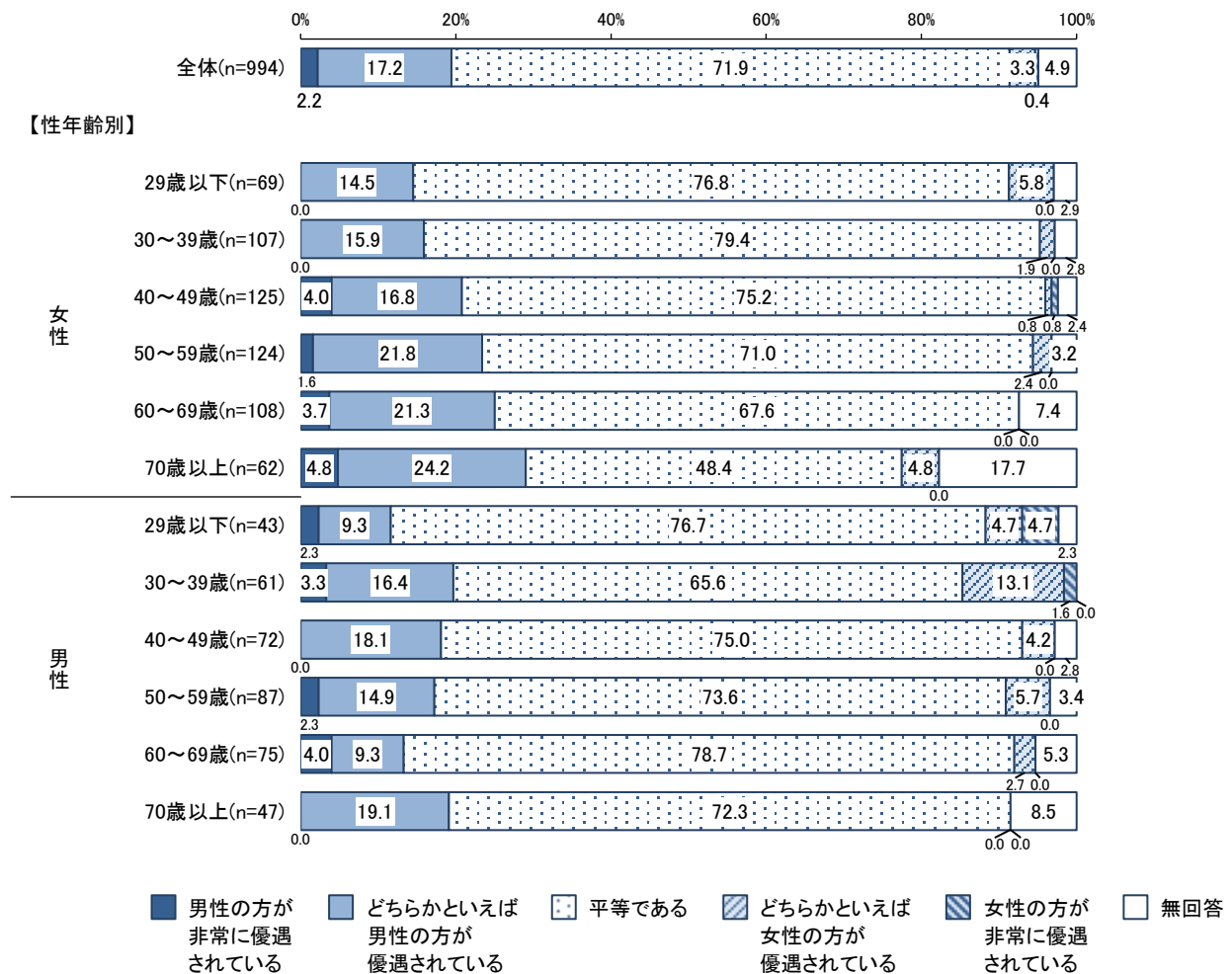
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ②職場



③学校教育の場

性年齢別で見ると、女性はいずれの年齢層も「平等である」の割合が最も高いが、年齢層が上がるにつれて『男性優遇』の割合が高くなっている。男性は30～39歳では「平等である」が65.6%で、他の年齢層に比べてやや低い一方で、『女性優遇』の割合がやや高くなっている。

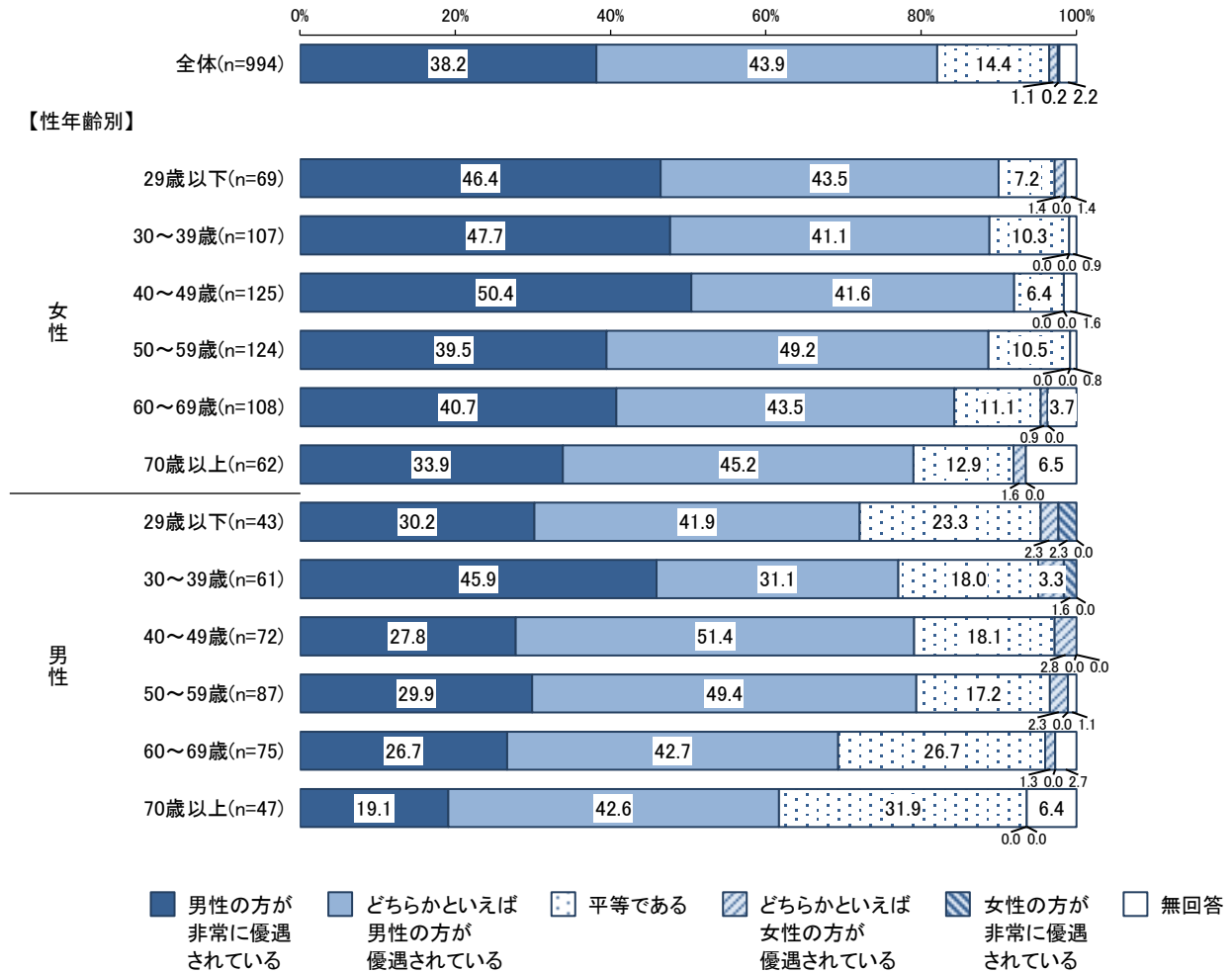
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ③学校教育の場



④政治の場

性年齢別で見ると、女性は70歳以上から40～49歳までは年齢が下がるにつれて、『男性優遇』の割合が高くなる傾向にあり、40～49歳で92.0%と9割以上となっている。男性は30～59歳は『男性優遇』が8割近いが、29歳以下と60歳以上では『男性優遇』がやや低く、「平等である」の割合が2～3割台と他の年齢層に比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ④政治の場

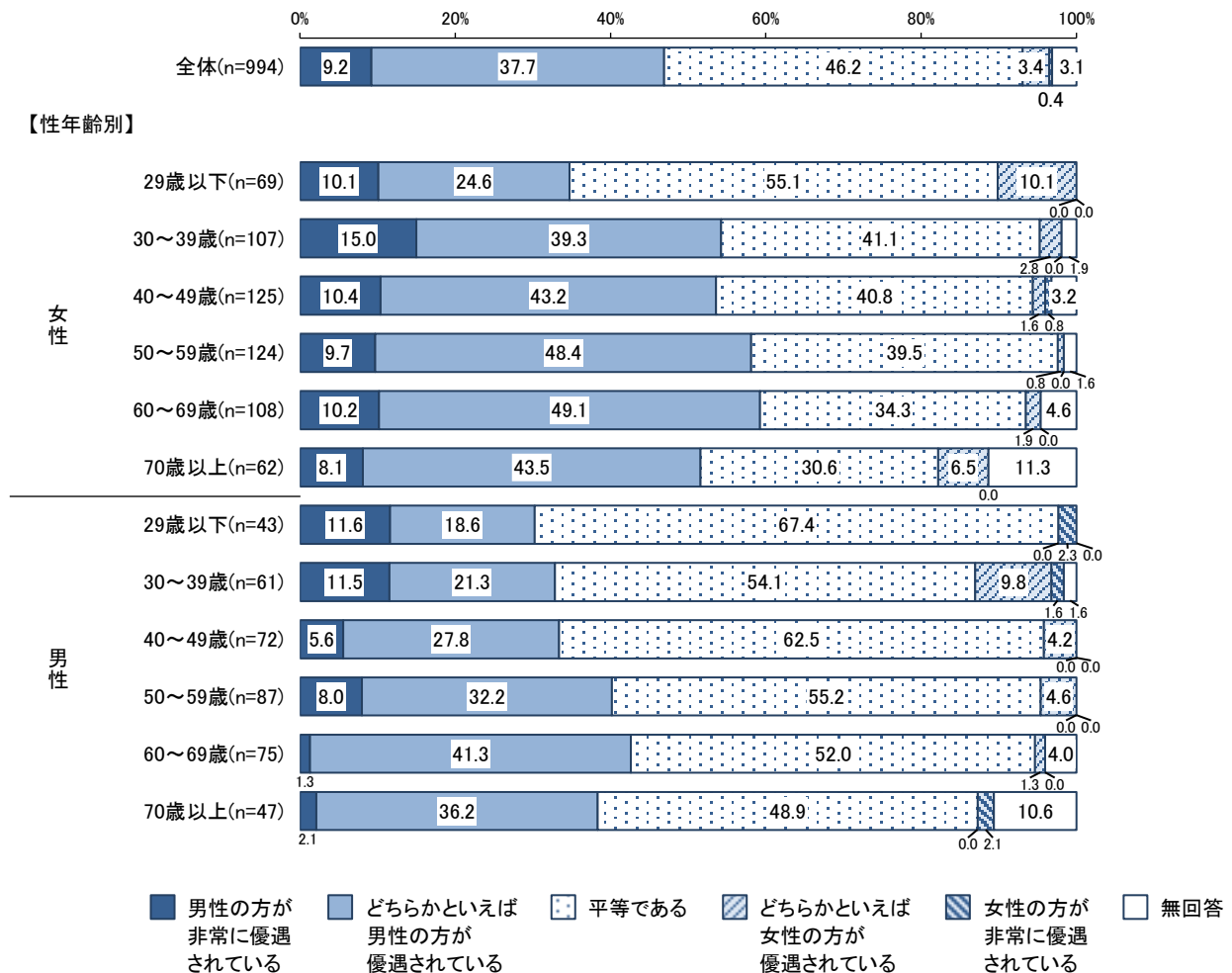


⑤地域活動の場

性年齢別で見ると、女性では29歳以下を除く年齢層では『男性優遇』が5割を超えている。男性は50歳以上の年齢層は49歳以下の年齢層に比べて『男性優遇』がやや高くなっている。

男女とも29歳以下はその他の年齢層に比べて「平等である」の割合が高く、女性で55.1%、男性で67.4%となっている。

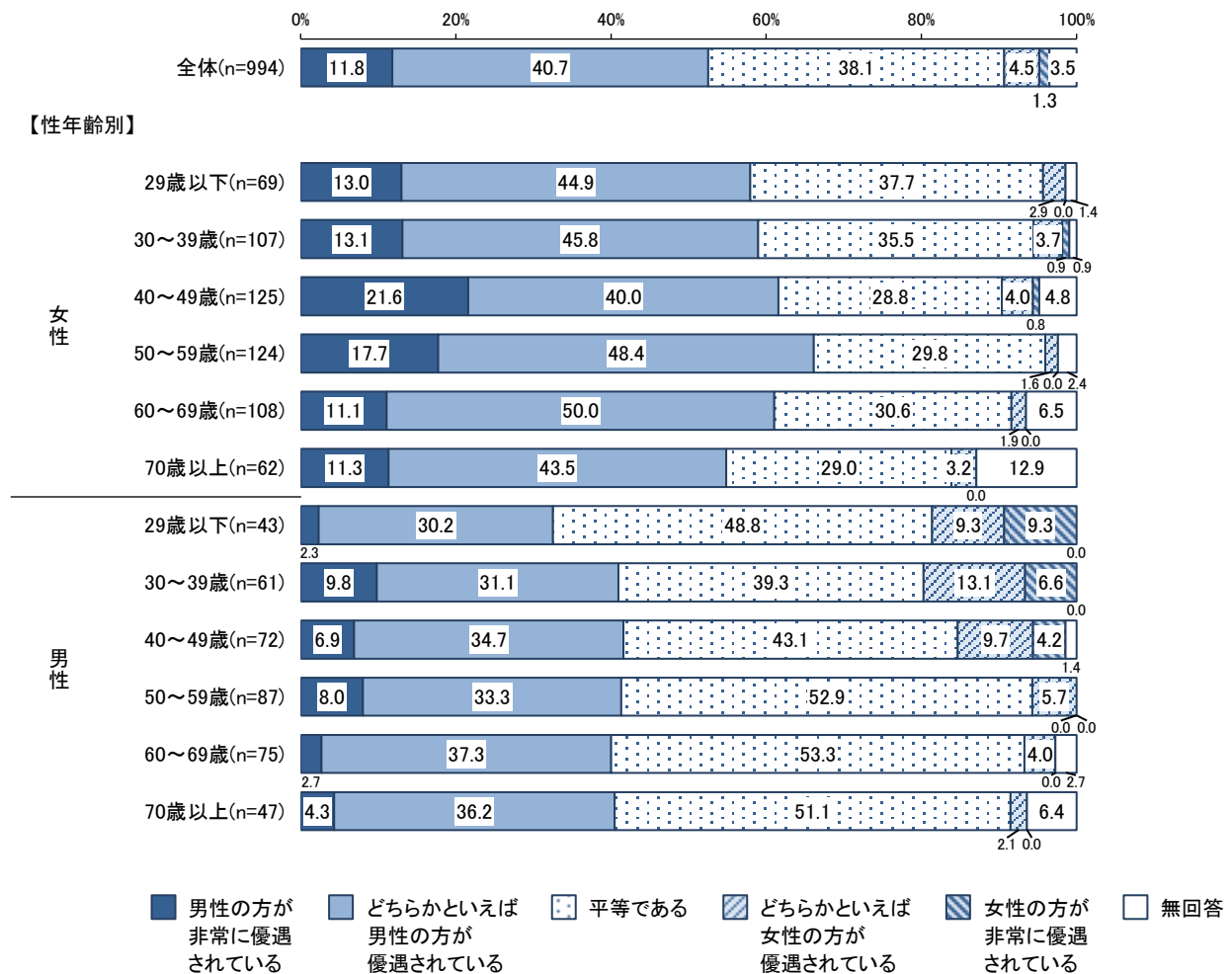
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ⑤地域活動の場



⑥法律や制度上

性年齢別で見ると、女性は60～69歳より下の年齢層では、『男性優遇』が6割を超えるか6割近くとなっており、50～59歳で66.1%と最も高くなっている。男性は30～39歳以上は『男性優遇』が4割前後である。一方で49歳以下の年齢層では『女性優遇』の割合が高く、30～39歳で19.7%と約2割を占めている。

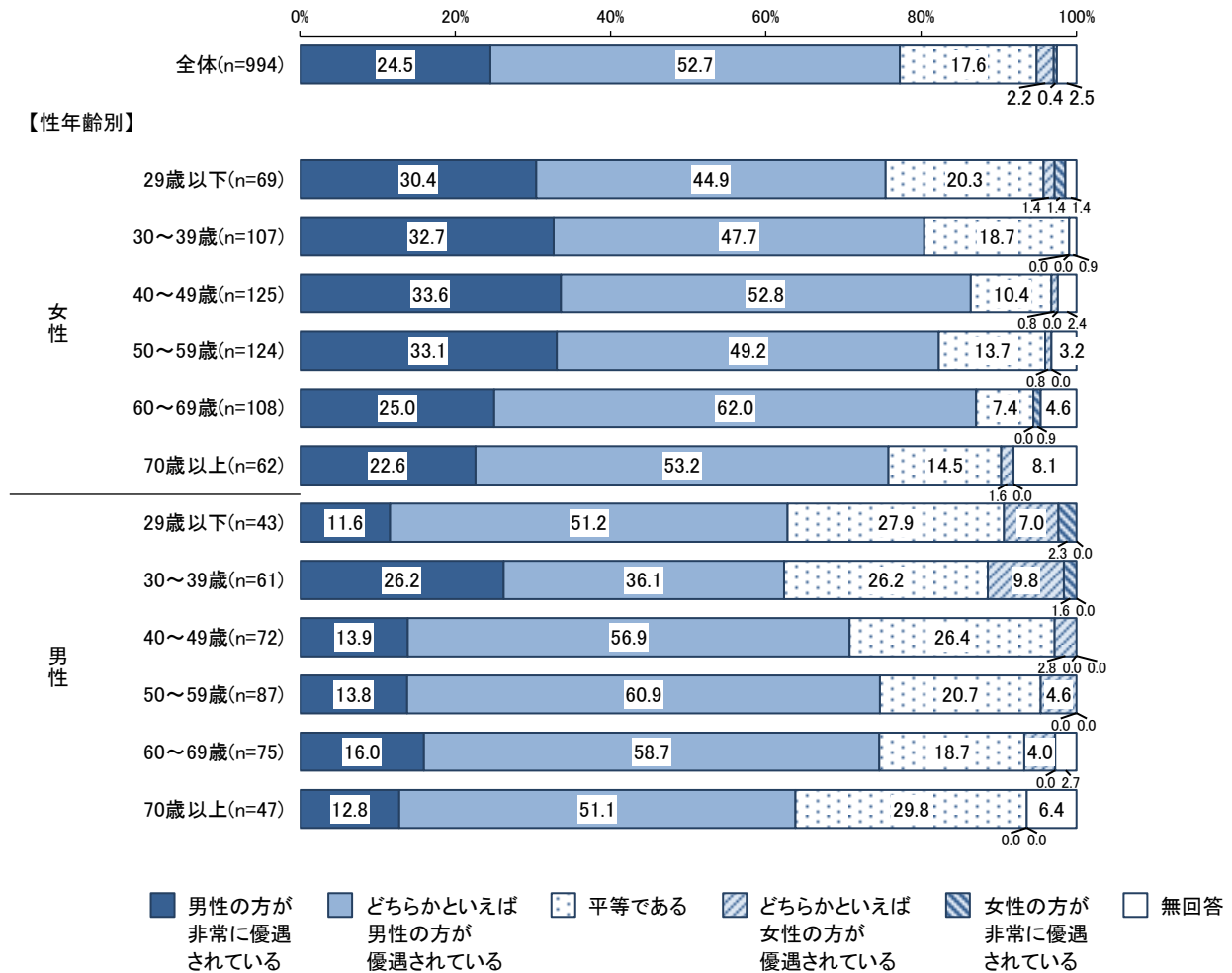
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ⑥法律や制度上



⑦社会通念・習慣・しきたり等

性年齢別で見ると、男女ともに40～69歳で『男性優遇』の割合が高い傾向で、女性の60～69歳で87.0%と高くなっている。一方で、男性の39歳以下では『女性優遇』の回答が約1割見られている。

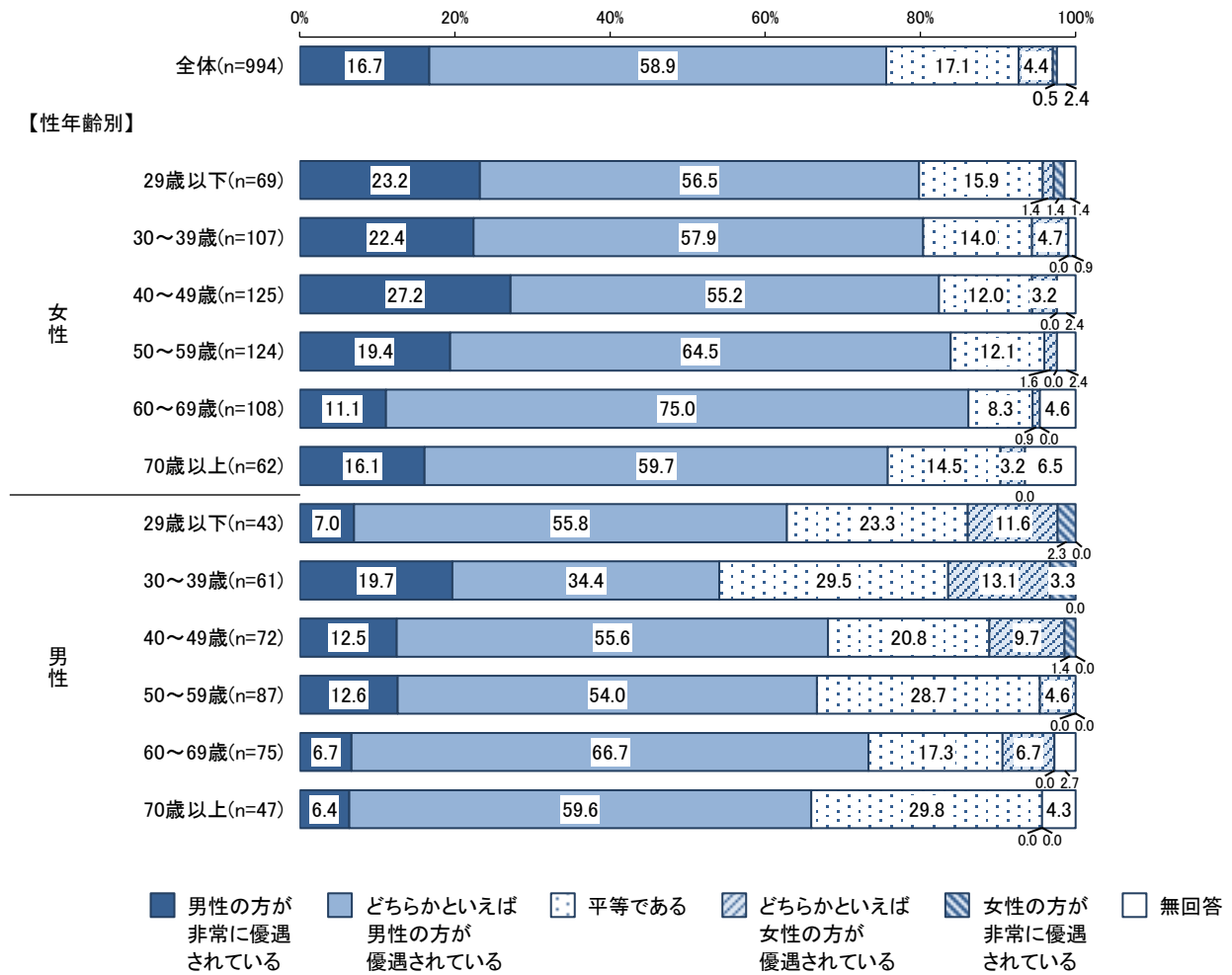
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ⑦社会通念・習慣・しきたり等



⑧社会全体で

性年齢別で見ると、女性は30歳～69歳では『男性優遇』が8割を超えており、29歳以下と70歳以上でも7割台後半である。男性は60～69歳で『男性優遇』が7割を超えているが、その他の年齢層は6割台、30～39歳では5割台となっている。一方で30～39歳では『女性優遇』が16.4%とやや高くなっている。

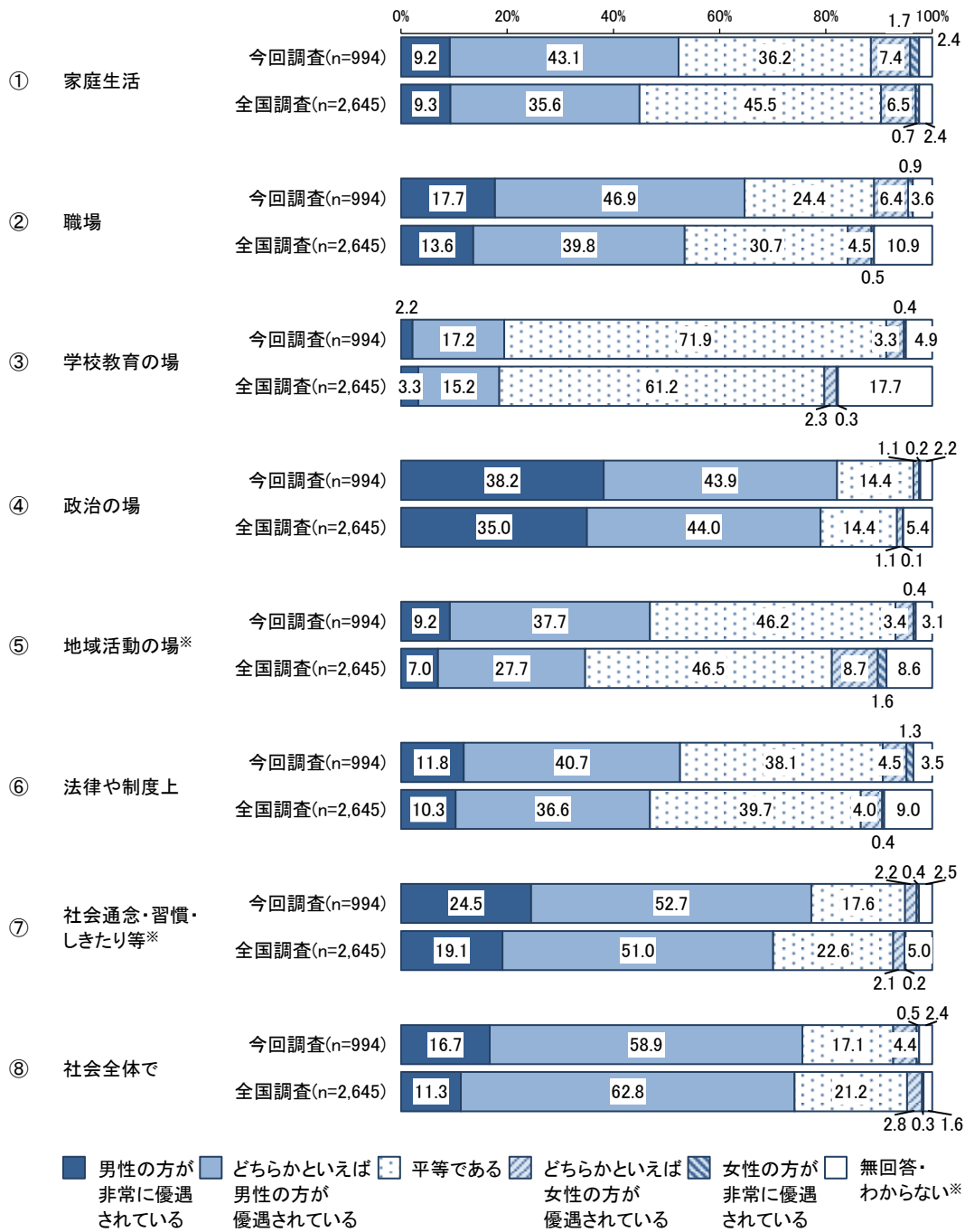
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ⑧社会全体で



■全国調査との比較

今回調査と全国調査(令和元年度)を比較すると、今回調査の方が全国調査よりも『男性優遇』の割合がすべての項目で高くなっており、「⑤地域活動の場」で12.2ポイント、「②職場」で11.2ポイントと、それぞれ10ポイント以上高くなっている。また、「③学校教育の場」では、今回調査の方が全国調査よりも「平等である」の割合が10.7ポイント高くなっている。

図 男女の地位の平等感(全国調査との比較)



※「地域活動の場」は全国調査では「自治会やPTAなどの地域活動の場」

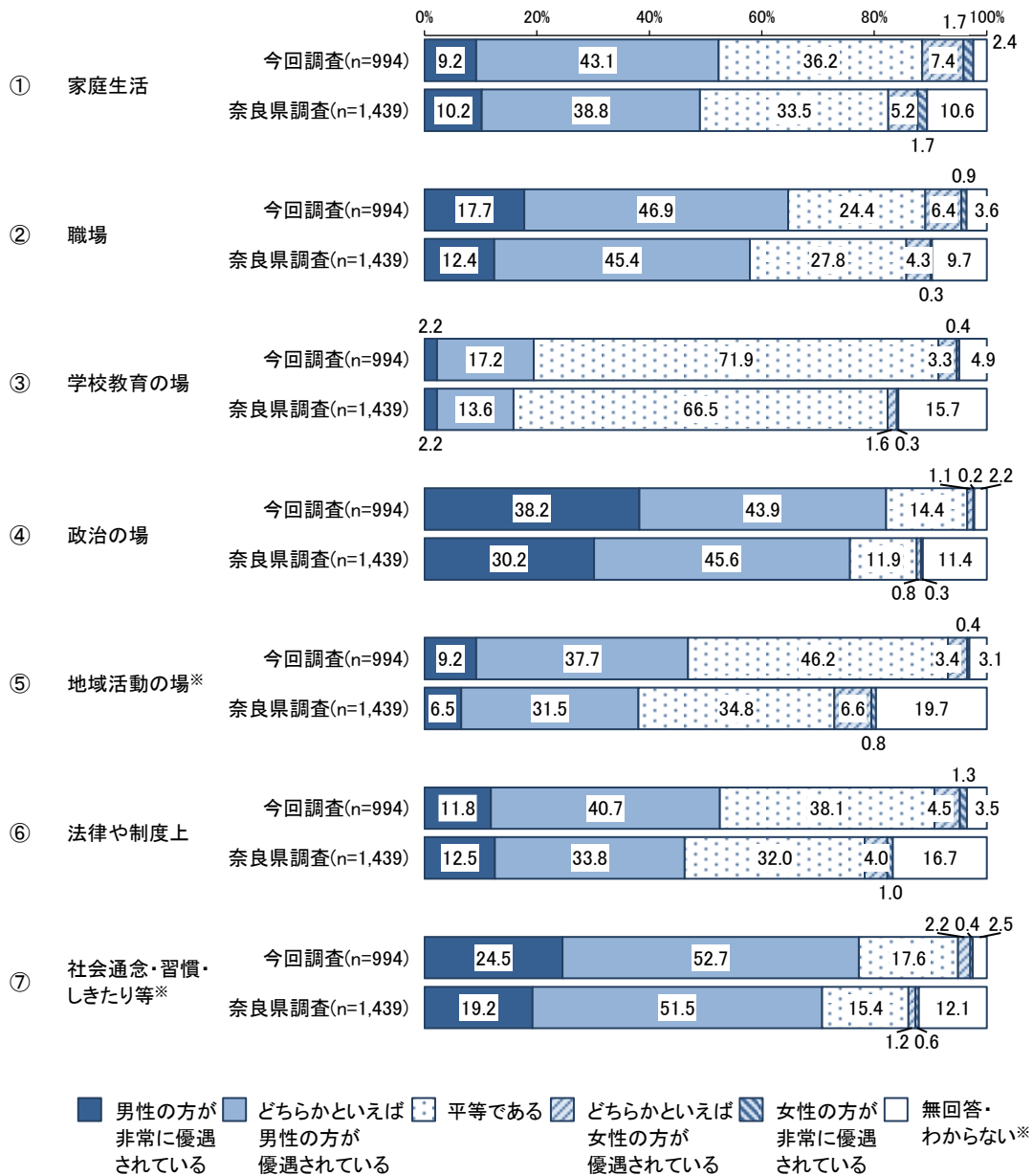
※「社会通念・習慣・しきたり等」は全国調査では「社会通念・慣習・しきたりなど」

※「わからない」は全国調査のみの項目

■奈良県調査との比較

今回調査と奈良県調査(令和元年度)を比較すると、今回調査の方が奈良県調査よりも『男性優遇』の割合がすべての項目で高くなっている。一方、「②職場」は奈良県調査よりも「平等である」の割合が低くなっているが、その他の項目はいずれも今回調査の方が「平等である」の割合が高く、特に「⑤地域活動の場」で差が大きくなっている。

図 男女の地位の平等感(奈良県調査との比較)



※「地域活動の場」は奈良県調査では「自治会やPTAなどの地域活動の場」

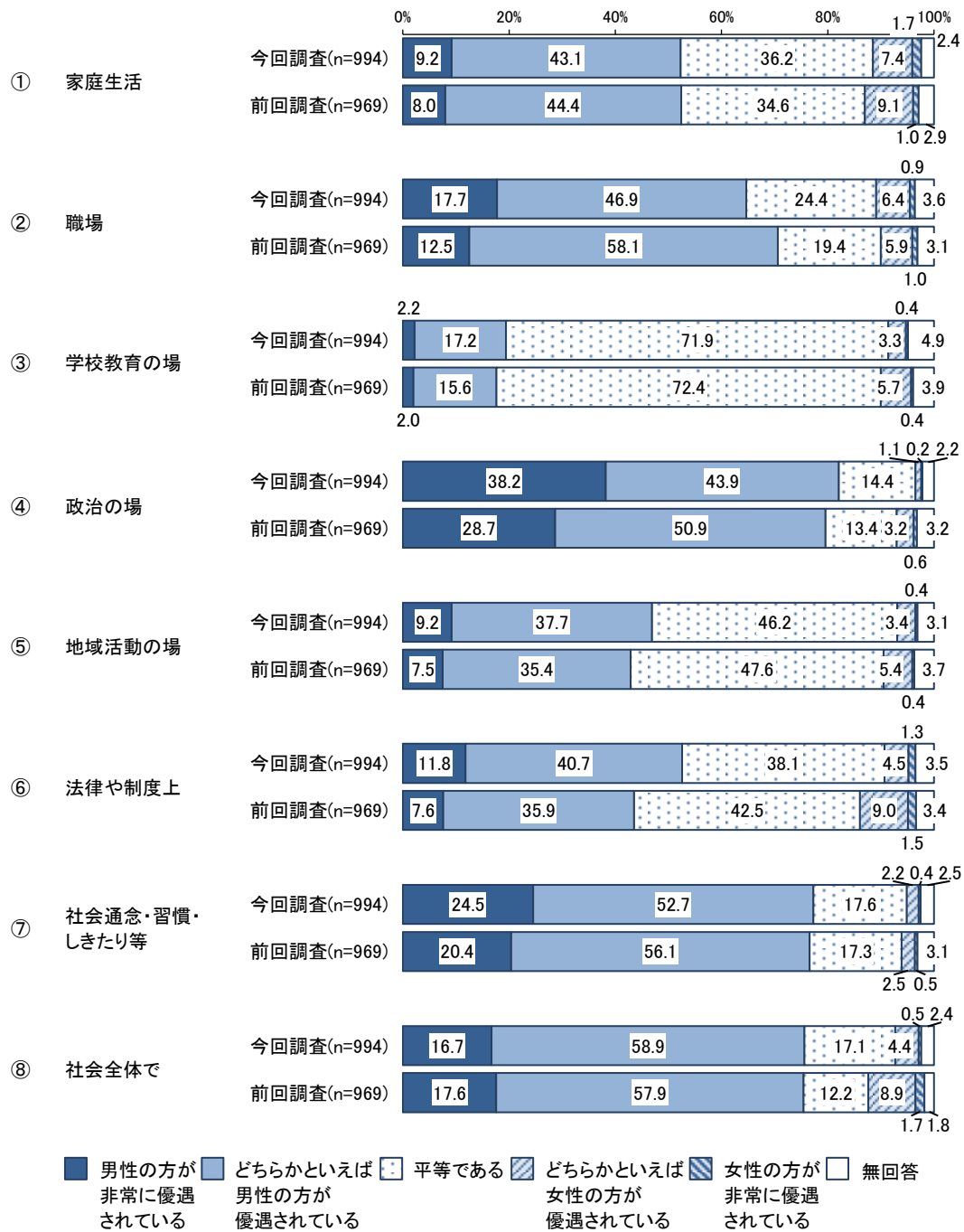
※「社会通念・習慣・しきたり等」は奈良県調査では「社会通念・慣習・しきたりなど」

※「わからない」は奈良県調査のみの項目

■前回調査との比較

今回調査と前回調査(平成29年度)を比較すると、「②職場」と「⑧社会全体で」では前回調査よりも「平等である」の割合がそれぞれ5.0ポイント、4.9ポイント高くなっている。一方、「⑤地域活動の場」「⑥法律や制度上」では『男性優遇』の割合がそれぞれ4.0ポイント、9.0ポイント高くなっている。また、「④政治の場」では『男性優遇』の割合に大きな違いは見られないが、「男性の方が非常に優遇されている」は9.5ポイント高くなっている。

図 男女の地位の平等感(前回調査との比較)



(4)性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

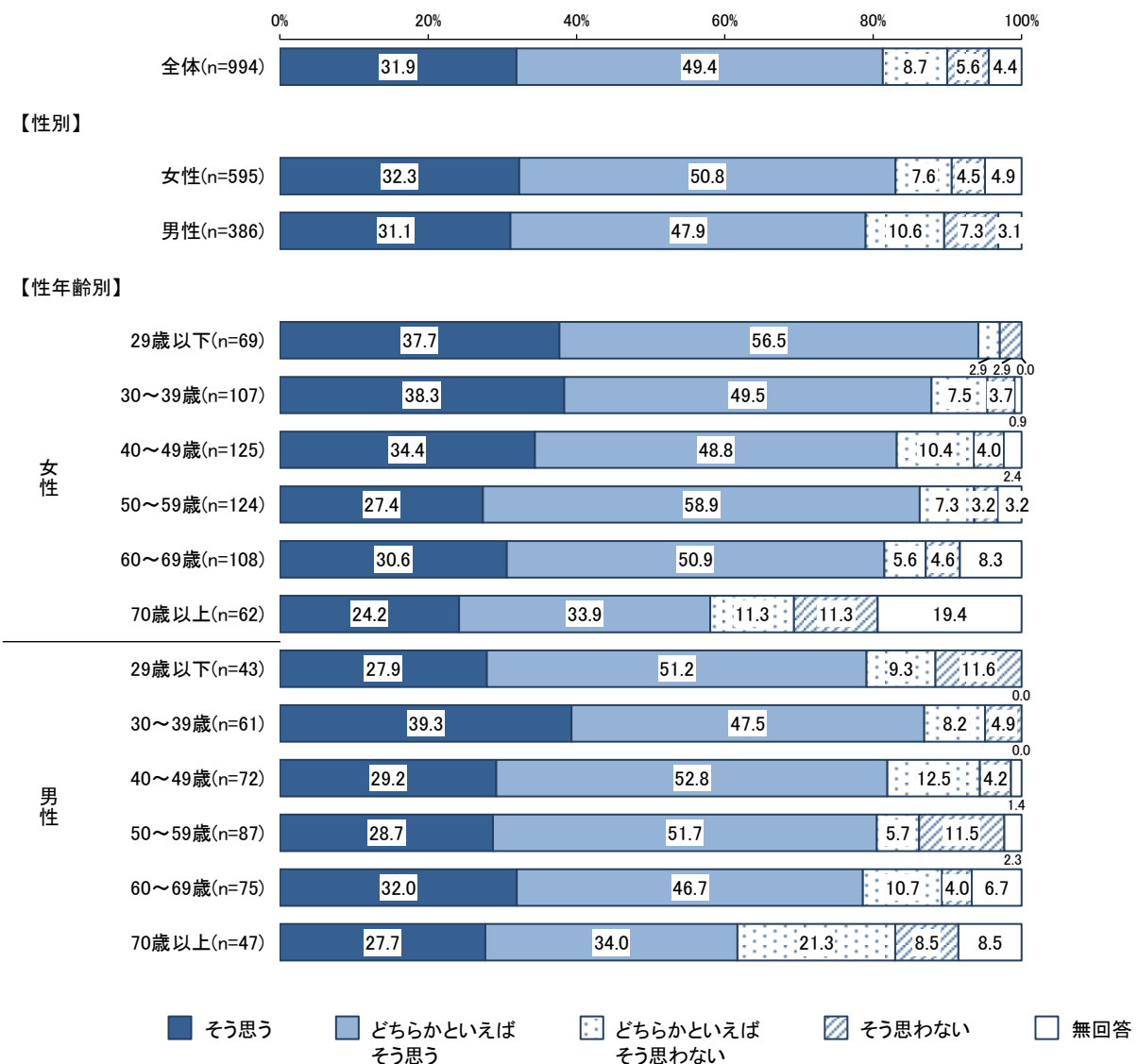
問 22 LGBTQをはじめとする性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

全体では『(どちらかといえば) そう思う』(「そう思う」「どちらかといえば そう思う」の割合の合計)が81.3%、『(どちらかといえば) そう思わない』(「そう思わない」「どちらかといえば そう思わない」の割合の合計)が14.3%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性より『(どちらかといえば) そう思う』の割合が4.1ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は29歳以下で『(どちらかといえば) そう思う』の割合が9割以上と高くなっている。男女とも70歳以上では『(どちらかといえば) そう思う』の割合が61.7%と低くなっている。

図 性的マイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか



(5)性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由

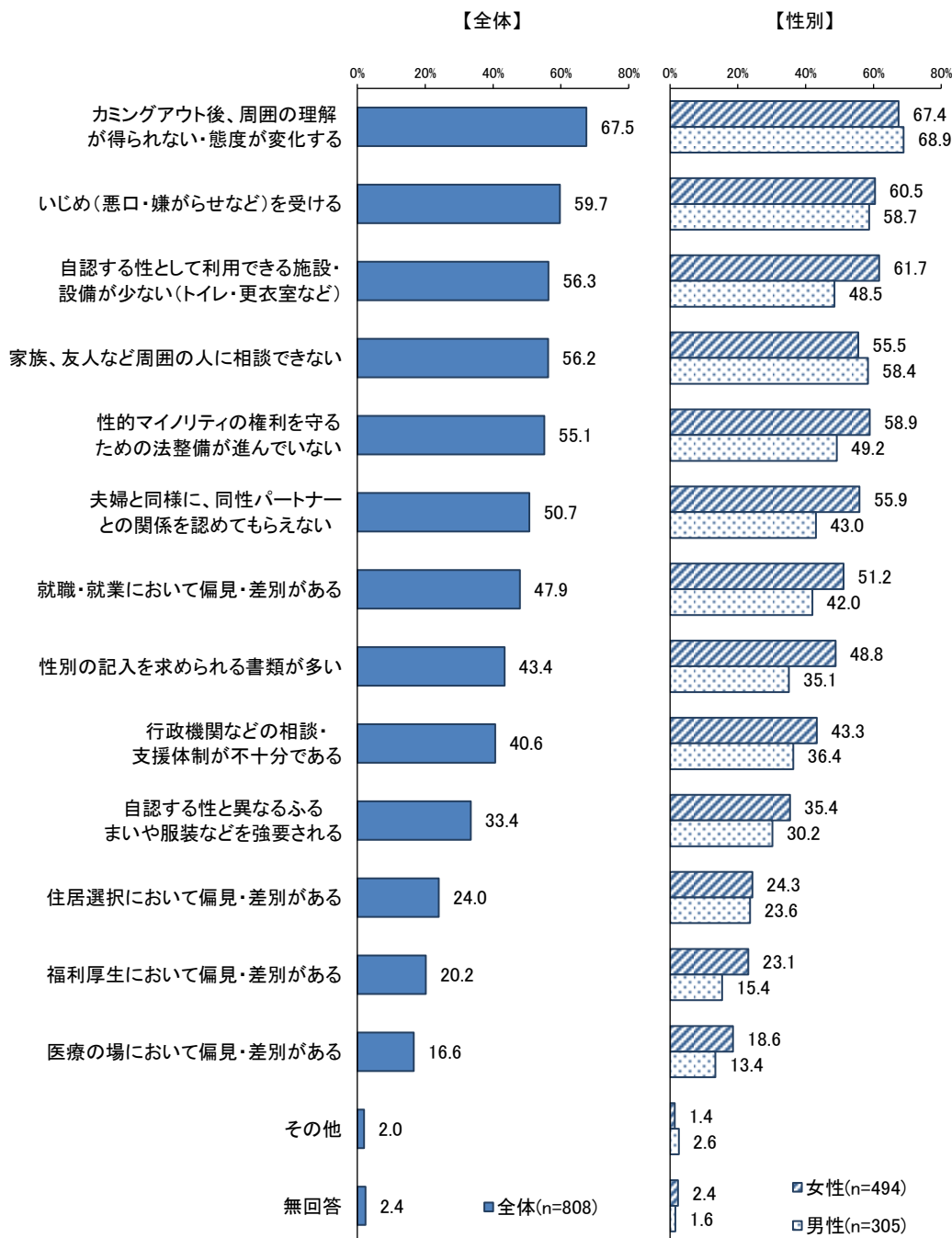
問 22 で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。

問 22-1 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

全体では「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が67.5%で最も高く、次いで「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」が59.7%、「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」が56.3%、「家族、友人など周囲の人に相談できない」が56.2%、「性的マイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない」が55.1%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「性別の記入を求められる書類が多い」の割合が13.7ポイント、「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」の割合が13.2ポイント高くなっている。

図 性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由



性年齢別で見ると、女性は29歳以下で「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」男性は29歳以下で「自認する性と異なるふりや服装などを強要される」が、他の年齢層と比べて特に高くなっている。

表 性年齢別 性的マイノリティにとって生活しづらい社会となっている理由

		回答者数(n)	カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する	いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける	自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)	家族、友人など周囲の人に相談できない	性的マイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない	就職・就業において偏見・差別がある	性別の記入を求められる書類が多い	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	自認する性と異なるふりや服装などを強要される
全体		808	67.5	59.7	56.3	56.2	55.1	50.7	47.9	43.4	40.6	33.4
女性	29歳以下	65	73.8	80.0	69.2	61.5	73.8	75.4	50.8	49.2	47.7	49.2
	30～39歳	94	73.4	67.0	67.0	58.5	62.8	66.0	46.8	56.4	46.8	39.4
	40～49歳	104	77.9	59.6	66.3	54.8	56.7	58.7	48.1	54.8	38.5	43.3
	50～59歳	107	64.5	57.9	63.6	53.3	55.1	49.5	49.5	50.5	47.7	30.8
	60～69歳	88	53.4	50.0	50.0	52.3	50.0	38.6	56.8	35.2	38.6	20.5
	70歳以上	36	52.8	44.4	44.4	52.8	61.1	47.2	63.9	38.9	38.9	27.8
男性	29歳以下	34	70.6	64.7	47.1	55.9	50.0	50.0	38.2	44.1	38.2	44.1
	30～39歳	53	71.7	54.7	56.6	64.2	43.4	45.3	34.0	24.5	34.0	32.1
	40～49歳	59	76.3	64.4	61.0	62.7	47.5	40.7	44.1	49.2	35.6	33.9
	50～59歳	70	61.4	52.9	34.3	57.1	42.9	40.0	40.0	32.9	30.0	22.9
	60～69歳	59	72.9	62.7	52.5	61.0	59.3	49.2	47.5	28.8	40.7	28.8
	70歳以上	29	55.2	51.7	34.5	37.9	55.2	31.0	48.3	34.5	44.8	20.7

		回答者数(n)	住居選択において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	その他	無回答
全体		808	24.0	20.2	16.6	2.0	2.4
女性	29歳以下	65	30.8	23.1	20.0	3.1	-
	30～39歳	94	20.2	20.2	17.0	1.1	-
	40～49歳	104	20.2	27.9	24.0	-	1.0
	50～59歳	107	28.0	18.7	16.8	-	2.8
	60～69歳	88	23.9	23.9	15.9	3.4	3.4
	70歳以上	36	25.0	27.8	16.7	2.8	13.9
男性	29歳以下	34	29.4	20.6	17.6	2.9	-
	30～39歳	53	17.0	17.0	13.2	7.5	3.8
	40～49歳	59	23.7	15.3	16.9	3.4	-
	50～59歳	70	22.9	12.9	8.6	-	1.4
	60～69歳	59	25.4	15.3	15.3	-	-
	70歳以上	29	27.6	13.8	10.3	3.4	6.9

※ 濃い網掛け は全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛け は全体より5ポイント以上高い項目。

(6)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことがあるか

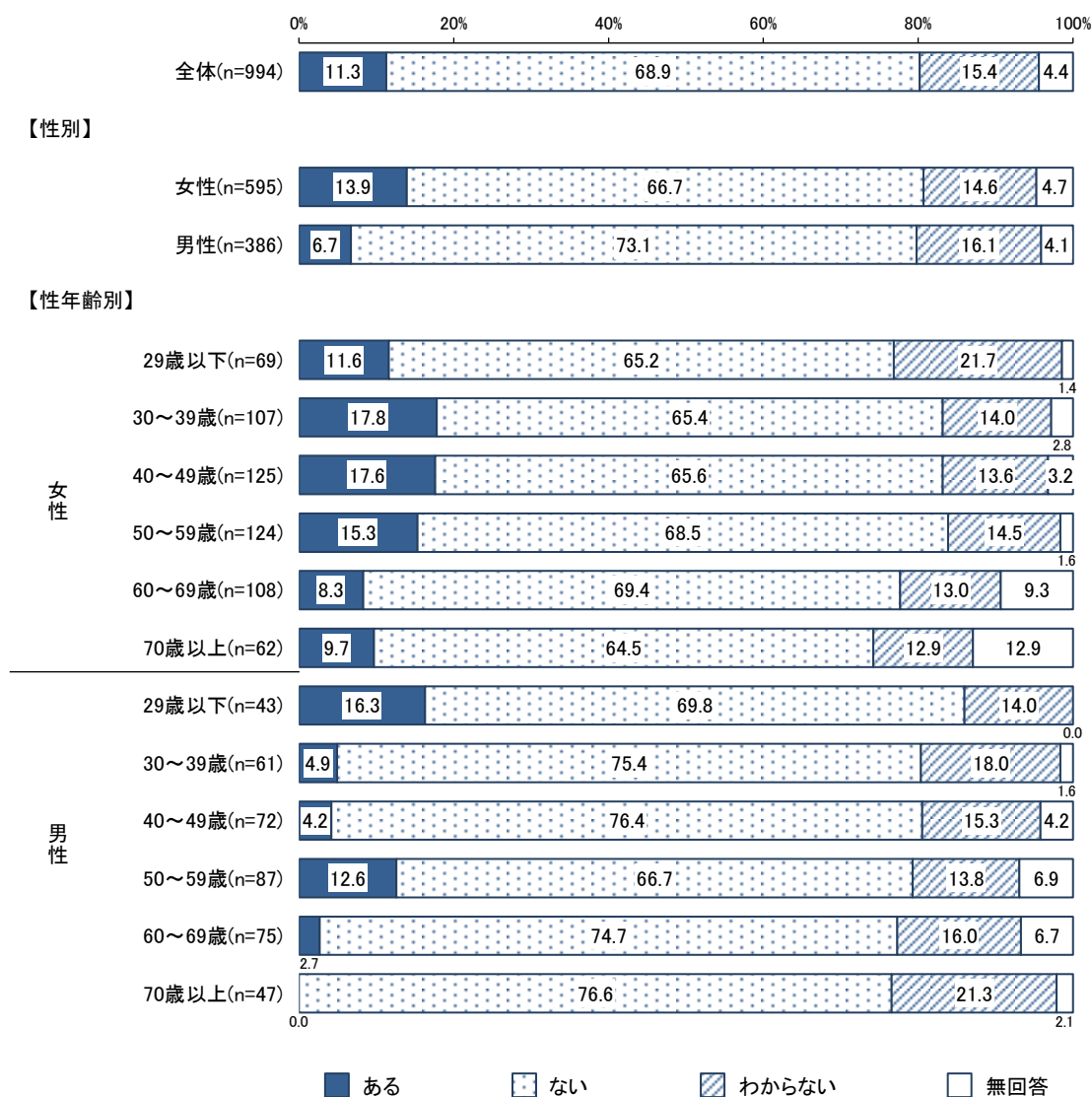
問 23 あなたは、性別または見た目の性別が、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(○は1つ)

全体では「ない」が68.9%で最も高く、次いで「わからない」が15.4%、「ある」が11.3%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「ある」の割合が7.2ポイント高くなっている。

性年齢別で見ると、女性は59歳以下で「ある」が、それぞれ1割以上を占めている。男性は「ある」が29歳以下で16.3%、50～59歳で12.6%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことがあるか



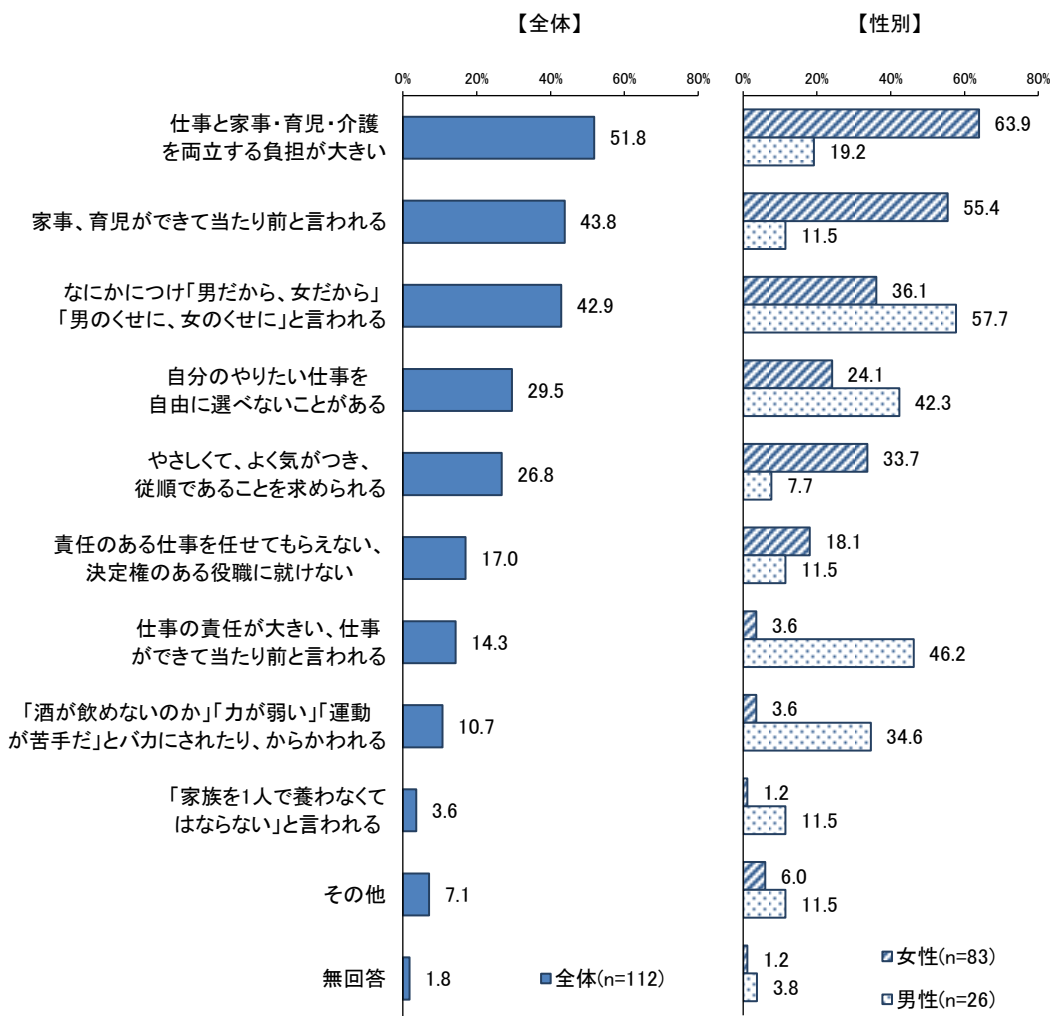
(7)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたとき

問 23 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。
 問 23-1 それは、どのようなときに感じましたか。(〇はいくつでも)

全体では「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が51.8%で最も高く、次いで「家事、育児ができて当たり前と言われる」が43.8%、「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」が42.9%となっている。

性別で見ると、女性は「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」「家事、育児ができて当たり前と言われる」「やさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」、男性は「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」「『酒が飲めないのか』『力が弱い』『運動が苦手だ』とバカにされたり、からかわれる」が、それぞれ他の性別より20ポイント以上高くなっている。

図 「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたとき



性年齢別で見ると、女性の30～59歳で「家事、育児ができて当たり前と言われる」、女性の30～39歳で「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」と「責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない」の割合が高くなっている。

表 性年齢別「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたとき

		回答者数(n)	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	家事、育児ができて当たり前と言われる	なにかにつけ「男だから、女だから」男のくせに、女のくせにと言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	やさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない	仕事の責任が大きい、仕事ができたり前と言われる	「酒が飲めないのか」「刃が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる	家族を一人で養わなくてはならないと言われる	その他	無回答
全体		112	51.8	43.8	42.9	29.5	26.8	17.0	14.3	10.7	3.6	7.1	1.8
女性	29歳以下	8	62.5	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	12.5	25.0	12.5	-	-
	30～39歳	19	47.4	57.9	57.9	31.6	42.1	42.1	-	5.3	-	15.8	-
	40～49歳	22	68.2	59.1	31.8	9.1	36.4	9.1	4.5	-	-	4.5	-
	50～59歳	19	68.4	57.9	21.1	26.3	21.1	5.3	-	-	-	5.3	5.3
	60～69歳	9	77.8	44.4	33.3	22.2	33.3	22.2	-	-	-	-	-
	70歳以上	6	66.7	50.0	16.7	16.7	16.7	-	16.7	-	-	-	-
男性	29歳以下	7	14.3	28.6	85.7	57.1	14.3	28.6	42.9	57.1	14.3	28.6	-
	30～39歳	3	-	-	33.3	66.7	-	-	66.7	33.3	33.3	-	33.3
	40～49歳	3	33.3	-	66.7	66.7	-	-	33.3	66.7	-	-	-
	50～59歳	11	27.3	9.1	45.5	18.2	9.1	9.1	45.5	18.2	9.1	9.1	-
	60～69歳	2	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-
	70歳以上	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目。
ただし、回答者数(n)が15件未満の項目は除く

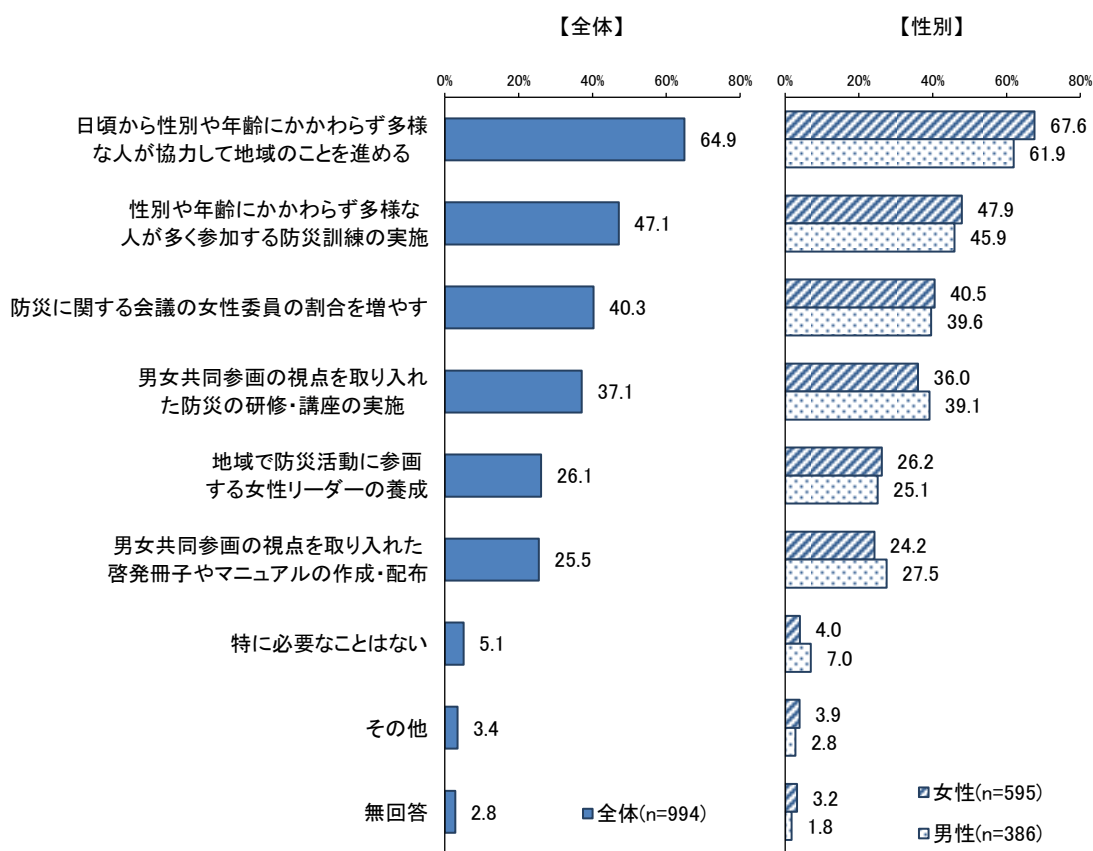
(8)性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと

問 24 災害時においては、女性や子どものプライバシーの確保、高齢者への配慮が足りなくなると指摘されています。性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

全体では「日頃から性別や年齢にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」が64.9%で最も高く、次いで「性別や年齢にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」が47.1%、「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」が40.3%、「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が37.1%となっている。

性別で見ると、女性の方が男性よりも「日頃から性別や年齢にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」の割合が5.7ポイント高くなっている。

図 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと



性年齢別で見ると、女性の29歳以下で「日頃から性別や年齢にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」(78.3%)と「性別や年齢にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」(62.3%)が、他の年齢層と比べて高くなっている。男性の30～39歳で「地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成」と「男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布」の割合が、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと

		回答者数(n)	日頃から性別や年齢にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める	性別や年齢にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施	防災に関する会議の女性委員の割合を増やす	男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施	地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成	男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布	特に必要なことはない	その他	無回答
全体		994	64.9	47.1	40.3	37.1	26.1	25.5	5.1	3.4	2.8
女性	29歳以下	69	78.3	62.3	49.3	46.4	27.5	30.4	2.9	5.8	-
	30～39歳	107	62.6	43.0	42.1	34.6	29.0	24.3	2.8	5.6	3.7
	40～49歳	125	64.0	48.8	48.8	38.4	27.2	27.2	5.6	4.8	3.2
	50～59歳	124	66.9	43.5	35.5	30.6	28.2	23.4	5.6	4.0	0.8
	60～69歳	108	66.7	45.4	32.4	33.3	21.3	19.4	2.8	0.9	4.6
	70歳以上	62	74.2	51.6	35.5	37.1	22.6	21.0	3.2	1.6	8.1
男性	29歳以下	43	58.1	48.8	34.9	30.2	16.3	27.9	7.0	-	2.3
	30～39歳	61	57.4	45.9	37.7	39.3	32.8	34.4	13.1	4.9	-
	40～49歳	72	66.7	41.7	41.7	37.5	26.4	27.8	6.9	4.2	-
	50～59歳	87	56.3	41.4	46.0	42.5	23.0	25.3	9.2	1.1	1.1
	60～69歳	75	65.3	49.3	38.7	44.0	25.3	29.3	1.3	4.0	5.3
	70歳以上	47	68.1	51.1	31.9	36.2	23.4	19.1	4.3	2.1	2.1

※ **濃い網掛け** は全体より10ポイント以上高い項目。**薄い網掛け** は全体より5ポイント以上高い項目。

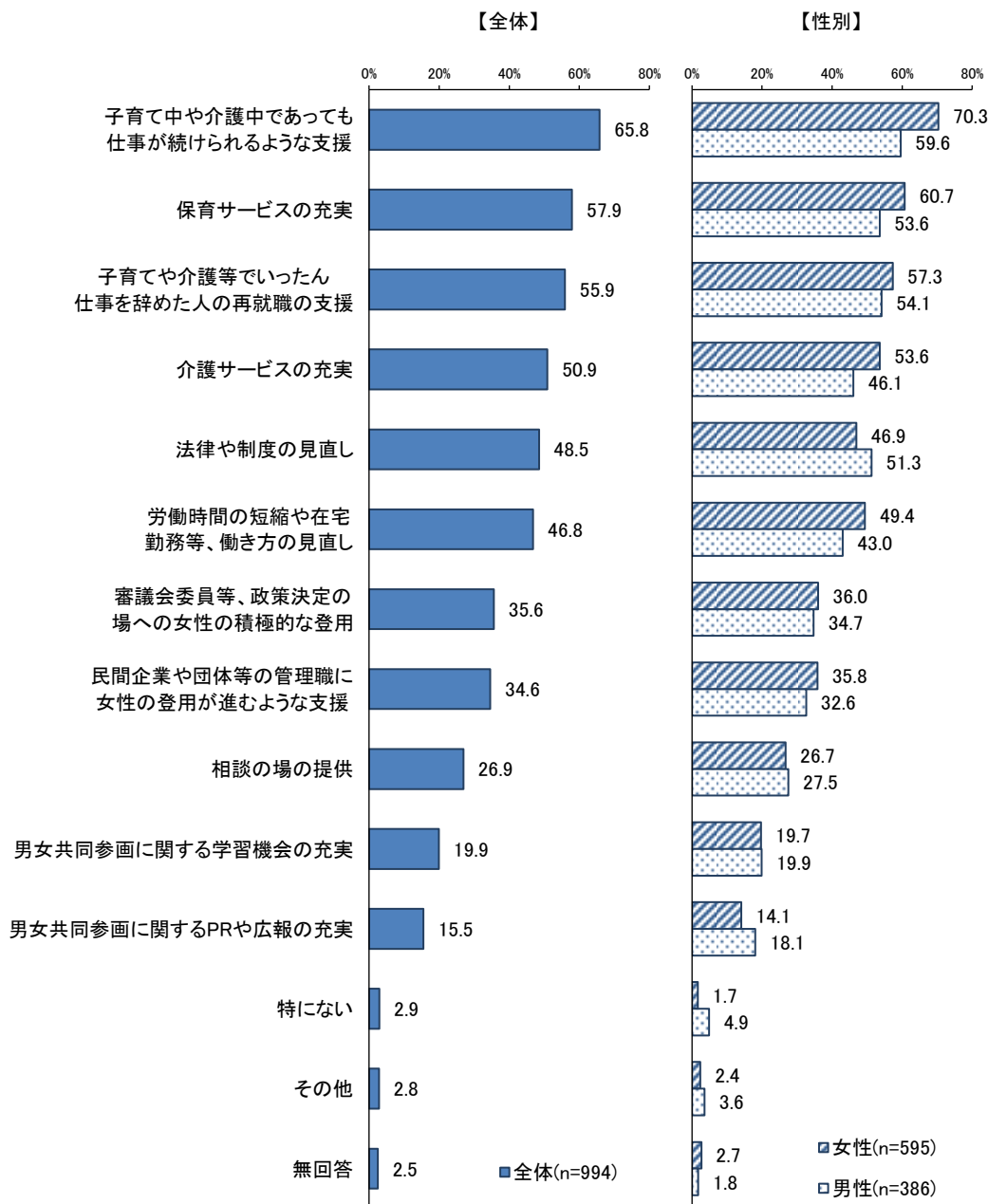
(9)男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れていくべきこと

問 25 あなたは、今後「男女共同参画社会」を実現するために、行政がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では「子育て中や介護中であっても仕事が続けられるような支援」が65.8%で最も高く、次いで「保育サービスの充実」が57.9%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職の支援」が55.9%、「介護サービスの充実」が50.9%となっている。

性別で見ると、上位4項目は女性の方で割合が高くなっており、「子育て中や介護中であっても仕事が続けられるような支援」は約7割を占めている。

図 男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れていくべきこと



性年齢別で見ると、女性は29歳以下で「法律や制度の見直し」、39歳以下で「労働時間の短縮や在宅勤務等、働き方の見直し」と「子育て中や介護中であっても仕事が続けられるような支援」、60～69歳で「介護サービスの充実」、男性は30～39歳で「労働時間の短縮や在宅勤務等、働き方の見直し」が、他の年齢層と比べて特に高くなっている。

表 性年齢別 男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れていくべきこと

		回答者数(n)	子育て中や介護中であつても仕事が続けられるような支援	保育サービスの充実	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職の支援	介護サービスの充実	法律や制度の見直し	労働時間の短縮や在宅勤務等、働き方の見直し	審議会委員等、政策決定の場への女性の積極的な登用	民間企業や団体等の管理職に女性の登用が進むような支援	相談の場の提供	男女共同参画に関する学習機会の充実
全体		994	65.8	57.9	55.9	50.9	48.5	46.8	35.6	34.6	26.9	19.9
女性	29歳以下	69	81.2	68.1	63.8	52.2	72.5	62.3	43.5	42.0	29.0	23.2
	30～39歳	107	81.3	71.0	61.7	48.6	57.0	63.6	35.5	35.5	22.4	18.7
	40～49歳	125	69.6	63.2	58.4	49.6	44.0	53.6	42.4	40.0	23.2	19.2
	50～59歳	124	64.5	54.8	61.3	53.2	41.1	39.5	32.3	35.5	28.2	21.0
	60～69歳	108	63.9	59.3	47.2	66.7	34.3	39.8	29.6	28.7	30.6	12.0
	70歳以上	62	62.9	43.5	50.0	50.0	40.3	38.7	33.9	33.9	29.0	29.0
男性	29歳以下	43	55.8	62.8	51.2	51.2	51.2	37.2	25.6	20.9	27.9	18.6
	30～39歳	61	62.3	63.9	62.3	42.6	55.7	60.7	24.6	36.1	27.9	19.7
	40～49歳	72	66.7	52.8	55.6	44.4	56.9	47.2	36.1	30.6	27.8	19.4
	50～59歳	87	60.9	47.1	54.0	44.8	48.3	44.8	35.6	31.0	21.8	17.2
	60～69歳	75	62.7	53.3	54.7	48.0	53.3	34.7	42.7	37.3	30.7	18.7
	70歳以上	47	40.4	44.7	42.6	46.8	38.3	27.7	40.4	38.3	31.9	29.8

		回答者数(n)	男女共同参画に関するPRや広報の充実	特にない	その他	無回答
全体		994	15.5	2.9	2.8	2.5
女性	29歳以下	69	10.1	-	-	2.9
	30～39歳	107	11.2	-	1.9	0.9
	40～49歳	125	13.6	1.6	4.8	1.6
	50～59歳	124	16.1	3.2	3.2	0.8
	60～69歳	108	13.0	2.8	0.9	3.7
	70歳以上	62	22.6	1.6	1.6	9.7
男性	29歳以下	43	7.0	7.0	-	-
	30～39歳	61	21.3	3.3	9.8	-
	40～49歳	72	13.9	8.3	6.9	1.4
	50～59歳	87	17.2	4.6	3.4	-
	60～69歳	75	22.7	2.7	-	6.7
	70歳以上	47	25.5	4.3	-	2.1

※ 濃い網掛け は全体より10ポイント以上高い項目。薄い網掛け は全体より5ポイント以上高い項目。

性仕事の有無別で見ると、女性の仕事をしている人は、全体よりも「子育て中や介護中であっても仕事が続けられるような支援」、「保育サービスの充実」、「労働時間の短縮や在宅勤務等、働き方の見直し」が5ポイント以上高くなっている。

男性の仕事をしていない人では「法律や制度の見直し」が最も高くなっており、また、「審議会委員等、政策決定の場への女性の積極的な登用」が42.2%と全体と比べて高くなっている。

表 性仕事の有無別 男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れていくべきこと

		回答者数(n)	子育て中や介護中であつても仕事が続けられるような支援	保育サービスの充実	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職の支援	介護サービスの充実	法律や制度の見直し	労働時間の短縮や在宅勤務等、働き方の見直し	審議会委員等、政策決定の場への女性の積極的な登用	民間企業や団体等の管理職に女性の登用が進むような支援	相談の場の提供
全体		994	65.8	57.9	55.9	50.9	48.5	46.8	35.6	34.6	26.9
女性	仕事をしている	394	72.6	64.0	59.1	54.3	51.0	53.3	38.1	36.8	24.6
	仕事をしていない	201	65.7	54.2	53.7	52.2	38.8	41.8	31.8	33.8	30.8
男性	仕事をしている	322	62.4	55.9	55.9	46.9	52.2	45.7	33.2	33.5	27.0
	仕事をしていない	64	45.3	42.2	45.3	42.2	46.9	29.7	42.2	28.1	29.7

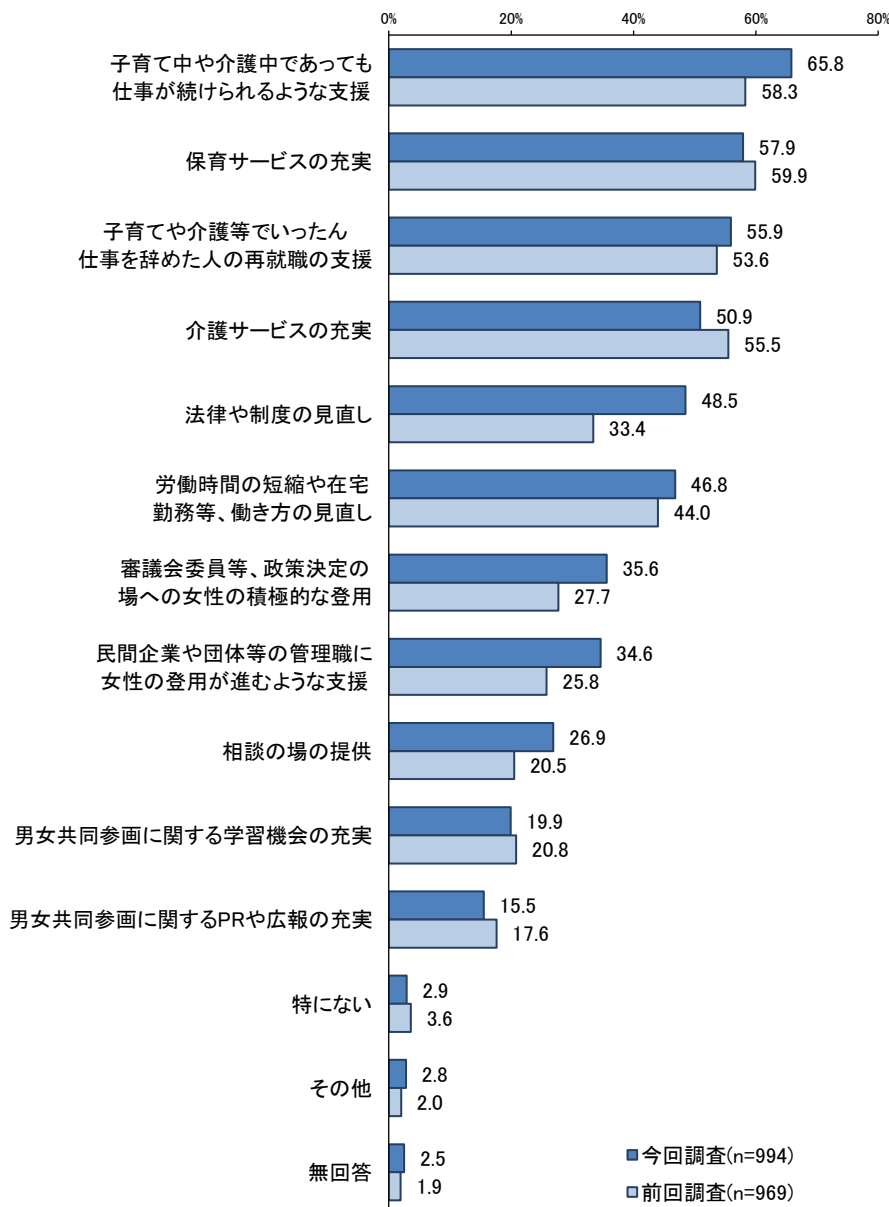
		回答者数(n)	実する男女共同参画に関する学習機会の充実	実する男女共同参画に関するPRや広報の充実	特になし	その他	無回答
全体		994	19.9	15.5	2.9	2.8	2.5
女性	仕事をしている	394	19.3	13.5	1.0	2.5	1.8
	仕事をしていない	201	20.4	15.4	3.0	2.0	4.5
男性	仕事をしている	322	19.6	18.3	5.0	4.0	1.2
	仕事をしていない	64	21.9	17.2	4.7	1.6	4.7

※ **濃い網掛け** は全体より 10 ポイント以上高い項目。 **薄い網掛け** は全体より 5 ポイント以上高い項目。

■前回調査との比較

今回調査と前回調査(平成29年度)を比較すると、「法律や制度の見直し」(今回調査48.5%・前回調査33.4%)は今回調査の方が15.1ポイント高くなっている。また、「子育て中や介護中であっても仕事が続けられるような支援」(今回調査65.8%・前回調査58.3%)、「審議会委員等、政策決定の場への女性の積極的な登用」(今回調査35.6%・前回調査27.7%)、「民間企業や団体等の管理職に女性の登用が進むような支援」(今回調査34.6%・前回調査25.8%)、「相談の場の提供」(今回調査26.9%・前回調査20.5%)では今回調査の方が5ポイント以上高くなっている。

図 男女共同参画社会を実現するため行政が力を入れていくべきこと(前回調査との比較)



広陵町男女共同参画に関する意識調査

*** ご協力をお願い ***

町民の皆さまには日頃から町政の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今年度広陵町では、平成29年度に「広陵町男女共同参画行動計画」を策定しました。今年度は本計画の見直し時期となり、町民皆さまの男女共同参画に関する意識や実態を把握し、誰もがいきいきと活躍できるための施策の検討に活用させていただくことを目的として、意識調査を実施いたします。広陵町の現状は下図のとおりとなっております。この調査は、町内にお住まいの満18歳以上の中から無作為抽出により選ばれた2,500名の方を対象に実施するものです。ご回答いただいた内容は無記名で統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。またご回答いただいた内容は調査の目的以外には使用いたしません。

ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年8月 広陵町長 山村 吉由

奈良県と広陵町の男女共同参画の現状

奈良県の女性の家事時間は、全国で一番長く、男性の5倍近くとなっています。
 (表1:平成28(2016)年社会生活基本調査)
 広陵町は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に肯定的な意見の割合が高くなっています。

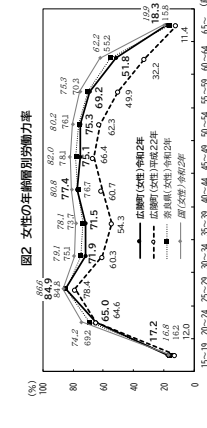
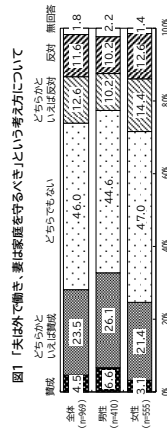
(図1:平成29(2017)年広陵町男女共同参画に関する意識調査)
 また、奈良県の女性の就業率は全国で最下位です(平成27(2015)年国勢調査)。

広陵町の女性の年齢別労働力率をみると、全国、奈良県よりも低い傾向となっています。しかし、最も低い35歳から39歳の労働力率は、平成22(2010)年の54.3%から令和2(2020)年には71.5%となり、10年間で17.2ポイントも伸びました。近年、広陵町では、女性が仕事に就く傾向が高くなってきたと考えられます。

(図2:平成22(2010)年及び令和2(2020)年国勢調査)

表1 家事時間従事時間

<男性>		<女性>	
都道府県	時間(分)	都道府県	時間(分)
全国	45分	全国	218分
広陵町	54分	奈良県	237分
兵庫県	51分	女性	230分
愛知県	50分	男性	22分
静岡県	50分	おおよそ	22分
佐賀県	38分	千葉県	22分
東京都	35分	山梨県	19分
		福井県	16分
		福島県	14分
		宮城県	12分
		青森県	4分
		岩手県	4分



提出期限 令和4年9月2日(金)

<お問い合わせ先> 広陵町 地域振興部 協働のまちづくり推進課 TEL:0745-55-1001(内線)1007

*** インターネットによる回答方法 ***

この調査はインターネットでの回答も可能です。パソコン、タブレット、スマートフォンで調査専用画面にアクセスし、画面の指示に従って回答してください。



【URL】

https://xalb.f.msgs.jp/webapp/wish/org/showEnquete.do?enqueteid=1&clientid=25035&databaseid=xalb

インターネットでのご回答は9月9日(金)まで

*** 記入にあたってのお願い ***

- この調査は、宛名のご本人がお答えください。ご本人が記入できない場合は、ご家族等が代わりにご回答いただいでください。
- 回答にあたっては、鉛筆またはボールペンで記入し、間違った場合は、消しゴムで消すか、二重線または×印により訂正してください。
- 回答は、あなたのお考えや内容にあてはまるもの、近いものに○をつけてください。
- 「その他」を選択し()がある場合は、カッコ内に具体的な内容も記入してください。
- ご記入後は、同封の封筒に入れて、**9月2日(金)**までに郵便ポストに投函してください。(切手不要)

1.あなたのことについてお聞きします

問1 あなたの性別は、どちらですか。(○はひとつ)

1. 男性
2. 女性
3. どちらでもない・答えない

問2 あなたの年齢は、おいくつですか。(○はひとつ)

1. 29歳以下
2. 30~39歳
3. 40~49歳
4. 50~59歳
5. 60~69歳
6. 70歳以上

問3 あなたの居住している小学校区は、どちらですか。(○はひとつ)

1. 広陵東小学校区 (南郷・古寺・百済・広瀬)
2. 広陵西小学校区 (六道山・大塚・安部・平尾・足相・三吉(赤部・大垣内・齊音寺)・笠)
3. 広陵北小学校区 (沢・大野・萱野・南・弁財天・的場・大場・中・寺戸)
4. 真美ヶ丘第一小学校区 (馬見南1~6丁目・みささぎ台)
5. 真美ヶ丘第二小学校区 (馬見北1~9丁目・馬見中1~5丁目)

問4 あなたは、配偶者またはパートナーがいますか。(○はひとつ)

1. いない 2. いる

問5 あなたの世帯構成は次のうちどれですか。(○はひとつ)

1. 一人暮らし 2. 配偶者またはパートナーのみ 3. 二世帯世帯（親と子）
4. 三世帯世帯（親と子と孫） 5. その他

問6 あなたのお子さんのうち一番下のお子さんの年齢はどれにあたりますか。(○はひとつ)

1. 子どもはいない 2. 就学前 3. 小学生
4. 中学生 5. 高校生以上の学生 6. 社会人（無職を含む）

問7 あなたは、収入を得る仕事をしていますか(パート、アルバイト等を含む)。(どちらかに○)

1. 仕事をしている 2. 仕事をしていない →問8へ

問7で「1. 仕事をしている」と回答した方にお聞きします。

問7-1 それは、どのような雇用形態ですか。(○はひとつ)

1. 正社員 2. 派遣社員、契約社員、嘱託社員
3. パート、アルバイト 4. 自営業（農林業等を含む）、会社経営
5. その他

問8 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか(パート、アルバイト等を含む)。(○はひとつ)

1. 仕事をしている 2. 仕事をしていない →問9へ
3. 配偶者またはパートナーがいない →問9へ

問8で「1. 仕事をしている」と回答した方にお聞きします。

問8-1 あなたの配偶者またはパートナーは、どのような雇用形態ですか。(○はひとつ)

1. 正社員 2. 派遣社員、契約社員、嘱託社員
3. パート、アルバイト 4. 自営業（農林業等を含む）、会社経営
5. その他

問9 あなたが、日頃の生活のなかで各活動に費やしている時間は1日のうちどれくらいですか。①から③のそれぞれについて時間をお書きください。1時間に満たない場合は分のみお書きください。また該当しない場合は、「-」を記入してください。

	仕事や学校のある日	休みの日・仕事や学校のない日
① 家事（炊事、買い物、洗濯、掃除等） ※買い物等の移動時間を含む。	時間 分	時間 分
② 育児・介護等 ※習い事・施設等の送迎時間を含む。	時間 分	時間 分
③ 仕事・学校 ※通勤・通学時間を含む。	時間 分	

2. あなたの仕事・生活についてお聞きします

問7で「2. 仕事をしていない」と回答した方にお聞きします。

※ 仕事をしている方は、問12へお進みください。

問10 あなたが、仕事をしていないのはどうしてですか。(○はいくつでも)

1. 家事や子育てのため 2. 看護や介護のため
3. 定年退職したため 4. 健康上の問題のため
5. 学生であるため 6. 休職中のため
7. 働く必要がないため
8. その他 ()

問11 あなたは、今後収入を得る仕事に就きたいと思いますか。(○はひとつ)

1. ぜひ仕事に就きたい 2. できれば仕事に就きたい
3. 仕事に就きたくない →問12へ 4. わからない →問12へ

問11で「1. ぜひ仕事に就きたい」「2. できれば仕事に就きたい」と回答した方にお聞きします。

問11-1 あなたが今後仕事に就く上で問題となることは何ですか。(○はいくつでも)

1. 希望する業務内容の募集がない 2. 勤務条件が合わない
3. 仕事を探す方法や窓口が分からない 4. 家族の理解や協力が得られない
5. 介護や子育てがある 6. 自分の能力や技能に不安がある
7. 自分の体力や健康に不安がある 8. 特に問題はない
9. その他 ()

問12 あなたは、女性が仕事を持つことについてどのようなようにお考えですか。(○はひとつ)

1. 仕事をもち、結婚や出産後も仕事を続ける方が良い 2. 結婚を機会に家庭に入り、あとは仕事を持たない方が良い 3. 出産を機会に家庭に入り、あとは仕事を持たない方が良い 4. 出産を機会に退職し、子どもが大きくなったら再び仕事を持っほうがいい 5. 女性は仕事を持たないほうがいい 6. その他 ()
--

問13 女性が仕事を続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 夫やパートナー、家族の理解、協力があること 2. 職場の理解や協力があること 3. 女性自身の意識改革 4. 保育、子育て施設の充実 5. 介護施設の充実 6. 育児や介護等、休業が取得しやすい職場環境であること 7. 育児や介護のため退職しても再雇用される制度があること 8. 仕事の上での悩み事を何でも相談できる場や窓口があること 9. その他 ()

問14 家庭におけるさまざまな役割について、おたずねします。あなたの家庭では以下のことからどのように分担していますか。①から⑫のそれぞれについて一番近いと思われる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)

※配偶者やパートナーのいない方は、問14-1へお進みください。

	主に男性が担う	どちらかといえれば男性が担う	男女が同じ程度	どちらかといえれば女性が担う	主に女性が担う	該当しない
①生活費の確保	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6
③料理	1	2	3	4	5	6
④食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
⑤掃除	1	2	3	4	5	6
⑥ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
⑦日常の買い物	1	2	3	4	5	6
⑧家計管理	1	2	3	4	5	6
⑨子どもの世話	1	2	3	4	5	6
⑩しつけ・教育	1	2	3	4	5	6
⑪介護	1	2	3	4	5	6
⑫地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問14-1 あなたは以下のことがらをどのように分担するのが良いと思いますか。①から⑫のそれぞれについて一番近いと思われる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)

※配偶者やパートナーのいない方も、次のことがどなたの役割だとお考えか、お答えください。

	主に男性が担う	どちらかといえれば男性が担う	男女が同じ程度	どちらかといえれば女性が担う	主に女性が担う
①生活費の確保	1	2	3	4	5
②洗濯	1	2	3	4	5
③料理	1	2	3	4	5
④食事の後片付け	1	2	3	4	5
⑤掃除	1	2	3	4	5
⑥ゴミ出し	1	2	3	4	5
⑦日常の買い物	1	2	3	4	5
⑧家計管理	1	2	3	4	5
⑨子どもの世話	1	2	3	4	5
⑩しつけ・教育	1	2	3	4	5
⑪介護	1	2	3	4	5
⑫地域活動への参加	1	2	3	4	5

問15 今後、男女が共同で、家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女が共同で家事に関わることに対する、男女それぞれの抵抗感をなくす 2. 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる 3. まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重する 4. 労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間の拡大をはかる 5. 男女が共同で家事等に関われるような啓発や情報提供を行う 6. 研修や講座の開催により、男女が共同で家事等に関われるように知識や技能を高める 7. 家事育児について男女ともに相談しやすい窓口を設ける 8. 特に必要なことはない 9. わからない 10. その他 ()
--

3.DVやハラスメントについてお聞きします

問16 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思えますか。(○はいそれ1つ)

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうではない場合もあると思う	暴力にあたる場合とは思わない
①なぐる、ける、物を投げる	1	2	3
②何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
③大声でどなる	1	2	3
④「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などの人格を否定するような言葉を言う	1	2	3
⑤なぐるふりをして、おどす	1	2	3
⑥いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
⑦見たくないのに性的な動画を見せる	1	2	3
⑧生活費を渡さない、働かせない	1	2	3
⑨交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3

問17 問16で聞いた項目は、すべて「DV」にあたる行為です。あなたは、配偶者・パートナーや恋人から、これらの行為をされたことがありますか。(○はひとつ)

1. されたことがある 2. されたことがない

問18 あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような行為を受け、不快と感じたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 年齢や見た目のことで傷つくようなことを言われる
2. 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる
3. 結婚や交際についてしつこく聞かれる
4. 体をさわられる・卑猥(ひわい)な話を聞かされる
5. 交際や性的行為を強要される
6. 権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)
7. 妊娠・出産を理由に嫌がらせや不当な扱いを受ける(マタニティ・ハラスメント)
8. 男性が育児のための制度を利用することに對して嫌がらせや不当な扱いを受ける(パタニティ・ハラスメント)
9. しつこくつきまとわれる(ストーカー行為)
10. 上記のような経験はない
11. その他 ()

問17・問18で「ある」と回答した方にお聞きします。

問18-1 あなたはだれが(どこか)に相談しましたか。(○はいくつでも)

1. 知人・友人 2. 親族 3. 行政の相談機関
 4. 民間の相談機関 5. 警察 6. 弁護士
 7. 相談しなかった・できなかった
 8. その他 ()

問18-2 相談しなかった理由は、次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1. どこに(誰に)相談すればよいか分からなかったから
2. 相談しても無駄だと思ったから
3. 相談したことがわかるとさらに暴力や暴言が増えると思ったから
4. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
5. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
6. 世間体が悪いから
7. そのことについて思い出し出たくなかったから
8. 自分にも悪いところがあると思ったから
9. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
10. 相談するほどのことではないと思ったから
11. 特に理由はない
12. その他 ()

4.男女共同参画に関する意識についてお聞きします

問19 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどのような思いですか。(○はひとつ)

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対	4. 反対

問20 あなたは、次にあげるような考え方についてどのように思いますか。①から③のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらか といえば そう思わない	そう 思わない
①妻や子どもを養うのは、男性の責任である	1	2	3	4
②子どもが3歳くらいまでは保育園等に入れず母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4
③男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい	1	2	3	4

問21 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(各項目○はひとつ)

①から⑧のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。(各項目○はひとつ)

	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	女性の方が 非常に優遇 されている
①家庭生活	1	2	3	4	5
②職場	1	2	3	4	5
③学校教育の場	1	2	3	4	5
④政治の場	1	2	3	4	5
⑤地域活動の場	1	2	3	4	5
⑥法律や制度上	1	2	3	4	5
⑦社会通念・習慣・しきたり等	1	2	3	4	5
⑧社会全体で	1	2	3	4	5

問22 LGBTQ(※)をはじめとする性的マイノリティにとって、現状は生活しやすい社会だと思いますか。(○は1つ)

1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない	4. そう思わない

→問23へ →問23へ

問22で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。
問22-1 どのようなことが生活しやすい社会にしていると思いますか。(○はいくつでも)

1. 家族、友人など周囲の人に相談できない
2. カミングアウト(※)後、周囲の理解が得られない・態度が変化する
3. いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける
4. 住居選択において偏見・差別がある
5. 医療の場において偏見・差別がある
6. 就職・就業において偏見・差別がある
7. 福利厚生において偏見・差別がある
8. 自認する性と異なるふるまひや服装などを強要される
9. 自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)
10. 夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない
11. 性的マイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない
12. 行政機関などの相談・支援体制が不十分である
13. 性別の記入を求められる書類が多い
14. その他()

※LGBTQ(エルジーブィーティーキュー)とは……以下の頭文字をつなげた言葉。性的少数者のこと。
Lesbian(レズビアン)……… 女性が恋愛対象になる女性
Gay(ゲイ)……… 男性が恋愛対象になる男性
Bisexual(バイセクシャル)……… 相手の性別によって恋愛対象になる人
Transgender(トランスジェンダー)……… 心の性別と身体の性別が異なる人
Questioning(クエスチョニング)……… 自分の性別や性的指向が定まらないか、決めている人

※カミングアウトとは……自らの性的指向や性自認などを、自ら他者に打ち明けること。

問23 あなたは、性別または見た目の性別が、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない →問24へ 3. わからない →問24へ

問23で「1. ある」と回答した方にお願します。

問23-1 それは、どのようなときに感じましたか。(○はいくつでも)

1. なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる
2. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
3. 仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい
4. 「家族を1人で養わなくてはならない」と言われる
5. 「酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる
6. 仕事の責任が大きい、仕事ができなくて当たり前と言われる
7. 責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない
8. 家事、育児ができなくて当たり前と言われる
9. やさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる
10. その他 ()

問24 災害時においては、女性や子どものプライバシーの確保、高齢者への配慮が足りなくなると指摘されています。性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 防災に関する会議の女性委員の割合を増やす
2. 男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施
3. 性別や年齢にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施
4. 男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニユアルの作成・配布
5. 地域で防災活動に参加する女性リーダーの養成
6. 日頃から性別や年齢にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める
7. 特に必要なことはない
8. その他 ()

問25 あなたは、今後「男女共同参画社会」を実現するために、行政がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 法律や制度の見直し
2. 審議会委員等、政策決定の場への女性の積極的な登用
3. 民間企業や団体等の管理職に女性の登用が進むような支援
4. 相談の場の提供
5. 保育サービスの充実
6. 介護サービスの充実
7. 男女共同参画に関する学習機会の充実
8. 労働時間の短縮や在宅勤務等、働き方の見直し
9. 子育てや介護等であっても仕事が続けられるような支援
10. 子育てや介護等といったん仕事を辞めた人の再就職の支援
11. 男女共同参画に関するPRや広報の充実
12. 特にない
13. その他 ()

その他 男女共同参画に関するあなたの考えを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。
記入いただきました調査票を3つ折りにして、同封した返送用封筒に入れ、
9月2日(金)までに投函をお願いいたします(切手を貼る必要はありません)。